

14. 5-93



14.5
3



始



史料第二十四輯

朝鮮の災害

朝鮮總督府



調査資料第二十四輯

鮮の災害

朝鮮總督府



寄贈本

14.5-93

序

本書は囑託善生永助をして、朝鮮に於ける各種の災害に就き、其の歴史、被害状況、善後始末等に關する一切の資料を蒐集して編纂せしめたるものに係り、執務上の参考に資するを主眼としたる爲め、努めて説明を簡短ならしめ、記事に關係ある數種の地圖及び圖表をも添附してある。

昭和三年八月

朝鮮總督官房總務課長 中村寅之助

附編 縣官 縣誌 縣誌 中林定之

昭和三年八月

此圖表も亦添補したる。
 諸州を簡説するに、各州の關係ある、或縣の此圖又
 韓蘇上のなきに資するを主眼としたる、或は、或は、
 一世の資料を蒐集した、縣誌を、或は、或は、
 災害の豫め、其の類史、或は、或は、
 本書の調査、其の類史、或は、或は、

目次

調査資料
第二十四輯

朝鮮の災害

目次

| | |
|----------------|----|
| 第一章 災害と氣象…………… | 一頁 |
| 地勢と氣象の關係…………… | 一 |
| 第二章 災害の記録…………… | 一九 |
| 早害及び饑飢…………… | 二一 |
| 洪水…………… | 三六 |
| 暴風…………… | 五四 |
| 地震…………… | 六三 |
| 霜害…………… | 八二 |
| 雹害…………… | 八七 |
| 火災…………… | 八九 |

目次

第三章 災害の程度

農作物被害.....101

水害.....115

林野被害.....120

船舶遭難.....131

旱害.....134

火災.....137

第四章 災害の影響

荒地面積.....147

災害費、災害救済費.....149

地方土木費.....152

地方土木費國庫補助.....157

損害保険.....161

災害と貧困者.....164

第五章 災害の救済

災害救済制度.....181

大正八年の旱害救済.....190

大正十四年の水害救済.....215

地 圖

高度及溫度

山系及河系

圖 表

最近五箇年間農作物被害見積額比較.....101

農作物被害見積額及被害種別(昭和元年).....110

最近十箇年間水害被害額種別及年次別比較.....126

大正十四年水害被害額並に氾濫區域面積比較.....128

昭和元年度種類別森林被害高.....130

最近五箇年間森林被害比較.....134

大正十三年旱害主要農作物被害面積.....134

| | |
|---------------------------|-----|
| 火災による損害見積額比較及び火災原因別 | 一三八 |
| 火災による損害見積額及び火災件数道別 | 一四〇 |
| 月別火災件数損害見積額及び火災原因別 | 一四四 |
| 朝鮮總督府特別會計歳出災害費及び災害救済費累年比較 | 一五〇 |
| 道地方費歳出災害費及び災害救済費二箇年比較 | 一五五 |

調査資料 朝鮮の災害

はしがき

朝鮮總督府囑託 善 生 永 助

本書は題して「朝鮮の災害」と謂ふも、その記述の範圍は、主として氣象の異常に基きて起りたる自然災害、即ち地震、洪水、暴風、旱魃、降霜、降雹、蝗に因る被害、及び林野災害、並に火災に限り、工業上の災害たる鑛山、炭坑、工場、電氣、瓦斯事業、土木工事に基く災害、並に鐵道、索道、隧道、電車、自動車、船舶等に於ける交通事故、及び暴行または不注意に因る殺人、傷害、死亡、癱疾に關する人命上の災害に就いては一切觸れて居らぬことを斷つて置かねばならぬ。云ふ迄もなく、朝鮮に於ける災害の最も大なるものは、水害と旱害にして、これに亞ぐものは暴風被害であり、林野被害と火災に因る損害もまた相當に大なるものである。年々これ等の災害の爲めに受くる、財政經濟上の損失は實に莫大なるものであるが、殊に水害並に旱害は、近年の例に徴するも被害の範圍頗る廣大に亘り、罹災者の窮狀言語に絶するものがある。

はしがき

以上の諸災害中には、地勢上及び氣象上必然免れ難きものもあるが、治山、治水、水利事業の完成を計るに於ては、旱害及び水害の如きは、或る程度迄はこれを防止し、若くはその被害を緩和し得べく、また民度の向上と消防設備の進歩に依りて、林野被害及び火災の減少を見ることも困難でない。然しながら既に災害の發生したる以上は、その防止、復舊、救済等に就いて臨機應變の對策を講せねばならぬ。而してこれ等の施設計畫を爲すに當りては、先づ過去に於ける災害の記録を參考とすることが必要であらう。本書は不完全ながらその要求に應せんが爲め、古今の資料を整理按排して編纂したものである。主として自然災害のみに重きを置き、他の工業上及び交通上の災害を取扱はざりしは、決してこれを閑却したるに非ずして、未だ朝鮮に於ては、工業の發達幼稚なると、交通機關の普及不十分なる結果、この種災害に關し特に記述する程の重要な事故の少い爲めである。本書の編纂に當りては各種の文獻及び資料を參考としたが、その重なるものを左に擧げて置く。

| | | | | |
|------------|----------|--------------|--------|----------|
| 三國史記 | 高麗史 | 李朝實錄 | 東國通鑑 | 海東釋史 |
| 東國紀年 | 東史年表 | 增補文獻備考 | 各地方邑誌 | 古代觀測記錄 |
| 昭和三年曆 | 日用便覽 | 近年に於ける朝鮮の風水害 | 朝鮮の洪水 | 大正八年旱害誌 |
| 大正十三年旱害調査書 | 大正十四年水害誌 | 農作物被害調査書 | 森林被害統計 | 朝鮮社會事業要覽 |
| 朝鮮總督府統計年報 | 朝鮮の契 | 火田の現狀 | 朝鮮の物産 | 朝鮮の市場 |
| 朝鮮の人口現象 | 朝鮮の犯罪と環境 | | | |

第一章 災害と氣象

災害の消長は氣象と最も深い關係を有して居るから、以下少しく朝鮮の氣象に就いて説明するが、氣象を述べるに當りては先づ大體の地勢を見ねばならぬ。朝鮮は亞細亞大陸の東部に斗出せる一大半島にして、東經百二十四度一分より百三十度五十六分二十三秒、北緯三十三度六分四十秒より四十三度三十六秒の間に位置し、その總面積は一萬四千三百二十二方里に及び、本州と略ぼ伯仲の間にある。東は日本海に面し、西は黃海に臨み、南は朝鮮海峽を隔て、九州及び中國と對し、北は鴨綠江及び豆滿江に依りて滿洲及び露領に界して居る。東部海岸は概して良港に乏しく、僅に元山、城津、清津、雄基等を數ふるに過ぎないが、南部及び西部海岸は大小の島嶼散在し、幾多の岬灣出入して良港を形成し、就中、釜山、木浦、群山、仁川、鎮南浦等は著名なるものである。朝鮮の地勢は、蜿蜒たる長白山脈が東北より西南に連りて北方の國境を擁し、その一脈は南に延び、平安南北道及び咸鏡南北道の境を劃して江原道に入り、東海岸線に沿ひて南に走り、以て半島の脊梁を成して居る。この脊梁脈以東の地は斜面急峻にして、大川、平野は少いが、その以西は比較的傾斜緩漫で、處々に平野開け、鴨綠江、洛東江、大同江、漢江、錦江、蟾津江の六大江を始め大小の河川多く、舟楫の便と灌漑の利に富んで居る。造林、治水事業未だ完からざる爲め、屢々洪水旱魃の害を蒙ることあるも、地味概し

て肥沃なる爲め農業に適し、米、麥、豆類、雜穀、人蔘、棉花、煙草、繭、麻、蔬菜、果實等の農産物に富み、また牛、木材、鑛物等をも産し、沿海は魚族その他の水産物が極めて豊富である。

朝鮮の地勢は右の如きを以て、或は大陸的氣象に左右せられ、或は海洋の影響を受け、氣象上自ら特異な現象を示して居る。試みに氣壓に就いて見るに、年平均氣壓の最も高いのは龍巖浦の七六二・八にして、漢口及び旅順の七六二・九と略ぼ等しく、高山の七六二・〇、吳、福岡の七六一・八より高く、その最も低い江陵の七六一・三は、長春の七六一・五より稍低く、敦賀、金澤、長野と相等しいのである。

朝鮮に於ける年平均氣温は、南部海岸は攝氏十三度餘にして、北進するに従ひて次第に遞減し、中央部京仁地方は十度内外なるも、國境内陸に入れば四度乃至三度に降る。また東部沿岸地方は西部海岸地方に比すると氣候溫和にして、夏季を除けば約二度内外高温なるを常として居るが、これは西部海岸は冬季北西の季節風多きも、東部海岸は脊梁山脈のために風勢微弱と爲り、且つ海水温度が暖流の影響を受けて西部海岸に比し高温なるに因るのである。

年平均氣温の最高は釜山の二三・五で、福井と同温度を示し、京都の二三・八に近く、濟南の一四・七よりは遙かに低く、最低は中江鎮の三・五で、長春の四・四、眞岡の三・八と大差ないのである。毎日最高氣温の平均では年一八・一の大邱が第一位で、天津の一七・八より稍高く、彦根とは同温度、銚子

飯田の各一八・〇に略ぼ等しい。毎日最低氣温の最も低いのは雄基の年平均二・三で、滿洲に於ける營口の三・一、奉天の一・三、北海道に於ける羽幌の二・七、根室の二・〇の各中間に當つてゐる。一般に朝鮮の寒氣は南北に於て大差あるも、暑氣はその差が極めて少い。即ち酷暑期たる一月の日々の最低氣温平均では、中江鎮の零下二八・九と、釜山の零下二・六とで、二七・三の大差あるに反し、酷暑期たる八月の日々最高氣温平均は大邱の三一・一を最高とし、雄基の二二・八を最低とし、その間僅に八・三の差あるに過ぎない。一年を通じて最も暑い八月と、最も寒い一月の兩月中の最高最低温度を取つて、これを支那及び内地と比較すると、八月中の最高温度たる大邱の三六・一は濟南の三六・四、上海の三五・八の間であり、内地で最も高い京都の三五・四、甲府、大阪の三五・三に比して稍高温となるに過ぎないが、一月中の最低温度たる中江鎮の零下三七・六は、長春の零下三一・二、落合の零下三六・一、敷香の零下三三・四に對して著しく低いことを示して居る。

各地の湿度は大體に於て平均してゐるが、潮流の影響を受けることの大なる木浦の七六が稍高く、漢口、高知、津、長野、福島と相等しいが、これを内地に於て最も湿度の高い豊岡、及び樺太大泊の各八三と比較すると大差あるを窺ひ得る。湿度の低いのは雄基の六五で、大連の六六、奉天の六四と匹敵し、内地の最も湿度の低い神戸の七一、前橋、室戸の七二に對して遙かに低く、一般に朝鮮が空氣の乾燥して居り、湿度の低いことがわかる。

降水日数は中江鎮の一三八・〇が最も多く、上海の一三三・八と略ぼ等しい。雨の少ない満洲では長春の一〇七・九を除いて年百日を越ゆる地方なきも、これに反して内地では概して降水日数多く、僅に甲府の一三一・八、大分の二三八・一、大阪の一三八・三の如きが、最も降水日数の少ない地方で、名瀬の如きは年二三七・四に達してゐる。朝鮮を通じて降水日数の最も少ないのは大邱の九八・二で、奉天の九一・二と稍近い、降水總量では釜山の一四三〇が最大で吳の一四六一、筑波の一四一六と近く、降水量の最も少ない雄基の六八五は、滿洲で降水量の最も多い長春の六六六と、樺太で降水量の最も少ない大泊の七四一の間にわたつてゐる。朝鮮に於ては雨の降る季節と雨の降らぬ季節即ち乾燥季節とは截然たる區別あり、降雨が一箇年中の或る季節に偏して居り、降雨季節は六、七、八の三箇月にして、その前後の五月及び九月も雨量の多い月であるが、この兩月の雨量は年により非常の變動あるを常とし、確實に降雨のあるのは六月以後である。また南部は四月から降雨の季節が始まり、全鮮を通じ降雨の最盛時期は南方は七月、北方は七、八月の間、東岸地方の北部は時として九月に涉ることがある。大體に於て一箇年の降雨量の七割位は降雨期に降り、他の三割位は、十月より翌年三、四月に至る乾燥期に降る割合になつて居る。斯くの如く降雨季節が一定して居る故に、一箇年の雨量に於ては内地の各地方に譲るも、降雨期の雨量を同じ期間の内地の雨量に比すると決して劣つて居ない。朝鮮の降雨期には豪雨珍しからず、従つて洪水の害を被ることも極めて多いのである。

快晴日数では龍巖浦の一〇四日が最も多く、内地で快晴日数の多い高知の五九日、東京の五六日に對して著しき差があるが、それでも天津の一三七日に對しては遙かに少く、長春の一〇八日と相接近してゐる。快晴日数の最も少ないのは木浦の四九日で、大阪の四四日、名古屋の五五日、鹿兒島の五四日と略ぼ近い。朝鮮近海は到る處濃霧を發生し、殊に多島海附近より西部近海に多い。これ等地方の濃霧も沿岸に近づくに従つて減少し、内地に入りては殆んど皆無となる。冬季には概して濃霧を見ないが初春より晩春初夏にかけて最も盛んである。一年間の霧日数の最も多いのは仁川の年平均四一日で、これに亞ぐは雄基の三九日であるが、内地には斯くの如き霧日数の多い地方はなく、この霧日数は大泊の三八日、青島の六一日の間にあり、江陵の六日は最も霧日数の少ない方にして、奉天の六日、天津の七日、高知の六日、廣島、京都の各七日と相並ぶのである。

暴風日数の最も多いのは雄基の二二九日にして、大連の二二二日より多く、これに亞ぐは木浦の一七八日で、長春の一六九日、長崎の一六〇日、及び青島の一九七日、大泊の一九二日の中間にある。而して全鮮中暴風日数の最も少ない平壤、京城の各十八日は、下關の十七日、函館の十五日と相距ることが遠くない。由來朝鮮地方に襲來する低氣壓は、一は支那北部又は西伯利亞方面に發生するもの、他は支那中部楊子江流域地方に發生するもので、共に大體西方から東方に移動し、大陸の何處かに發生した低氣壓は朝鮮を過ぎて内地方面に向ふのである。而して第一種の北方に發生する低氣壓は主に

毎日最高気温の平均

| 測候所 | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 年 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 雄基 | 19.4 | 26.4 | 31.6 | 35.3 | 39.7 | 44.6 | 49.4 | 52.4 | 56.5 | 60.1 | 64.8 | 66.3 | 56.3 |
| 龍巖浦 | 23.7 | 31.0 | 37.7 | 42.7 | 48.8 | 53.6 | 57.7 | 61.9 | 65.3 | 69.3 | 73.3 | 77.3 | 63.9 |
| 平壤 | 22.9 | 30.4 | 36.3 | 41.5 | 47.5 | 52.4 | 56.6 | 60.1 | 63.3 | 67.3 | 71.3 | 75.3 | 61.6 |
| 木浦 | 25.5 | 33.0 | 39.0 | 44.4 | 50.0 | 54.8 | 58.3 | 61.3 | 64.5 | 68.0 | 71.5 | 75.0 | 61.6 |
| 仁川 | 20.5 | 28.2 | 34.2 | 39.4 | 45.3 | 50.1 | 53.9 | 57.6 | 60.5 | 64.0 | 67.5 | 71.0 | 57.0 |
| 中江鎮 | 22.3 | 30.0 | 36.0 | 41.3 | 47.1 | 52.0 | 55.8 | 59.5 | 62.4 | 65.3 | 68.3 | 71.3 | 57.0 |
| 京城 | 0.2 | 8.1 | 14.4 | 19.7 | 25.1 | 30.7 | 36.8 | 42.3 | 48.0 | 53.5 | 59.0 | 64.5 | 50.0 |
| 全州 | 2.8 | 10.4 | 16.4 | 21.8 | 27.0 | 32.4 | 38.0 | 43.7 | 49.3 | 54.6 | 60.0 | 65.3 | 50.0 |
| 元山 | 1.3 | 9.2 | 15.2 | 20.6 | 25.8 | 31.0 | 36.6 | 42.3 | 47.9 | 53.2 | 58.6 | 64.0 | 48.1 |
| 大邱 | 3.8 | 11.4 | 17.4 | 22.8 | 28.0 | 33.4 | 39.0 | 44.7 | 50.3 | 55.6 | 61.0 | 66.3 | 51.1 |
| 江陵 | 3.7 | 11.4 | 17.4 | 22.8 | 28.0 | 33.4 | 39.0 | 44.7 | 50.3 | 55.6 | 61.0 | 66.3 | 51.1 |
| 釜山 | 6.4 | 14.0 | 20.0 | 25.4 | 30.6 | 36.0 | 41.7 | 47.3 | 52.9 | 58.2 | 63.6 | 69.0 | 54.8 |
| 京城 | 0.6 | 8.8 | 15.0 | 20.4 | 25.6 | 31.0 | 36.7 | 42.3 | 47.9 | 53.2 | 58.6 | 64.0 | 48.1 |
| 雄基 | 5.4 | 13.1 | 19.1 | 24.5 | 29.7 | 35.1 | 40.7 | 46.3 | 51.9 | 57.2 | 62.6 | 68.0 | 53.4 |

毎日最低気温の平均

| 測候所 | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 年 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 龍巖浦 | 13.3 | 10.8 | 7.9 | 3.3 | 9.6 | 15.5 | 20.1 | 24.1 | 28.4 | 32.7 | 36.7 | 40.5 | 24.0 |
| 平壤 | 13.3 | 10.8 | 7.9 | 3.3 | 9.6 | 15.5 | 20.1 | 24.1 | 28.4 | 32.7 | 36.7 | 40.5 | 24.0 |
| 木浦 | 11.8 | 8.6 | 5.5 | 0.8 | 6.3 | 12.2 | 17.7 | 22.6 | 27.0 | 31.3 | 35.3 | 39.1 | 21.7 |
| 仁川 | 7.0 | 3.5 | 0.8 | -3.7 | 1.5 | 7.4 | 12.9 | 17.8 | 22.2 | 26.5 | 30.5 | 34.3 | 17.1 |
| 中江鎮 | 26.9 | 24.0 | 21.8 | 18.3 | 14.3 | 10.3 | 6.3 | 2.3 | -1.7 | -5.7 | -9.7 | -13.7 | 2.9 |
| 京城 | 9.4 | 6.7 | 4.0 | -0.4 | 4.8 | 10.3 | 15.8 | 20.7 | 25.1 | 29.5 | 33.9 | 38.3 | 19.9 |
| 全州 | 5.8 | 2.4 | -0.4 | -3.8 | 1.4 | 6.9 | 12.4 | 17.3 | 21.7 | 26.1 | 30.5 | 34.9 | 17.4 |
| 元山 | 7.7 | 4.8 | 2.1 | -1.4 | 3.6 | 9.1 | 14.6 | 19.5 | 23.9 | 28.3 | 32.7 | 37.1 | 17.9 |
| 大邱 | 6.2 | 3.3 | 0.6 | -2.8 | 2.2 | 7.7 | 13.2 | 18.1 | 22.5 | 26.9 | 31.3 | 35.7 | 18.0 |
| 江陵 | 5.1 | 2.2 | -0.5 | -3.9 | 1.1 | 6.6 | 12.1 | 17.0 | 21.4 | 25.8 | 30.2 | 34.6 | 17.1 |
| 釜山 | 1.6 | -1.8 | -4.8 | -7.8 | -2.8 | 2.7 | 8.2 | 13.1 | 17.5 | 21.9 | 26.3 | 30.7 | 16.8 |
| 京城 | 10.8 | 8.1 | 5.4 | 2.7 | -0.9 | 4.6 | 10.1 | 15.6 | 20.5 | 24.9 | 29.3 | 33.7 | 19.2 |
| 雄基 | 13.4 | 10.5 | 7.6 | 3.0 | 8.5 | 14.4 | 19.9 | 25.4 | 30.9 | 36.4 | 41.9 | 47.4 | 22.3 |

気温の月中及び年中最高の平均

第一章 災害と氣象

氣温の月中及び年中最低の平均

| 測候所 | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 年 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 雄基 | 1.7 | 5.4 | 10.1 | 18.1 | 23.9 | 28.4 | 31.7 | 30.8 | 26.2 | 23.3 | 13.2 | 7.3 | 33.2 |
| 城津 | 5.2 | 6.7 | 13.7 | 23.9 | 25.8 | 27.7 | 30.8 | 30.5 | 26.8 | 23.7 | 17.2 | 9.0 | 33.2 |
| 釜山 | 11.2 | 13.2 | 19.8 | 26.6 | 30.6 | 33.0 | 34.9 | 34.7 | 30.8 | 25.3 | 15.5 | 10.0 | 35.7 |
| 江陵 | 11.1 | 13.2 | 19.8 | 26.6 | 30.6 | 33.0 | 34.9 | 34.7 | 30.8 | 25.3 | 15.5 | 10.0 | 35.7 |
| 大邱 | 10.7 | 13.9 | 19.8 | 26.3 | 30.5 | 33.5 | 35.7 | 35.1 | 31.6 | 26.4 | 17.7 | 13.7 | 35.7 |
| 元山 | 8.3 | 10.3 | 16.7 | 25.9 | 30.8 | 33.7 | 35.9 | 34.6 | 30.3 | 24.8 | 19.0 | 11.3 | 35.7 |
| 全州 | 10.9 | 13.7 | 19.6 | 25.0 | 29.2 | 33.9 | 35.5 | 34.8 | 31.3 | 26.0 | 17.1 | 13.1 | 35.1 |
| 龍巖浦 | 3.5 | 19.2 | 19.2 | 19.9 | 22.4 | 24.3 | 26.6 | 25.4 | 26.6 | 19.5 | 10.8 | 19.1 | 33.2 |
| 平壤 | 3.2 | 18.3 | 10.5 | 22.2 | 24.6 | 26.6 | 25.9 | 25.7 | 27.4 | 19.7 | 10.7 | 18.5 | 33.8 |
| 木浦 | 8.1 | 6.9 | 3.4 | 1.9 | 4.2 | 3.9 | 2.1 | 2.0 | 3.5 | 6.7 | 1.0 | 6.1 | 9.4 |
| 仁川 | 14.8 | 13.7 | 7.1 | 0.4 | 7.3 | 3.4 | 2.6 | 1.7 | 2.3 | 3.2 | 6.4 | 3.4 | 16.1 |
| 中江鎮 | 16.6 | 13.0 | 15.9 | 7.1 | 1.0 | 6.0 | 2.7 | 1.0 | 0.7 | 7.4 | 2.1 | 3.5 | 16.3 |
| 京城 | 18.0 | 14.6 | 8.7 | 1.4 | 5.3 | 2.5 | 1.6 | 1.7 | 8.8 | 0.4 | 8.1 | 15.9 | 19.0 |
| 全州 | 13.5 | 12.7 | 6.5 | 1.5 | 6.3 | 2.7 | 1.7 | 1.2 | 9.0 | 0.9 | 5.4 | 11.2 | 13.4 |
| 元山 | 15.6 | 14.6 | 8.7 | 1.4 | 4.0 | 1.1 | 1.4 | 1.5 | 8.7 | 1.4 | 6.9 | 13.7 | 17.0 |
| 大邱 | 13.9 | 12.2 | 6.2 | 0.3 | 5.8 | 2.2 | 1.6 | 1.2 | 1.6 | 1.6 | 5.0 | 10.4 | 13.8 |
| 江陵 | 13.7 | 11.0 | 6.6 | 0.5 | 4.6 | 2.1 | 1.5 | 1.1 | 1.6 | 1.6 | 4.5 | 10.4 | 13.8 |
| 釜山 | 8.6 | 7.5 | 3.6 | 2.3 | 7.8 | 2.9 | 1.6 | 1.1 | 1.3 | 5.6 | 1.5 | 6.8 | 10.0 |

平均湿度表

| 測候所 | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 年 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|------|------|------|
| 雄基 | 70.0 | 76.3 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 城津 | 71.9 | 77.1 | 82.3 | 83.1 | 82.8 | 82.2 | 81.5 | 81.6 | 80.0 | 70.1 | 61.4 | 54.4 | 73.4 |
| 釜山 | 77.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 江陵 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 大邱 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 元山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 全州 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 龍巖浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 平壤 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 木浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 仁川 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 中江鎮 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 京城 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 全州 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 元山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 大邱 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 江陵 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 釜山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 龍巖浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 平壤 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 木浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 仁川 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 中江鎮 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 京城 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 全州 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 元山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 大邱 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 江陵 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 釜山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 龍巖浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 平壤 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 木浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 仁川 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 中江鎮 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 京城 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 全州 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 元山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 大邱 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 江陵 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 釜山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 龍巖浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 平壤 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 木浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 仁川 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 中江鎮 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 京城 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 全州 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 元山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 大邱 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 江陵 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 釜山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 龍巖浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 平壤 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 木浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 仁川 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 中江鎮 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 京城 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 全州 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 元山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 大邱 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 江陵 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 釜山 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 龍巖浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 平壤 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0 | 41.8 | 36.1 | 73.4 |
| 木浦 | 75.0 | 80.0 | 83.1 | 84.3 | 81.3 | 76.4 | 71.9 | 73.4 | 61.1 | 51.0</ | | | |

| 測候所 | 降水量 | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
| 京城 | 六三 | 四四 | 六六 | 七三 | 八六 | 九八 | 一五二 | 一三七 | 一八八 | 七三 | 八七 | 七三 |
| 全州 | 二七 | 四四 | 六六 | 七三 | 八六 | 九八 | 一五二 | 一三七 | 一八八 | 七三 | 八七 | 七三 |
| 仁川 | 七五 | 五三 | 六一 | 八〇 | 八九 | 九七 | 一四四 | 一五五 | 一〇四 | 七四 | 一一三 | 一〇三 |
| 中江鎮 | 八〇 | 六八 | 九四 | 一一八 | 一五八 | 一四七 | 一七一 | 一四七 | 一三〇 | 九二 | 八七 | 一〇四 |
| 京州 | 七六 | 六三 | 七六 | 八三 | 九七 | 一〇七 | 一六〇 | 一三七 | 九五 | 六五 | 九七 | 一〇四 |
| 元山 | 九四 | 九三 | 八三 | 九七 | 一〇一 | 一〇六 | 一五九 | 一三七 | 九〇 | 七一 | 九〇 | 一〇四 |
| 大邱 | 六五 | 五九 | 七三 | 八三 | 一〇六 | 一二六 | 一八二 | 一六三 | 九〇 | 七一 | 一一一 | 一〇四 |
| 江陵 | 七二 | 七七 | 八五 | 九〇 | 一一四 | 一二五 | 一四八 | 一六三 | 一一九 | 九〇 | 七一 | 一〇四 |
| 釜山 | 六三 | 五五 | 八九 | 九九 | 九〇 | 一二二 | 一四八 | 一六三 | 一一九 | 九七 | 七一 | 一〇四 |
| 雄基 | 九一 | 六四 | 六五 | 六二 | 一〇〇 | 一二七 | 一四二 | 一四九 | 九〇 | 七四 | 六六 | 一〇四 |
| 測候所 | 三三 | 二二 | 三三 | 四一 | 六二 | 八二 | 一〇九 | 一三六 | 一六三 | 一九〇 | 二一九 | 二二六 |
| 龍巖浦 | 一五 | 一四 | 一七 | 二五 | 三三 | 三九 | 五五 | 七〇 | 八五 | 一〇〇 | 一二五 | 一五〇 |
| 平壤 | 四〇 | 三五 | 三七 | 四四 | 五三 | 五九 | 七五 | 九〇 | 一〇五 | 一二〇 | 一四五 | 一七〇 |
| 木浦 | 四〇 | 三五 | 三七 | 四四 | 五三 | 五九 | 七五 | 九〇 | 一〇五 | 一二〇 | 一四五 | 一七〇 |
| 仁川 | 一九 | 一九 | 二〇 | 二五 | 三〇 | 三五 | 四〇 | 四五 | 五〇 | 五五 | 六〇 | 六五 |
| 中江鎮 | 二三 | 二二 | 二三 | 二八 | 三三 | 三九 | 四五 | 五〇 | 五五 | 六〇 | 六五 | 七〇 |

快晴日數

| 測候所 | 快晴日數 | | | | | | | | | | | |
|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
| 京城 | 一四 | 一〇 | 七 | 四 | 二 | 二 | 一 | 三 | 六 | 七 | 九 | 三 |
| 全州 | 一四 | 一〇 | 七 | 四 | 二 | 二 | 一 | 三 | 六 | 七 | 九 | 三 |
| 仁川 | 三三 | 二〇 | 一〇 | 七 | 三 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 中江鎮 | 三三 | 二〇 | 一〇 | 七 | 三 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 京州 | 二二 | 一〇 | 七 | 三 | 二 | 二 | 一 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 元山 | 二二 | 一〇 | 七 | 三 | 二 | 二 | 一 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 大邱 | 二二 | 一〇 | 七 | 三 | 二 | 二 | 一 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 江陵 | 二二 | 一〇 | 七 | 三 | 二 | 二 | 一 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 釜山 | 二二 | 一〇 | 七 | 三 | 二 | 二 | 一 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 雄基 | 二二 | 一〇 | 七 | 三 | 二 | 二 | 一 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 測候所 | 一四 | 一〇 | 七 | 四 | 二 | 二 | 一 | 三 | 六 | 七 | 九 | 三 |
| 龍巖浦 | 一五 | 一〇 | 七 | 四 | 二 | 二 | 一 | 三 | 六 | 七 | 九 | 三 |
| 平壤 | 一五 | 一〇 | 七 | 四 | 二 | 二 | 一 | 三 | 六 | 七 | 九 | 三 |
| 木浦 | 一五 | 一〇 | 七 | 四 | 二 | 二 | 一 | 三 | 六 | 七 | 九 | 三 |
| 仁川 | 一五 | 一〇 | 七 | 四 | 二 | 二 | 一 | 三 | 六 | 七 | 九 | 三 |
| 中江鎮 | 一五 | 一〇 | 七 | 四 | 二 | 二 | 一 | 三 | 六 | 七 | 九 | 三 |

| 測候所 | 朝鮮の災害 | | | | | | | | | | | |
|-----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
| 雄基 | 0 | 1 | 2 | 5 | 8 | 10 | 12 | 11 | 10 | 1 | 1 | 1 |
| 中江 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 龍巖 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 7 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 元山 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 4 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 平壤 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 江陵 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 京城 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 仁川 | 1 | 1 | 3 | 1 | 5 | 1 | 10 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 大邱 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 全州 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 釜山 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 木浦 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 合計 | 18 | 11 | 14 | 16 | 22 | 24 | 47 | 27 | 12 | 12 | 17 | 18 |

暴風日數 (大正十三年迄の舊法による)

| 測候所 | 暴風日數 | | | | | | | | | | | |
|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
| 雄基 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 中江 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 龍巖 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 元山 | 3 | 7 | 8 | 8 | 8 | 10 | 8 | 5 | 3 | 2 | 1 | 2 |
| 平壤 | 1 | 2 | 3 | 3 | 2 | 1 | 2 | 3 | 4 | 2 | 2 | 2 |
| 江陵 | 1 | 3 | 2 | 2 | 1 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 京城 | 1 | 3 | 3 | 2 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 仁川 | 6 | 4 | 6 | 5 | 4 | 4 | 10 | 9 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 大邱 | 8 | 8 | 10 | 10 | 14 | 9 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 全州 | 3 | 3 | 4 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 釜山 | 3 | 5 | 4 | 4 | 6 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 木浦 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 合計 | 26 | 33 | 38 | 38 | 48 | 38 | 47 | 33 | 18 | 12 | 17 | 18 |

一、以上氣候表は中央氣象臺並に各地測候所に於ける累年の觀測成績に據り、中央氣象臺に於て調製したものである。表中氣壓(海面及び重力を更正した)及び降水量は耗、氣温は攝氏の度、湿度は百分率を以て示す。

二、統計に用ひた年數は、各測候所創立以來大正十四年に至る年期である。其年數及び各測候所の高さ(晴雨計の高さは次に依る)は次表の通りである。

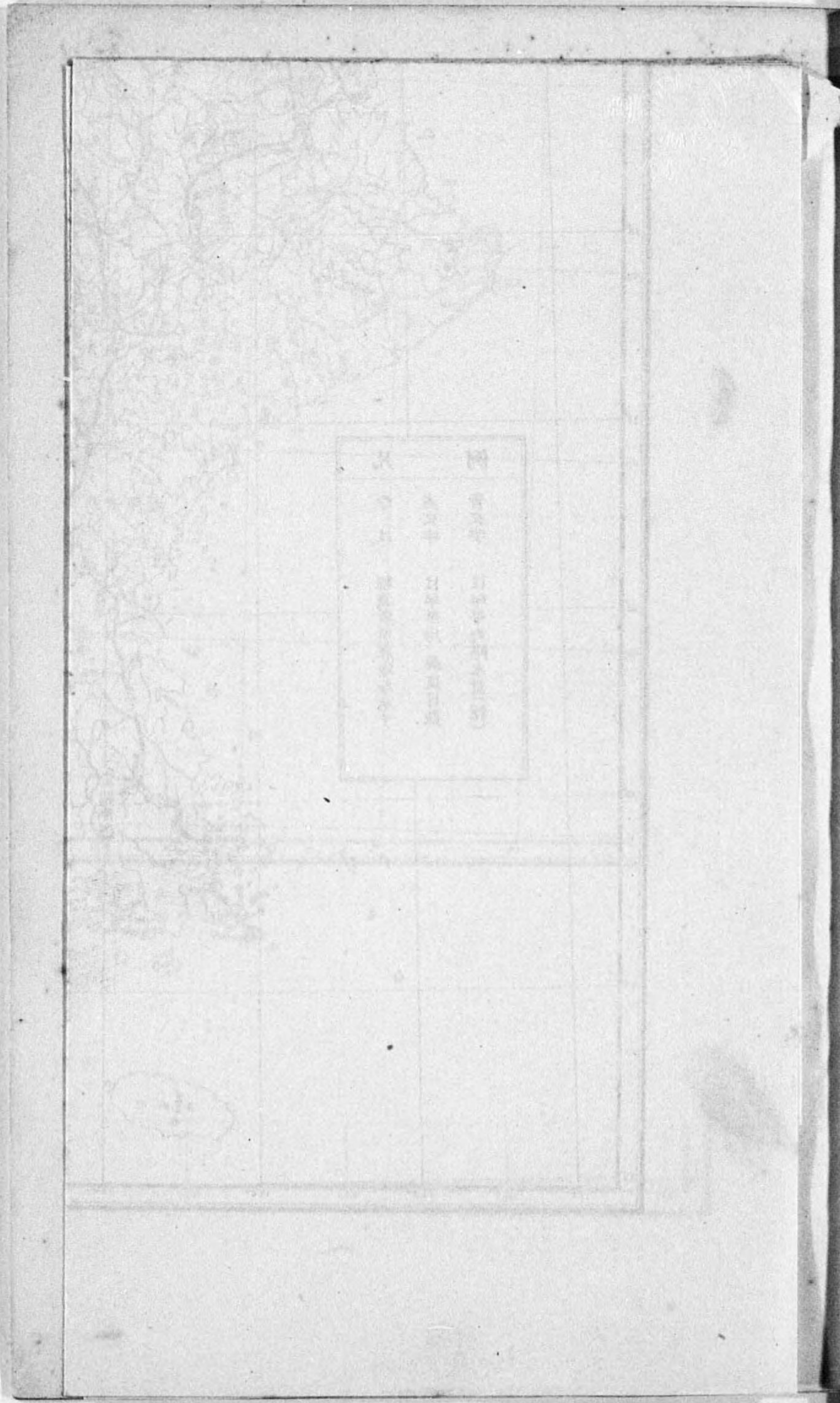
朝鮮の災害と統計

海面上の高さ

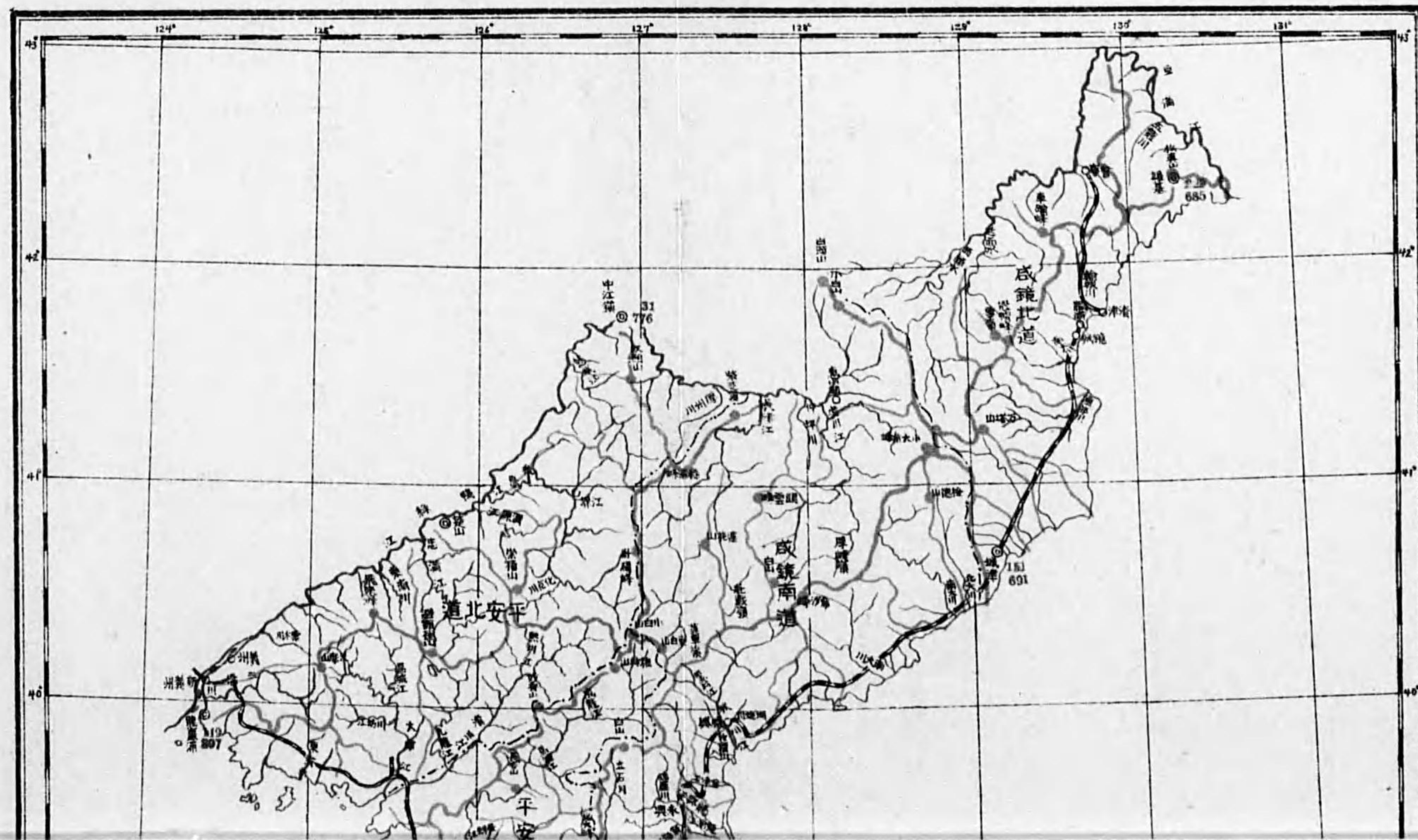
統計年数

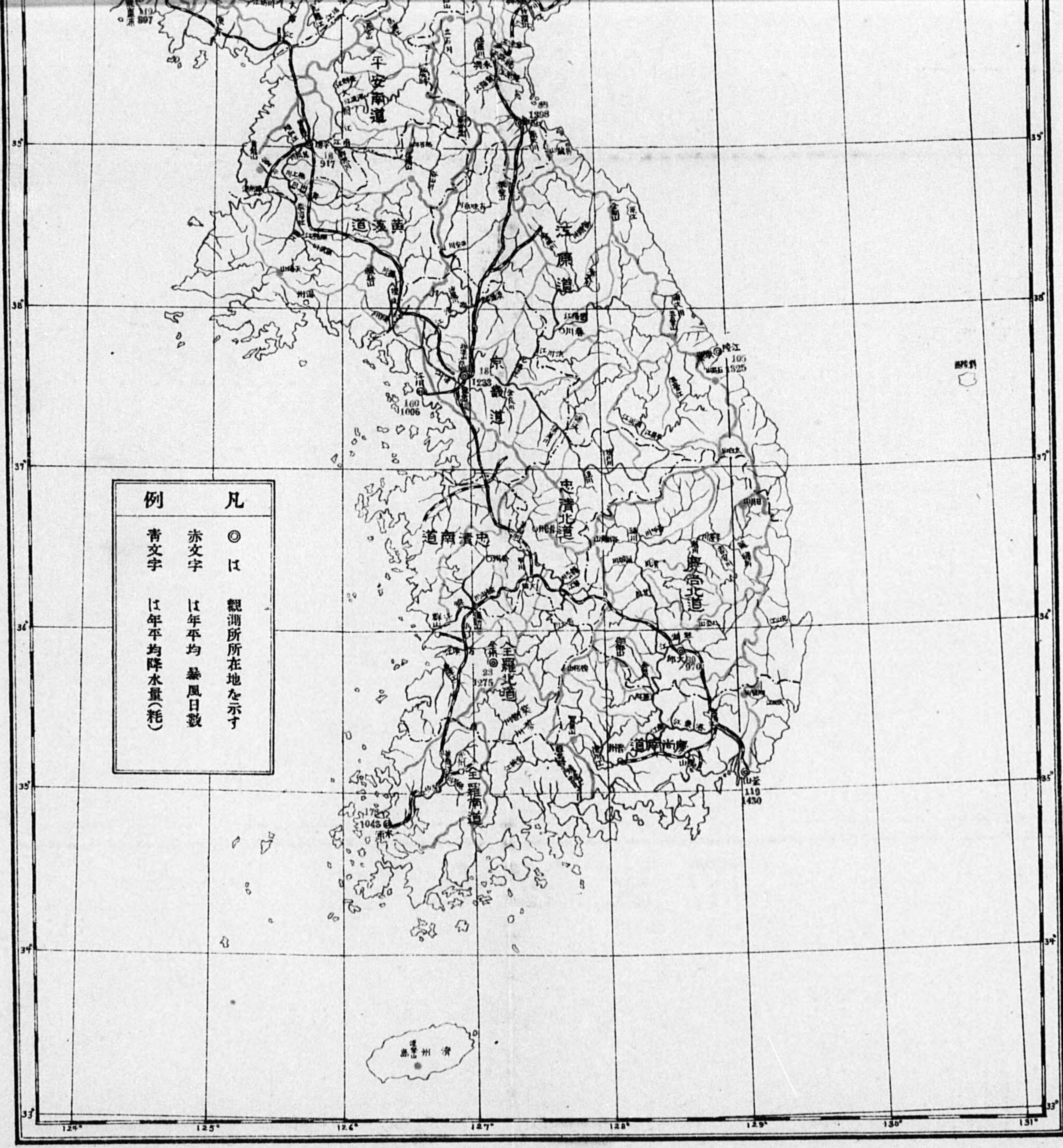
| 地名 | 海面上の高さ | 統計年数 |
|----|--------|------|
| 龍 | 四八・〇 | 二一 |
| 平 | 四八・〇 | 二一 |
| 木 | 二八・二 | 二一 |
| 仁 | 六七・六 | 二一 |
| 中 | 三二・四 | 二一 |
| 京 | 二九・五 | 二一 |
| 全 | 五二・五 | 二一 |
| 大 | 三六・五 | 二一 |
| 元 | 五二・四 | 二一 |
| 江 | 一一・三 | 二一 |
| 釜 | 一一・五 | 二一 |
| 山 | 一一・五 | 二一 |
| 津 | 三二・九 | 二一 |
| 基 | 六三・八 | 二一 |

朝鮮に於ける地勢及び氣象の大體は前述した通りであるが、更に別圖、山系及び水系、高度及び溫度と比較對照して慎重周到なる觀察を下すときは、自ら各種災害の發生し易き季節並に地域の如き、略ぼこれを明かにすることが出來やうと思ふ。



系河及系山





凡 ①は 観測所所在地を示す
 赤文字 は年平均暴風日数
 青文字 は年平均降水量(耗)

朝鮮に於ける地勢及び氣象の大體は前述した通りであるが、更に別圖、山系及び水系、高度及び溫度と比較對照して慎重周到なる觀察を下すときは、自ら各種災害の發生し易き季節並に地域の如き、略ぼこれを明かにすることが出來やうと思ふ。

| | |
|----|-------|
| 仁川 | 314.0 |
| 京城 | 29.5 |
| 大元 | 52.5 |
| 江陵 | 36.5 |
| 釜山 | 11.3 |
| 大邱 | 12.5 |
| 山州 | 52.4 |
| 津山 | 11.3 |
| 基津 | 31.9 |
| 雄城 | 63.8 |

露光量違いの為重複撮影

高度及温度



露光量違いの為重複撮影

高度及温度



第二章 災害の記録

災害の現状を究め、更に將來の對策を講せんとせば、遠き過去に遡りて、災害の記録を索ね、その程度、回數等を明かにして置かねばならぬ。朝鮮に於ける災害の記録は極めて不完全にして、李朝以前の如きはこれを窺ふの資料に乏しく、李朝時代に至りてもその記述粗雑にして、これが範圍及び程度は到底捕捉し難き憾みがあるが、試みに、三國史記、高麗史、李朝實錄、增補文獻備考、東國通鑑、海東釋史、東國紀年、東史年表、各地方邑誌、古代觀測記録等の文獻を參考として、旱害及び饑飢、洪水、暴風、火災、地震、霜害、雹害の記録を作製して見た。これに據りて見ると、全鮮的若くは地方的に最も被害の甚大なるものは旱害の影響であつたらしく、それが爲めに人民の饑餓に陥つた例も頗る多かつたことを示し、また旱害と蝗の害とは相伴つて襲來したことの尠くないのを認める。旱害に亞いで大なる被害を興へたものは洪水で、その暴威を逞うしたことは随分多かつたやうであるが、京城のみの出水表を見ても、その度數の多く、慘禍の著しきに驚かざるを得ないのである。朝鮮は地勢の關係よりして、氣象上内地に比して暴風の襲來を受けることは少いのであるが、それでも暴風に關する記録は相當に多くなつて居る。尤もその被害の程度は、單に大風とか、大風拔木、大風傷殺、大風飛沙、大風折木飛瓦といったやうな記載の爲め、これを明かにするを得ないのを遺憾とす

る。朝鮮に於ては普通に地震はないもの、如く考へられて居るが、歴史を繙くに於ては頗る地震の記録に富んで居る。即ち新羅時代より高麗時代にかけてはその數甚だ多く、李朝時代に至つても強震の頻發したことを窺ふことが出来る。幸ひに近來殆んど地震らしき地震を感ぜざるも、これを以て直ちに朝鮮が地震上安全地帯であると速断してはならない。蝗害に亞いで霜害及び雹害の農作上に及ぼした被害も尠くなかつたらしいが、中にはその記録の多少誇大に載せられて居るのではないかと疑はるるものもある。以上の自然災害に對して火災の被害も亦大なる地位を占め、大火の記録は極めて多いのであるが、史實に徴し概して冬期に火災の多いことは、過去に於てもその發火の原因が主として燭突の焚火に起因したことを想像するに難からず、また戰亂に基く兵火の洗禮を受けたことも一再ならざるを認むるのである。

これを要するに、有史以來、朝鮮に於ては各種の災害が頻發し、人命上、經濟上その慘害を齎らした例は頗る多いのであるが、過去に於ては治山、治水、水利、防火、觀測等の施設に殆んど見るべきものなく、人類家畜は勿論、土地、家屋、作物等が全く危険に對して暴露されて居た爲めに、自然災害をして暴威を逞にせしめたのである。韓國併合以來、これ等の災害防止に對する施設も漸次進歩しつゝあり、罹災者救済に就いても、從來に比し面目を一新して居るけれども、今尙ほ旱害、水害、火災の如き、年々その被害の夥たゞしきものあり、これが爲めに受くる所の財政經濟上の創痍は決して

輕からざるものである。

旱害及び饑飢

| 朝鮮年代 | 日本皇紀 | 西曆 | 摘 |
|---------------------------------|---------|------|------------|
| 百濟溫祚王四年 | 垂仁天皇十五年 | 前 一五 | 春夏饑 |
| 同 三十三年 | 同 四十四年 | 一五 | 春夏大饑民相食 |
| 新羅南解王十五年 | 同 四十七年 | 一八 | 旱 蝗 饑 |
| 百濟溫祚王三十七年 <small>自四月至五月</small> | 同 四十八年 | 一九 | 旱 饑 |
| 新羅南解王二十一年九月 | 同 五十二年 | 二四 | 蝗 |
| 百濟溫祚王四十五年 | 同 五十六年 | 二七 | 春夏大旱草木焦枯 |
| 高句麗太祖王三年八月 | 同 八十四年 | 五五 | 國南飛蝗害穀 |
| 同 十年八月 | 同 九十二年 | 六四 | 國南飛蝗害穀 |
| 百濟己婁王十四年三月 | 景行天皇二十年 | 九〇 | 大旱無麥 |
| 同 三十二年 | 同 三十八年 | 一〇八 | 春夏旱饑民相食 |
| 高句麗太祖王五十六年 | 同 同 | 同 | 春夏大旱赤地饑 |
| 新羅婆娑王三十年七月 | 同 三十九年 | 一〇九 | 蝗 害 穀 |
| 同 三十二年 | 同 四十二年 | 一一一 | 夏旱自五月至七月不雨 |
| 同 三十三年 | 同 四十一年 | 一一一 | 春夏大旱饑民相食 |
| 高麗太祖王三十六年七月 | 同 四十八年 | 一一八 | 蝗 害 穀 |
| 新羅眞摩王十一年七月 | 同 五十二年 | 一二二 | 飛蝗害穀 |

| | | | |
|-------------|----------|-----|----------------|
| 新羅逸聖王十七年 | 成務天皇二十年 | 一五〇 | 夏旱自四月六月不雨 |
| 同 阿達羅王八年七月 | 同 三十二年 | 一六一 | 蝗 |
| 同 二十一年 | 同 四十四年 | 一七四 | 春旱井泉皆竭 |
| 百濟肖古王二十二年五月 | 同 五十七年 | 一八七 | 王都旱井泉及淡水皆竭 |
| 同 四十三年 | 神功皇后攝政八年 | 二〇八 | 秋旱蝗 |
| 新羅奈解王十五年 | 同 十年 | 二一〇 | 春夏旱 |
| 百濟肖古王四十六年八月 | 同 三十一年 | 二一一 | 國南蝗饑 |
| 新羅奈解王三十一年 | 同 二十六年 | 二二六 | 春夏大旱 |
| 百濟仇首王十四年 | 同 二十七年 | 二二七 | 夏大旱 |
| 新羅助賁王八年八月 | 同 三十七年 | 二三七 | 蝗 |
| 百濟古爾王六年 | 同 三十九年 | 二三九 | 春夏旱自正月至四月不雨 |
| 同 三十三年 | 同 四十六年 | 二四六 | 大旱無麥 |
| 同 三十五年 | 同 四十八年 | 二四八 | 春夏旱冬饑 |
| 新羅沾解王七年 | 同 五十三年 | 二五三 | 夏旱自五月至七月不雨 |
| 百濟古爾王二十四年正月 | 同 五十七年 | 二五七 | 大旱樹木皆枯 |
| 新羅沾解王十三年七月 | 同 五十九年 | 二五九 | 旱 蝗 |
| 同 味鄒王七年 | 同 六十八年 | 二六八 | 春夏大旱 |
| 高句麗西川王三年六月 | 應神天皇三年 | 二七二 | 大旱 |
| 新羅儒禮王九年七月 | 同 二十三年 | 二九二 | 旱 蝗 |
| 高句麗烽上王九年 | 同 三十一年 | 三〇〇 | 大旱饑自二月至七月不雨民相食 |

| | | | |
|---------------|--------|-----|-----------------|
| 新羅基臨王五年 | 同 三十三 | 三〇二 | 春夏旱 |
| 新羅訖解王四年七月 | 仁德天皇元年 | 三一三 | 旱 蝗 |
| 百濟比流王十八年七月 | 同 九年 | 三二一 | 國南蝗 |
| 同 二十八 | 同 十九年 | 三三二 | 春夏大旱草木枯江漢竭冬饑民相食 |
| 新羅奈勿王十七年 | 同 六十年 | 三七二 | 春夏大旱饑 |
| 高句麗小獸林王八年 | 同 六十六年 | 三七八 | 旱饑民相食 |
| 新羅奈勿王二十六年 | 同 六十九年 | 三八一 | 春夏旱 |
| 百濟近仇首王八年 | 同 七十年 | 三八二 | 春夏不雨饑民鬻子自活 |
| 高句麗故國壤王五年四月 | 同 七十六年 | 三八八 | 大旱 |
| 同 八十二年 | 同 八十二年 | 同 | 蝗 |
| 同 八十六年 | 同 七十七年 | 三八九 | 春饑民相食 |
| 新羅奈勿王三十四年七月 | 同 八十五年 | 三九七 | 蝗 饑 |
| 同 四十二年 | 同 八十七年 | 三九九 | 北邊旱饑 |
| 同 四十六年 | 同 九十二年 | 四〇二 | 飛蝗蔽野 |
| 高句麗廣開土王二十一年七月 | 同 三十二年 | 四〇二 | 旱 蝗 |
| 百濟阿莘王十一年 | 同 三十六年 | 同 | 夏大旱禾苗焦枯 |
| 新羅實聖王五年七月 | 反正天皇元年 | 四〇六 | 國西蝗害穀 |
| 高句麗廣開土王十五年 | 同 二十二年 | 同 | 蝗 |
| 百濟腆支王十三年四月 | 允恭天皇六年 | 四一七 | 旱 大饑 |

| | | | |
|-------------|----------|-----|---------------|
| 新羅訥祗王四年 | 允恭天皇九年 | 四二〇 | 春夏大旱 |
| 同 十六年 | 同 二十一年 | 四三二 | 春饑穀貴人食松樹皮 |
| 百濟毗有王七年 | 同 二十二年 | 四三三 | 春夏旱 |
| 同 二十一年七月 | 同 三十六年 | 四四七 | 旱 饑 |
| 新羅訥祗王三十七年 | 同 四十二年 | 四五三 | 春夏旱 |
| 百濟毗有王二十八年八月 | 安康天皇元年 | 四五四 | 蝗 饑 |
| 同 三斤王三年 | 雄略天皇二十三年 | 四七九 | 春夏大旱 |
| 新羅炤智王十四年 | 仁賢天皇五年 | 四九二 | 春夏大旱 |
| 同 十九年七月 | 同 十年 | 四九七 | 旱 蝗 |
| 百濟東城王二十一年 | 武烈天皇元年 | 四九九 | 夏大旱民相食 |
| 同 二十三年 | 同 三年 | 五〇一 | 旱自五月至七月不雨 |
| 高句麗文咨王十一年八月 | 同 四十年 | 同 | 蝗 |
| 百濟武寧王二年 | 同 四十八年 | 五〇二 | 春夏旱 饑 |
| 同 十六年 | 同 八十八年 | 五〇六 | 夏旱自三月至五月不雨川澤涸 |
| 新羅智證王七年 | 同 九十五年 | 同 | 春夏旱 |
| 百濟武寧王二十一年八月 | 繼體天皇十五年 | 五二一 | 蝗 饑 |
| 高句麗安藏王五年 | 同 十七年 | 五二三 | 冬 饑 |
| 同 安原王六年 | 宣化天皇二年 | 五三六 | 春夏大旱八月蝗 |
| 同 七十年 | 同 三十二年 | 五三七 | 春 饑 |
| 同 平原王五年 | 欽明天皇二十四年 | 五六三 | 夏大旱 |

| | | | |
|------------|-----------|-----|-------------|
| 同 十三年八月 | 同 三十二年 | 五七一 | 旱 蝗 |
| 新羅眞興王三十六年 | 敏達天皇四年 | 五七五 | 春夏旱 |
| 高句麗平原王二十三年 | 同 十一年 | 五八一 | 秋 饑 |
| 新羅眞平王十四年 | 崇峻天皇五年 | 五九二 | 夏大旱 |
| 百濟武王七年四月 | 推古天皇十四年 | 六〇六 | 大旱 饑 |
| 新羅眞平王三十五年 | 同 二十一年 | 六一三 | 春夏旱 |
| 同 五十年 | 同 三十六年 | 六二八 | 夏大旱秋饑民賣子女自活 |
| 同 善德女王元年 | 舒明天皇四年 | 六三二 | 夏 旱 |
| 百濟義慈王十四年 | 孝德天皇五年 | 六五四 | 春大旱 饑 |
| 同 十七年 | 齊明天皇三年 | 六五七 | 大旱 赤地 |
| 新羅聖德王四年五月 | 文武天皇慶雲二年 | 七〇五 | 旱 國東饑 |
| 同 六年 | 同 四年 | 七〇七 | 饑 |
| 同 十三年 | 元明天皇和銅七年 | 七一四 | 夏 旱 |
| 同 十四年六月 | 元正天皇寶龜元年 | 七一五 | 大 旱 |
| 同 十九年七月 | 同 養老四年 | 七二〇 | 蝗 害穀 |
| 景德王四年五月 | 聖武天皇天平十七年 | 七四五 | 旱 |
| 同 十六年 | 同 十九年 | 七四七 | 秋 旱 饑 |
| 同 十三年八月 | 孝謙天皇 | 七五四 | 旱 蝗 |
| 恭惠王五年五月 | 天平勝寶六年 | 七六九 | 旱 蝗 |
| 元 聖 王二年 | 神護景雲三年 | 七八六 | 秋旱京都饑 |

| | | | |
|-----------|----------|-----|---------------|
| 元聖王三年七月 | 桓武天皇延暦六年 | 七八七 | 蝗害穀 |
| 同四年 | 同七年 | 七八八 | 秋國西旱蝗 |
| 同五年自四月至五月 | 同十四年 | 七九五 | 旱 |
| 同十二年 | 同十五年 | 七九六 | 京都饑 |
| 同十三年九月 | 同十六年 | 七九七 | 國東蝗害穀 |
| 哀莊王十年七月 | 平城天皇大同四年 | 八〇九 | 大旱 |
| 憲德王七年 | 嵯峨天皇弘仁六年 | 八一五 | 秋國西大饑 |
| 同八年正月 | 同弘仁七年 | 八一六 | 年荒民抵浙東求食者百七十人 |
| 同九年 | 同弘仁八年 | 八一七 | 夏秋大旱民多飢死者 |
| 同十二年 | 同弘仁十一年 | 八二〇 | 春夏旱大饑冬饑民賣子自活 |
| 同十三年 | 同弘仁十二年 | 八二一 | 春旱饑 |
| 興德王二年八月 | 淳和天皇天長四年 | 八二七 | 京都大旱 |
| 同七年 | 同天長九年 | 八三二 | 春夏大旱赤地 |
| 同八年 | 同天長十年 | 八三三 | 大旱饑 |
| 文聖王二年 | 仁明天皇承和七年 | 八四〇 | 夏大旱自四月至六月不雨冬饑 |
| 同十五年八月 | 同嘉祥元年 | 八四八 | 夏旱 |
| 憲安王二年 | 同天安二年 | 八五三 | 西南州郡蝗 |
| 同三年 | 同天安二年 | 八五八 | 夏大旱自五月至七月不雨 |
| 同三年 | 清和天皇貞觀元年 | 八五九 | 春旱饑 |
| 景文王七年 | 同貞觀九年 | 八六七 | 冬饑 |

| | | | |
|--------------|-----------|------|------------------|
| 同二十二年八月 | 同十二年 | 八七〇 | 蝗饑 |
| 同二十三年 | 同十五年 | 八七三 | 春旱饑 |
| 眞聖女王二年五月 | 宇多天皇仁和四年 | 八八八 | 旱大旱自五月至四月不雨 |
| 孝恭王十三年自四月至五月 | 醍醐天皇延喜六年 | 九〇六 | 不雨 |
| 景明王五年八月 | 同二十一年 | 九二一 | 旱大旱自五月至七月不雨 |
| 高麗太祖十七年 | 朱雀天皇承平四年 | 九三四 | 西京旱蝗 |
| 成宗七年 | 一條天皇永延二年 | 九八八 | 夏旱蝗 |
| 同十二年六月 | 同正暦四年 | 九九三 | 東北界蝗 |
| 穆宗十二年六月 | 同寛弘六年 | 一〇〇九 | 東北界蝗 |
| 顯宗七年七月 | 三條天皇長和五年 | 一〇一六 | 蝗秋江南饑 |
| 同二十八年六月 | 後一條天皇寛仁元年 | 一〇二七 | 蝗秋江南饑 |
| 同二十九年五月 | 同 | 一〇三二 | 蝗食草害穀 |
| 同三十年九月五月 | 同 | 一〇一八 | 西北界蝗 |
| 同三十一年六月 | 同 | 一〇二〇 | 西北界蝗 |
| 同三十二年五月 | 同 | 一〇二四 | 旱 |
| 同三十四年八月 | 同 | 一〇二八 | 西北界蝗 |
| 靖宗二年五月 | 同 | 一〇三六 | 旱 |
| 文宗三年 | 後冷泉天皇永承四年 | 一〇四九 | 關内饑四月西北界饑六月關西安北饑 |
| 同十八年四月 | 同康平七年 | 一〇六四 | 旱饑 |
| 同二十一年 | 同治暦三年 | 一〇六七 | 京北饑 |

朝鮮の災害

| | | | |
|-------------|----------|-------|---|
| 宣宗 三十二年 | 白河天皇應德三年 | 一、〇八六 | 夏大旱自四月至六月不雨 |
| 同 九年 | 堀河天皇寛治六年 | 一、〇九二 | 東路饑 |
| 同 十年 | 同 七年 | 一、〇九三 | 東路又饑 |
| 肅宗三年 自三月至四月 | 同 承德二年 | 一、〇九八 | 早 |
| 睿宗 十五年 | 鳥羽天皇保安元年 | 一、二二〇 | 秋大旱自夏至八月不雨五穀不登疾癘大興 |
| 同 十六年 | 同 二年 | 一、二二一 | 大旱 |
| 仁宗 五年七月 | 崇徳天皇大治二年 | 一、二二七 | 西北界蝗 |
| 同 十年七月 | 同 長承元年 | 一、二三二 | 京都饑穀貴物賤銀瓶一斤直米五斗小馬一匹直一石特 牛二頭直四斗布一匹直六升街巷饑殍相望 |
| 同 十一年五月 | 同 二年 | 一、一三三 | 早蝗食京畿松葉殆盡 |
| 同 二十三年七月 | 近衛天皇久安元年 | 一、一四五 | 西北界昌朔等七州及西海道蝗 |
| 毅宗元年七月 | 同 三年 | 一、一四七 | 海州蝗 |
| 同 三年六月 | 同 五年 | 一、一四九 | 蝗 |
| 同 六年六月 | 同 仁平二年 | 一、一五二 | 早 |
| 同 十六年四月五月 | 二條天皇應保二年 | 一、一六二 | 大旱 |
| 同 十八年五月 | 同 長寛二年 | 一、一六四 | 大旱草木萎蕪 |
| 同 二十三年 | 高倉天皇嘉應元年 | 一、一六九 | 春夏大旱自正月至四月不雨 |
| 明宗 三十三年 | 同 承安三年 | 一、一七三 | 春夏大旱自正月至五月不雨川井皆涸禾麥枯槁火災多 作疾疫並喫人多饑死至有市人肉者 |
| 同 十一年 | 安德天皇養和元年 | 一、一八一 | 春夏大旱自正月至四月不雨 |
| 同 二十一年八月 | 鳥羽天皇建久二年 | 一、一九一 | 西海道蝗 |
| 同 二十四年六月 | 同 五年 | 一、一九四 | 早 |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|---|
| 神宗 二年七月 | 土御門天皇正治元年 | 一、一九九 | 蝗 |
| 高宗 十四年 | 後堀河天皇安貞元年 | 一、二二七 | 全羅道饑 |
| 同 十五年五月 | 同 二年 | 一、二二八 | 北界蝗 |
| 同 十七年正月 | 同 寛喜二年 | 一、二三〇 | 大饑道殍相望 |
| 同 四十二年 | 後深草天皇建長七年 | 一、二五五 | 春大饑夏秋大旱清州以南自三月至七月不雨江陽郡蝗 食桑葉成繭 |
| 同 四十四年 | 同 康元元年 | 一、二五六 | 秋大饑銀一斤直二石 |
| 同 四十四年閏四月 | 同 正嘉元年 | 一、二五七 | 京都大饑 |
| 同 四十六年正月 | 同 正元元年 | 一、二五九 | 京都大饑民相食官吏與民就食於南州者絡繹於道重房 御史臺禁官吏出關多饑死者 |
| 元宗 元年 | 龜山天皇文應元年 | 一、二六〇 | 夏大旱京畿蝗 |
| 忠烈王 三年三月 | 後宇多天皇建武三年 | 一、二七七 | 耽羅大饑民有鬪戶死者 |
| 同 六年三月 | 同 弘安三年 | 一、二八〇 | 蝗全羅道饑 |
| 同 八年四、五月 | 同 五年 | 一、二八二 | 大旱 |
| 同 十一年四月 | 同 八年 | 一、二八五 | 大旱 |
| 同 十三年三月 | 同 十年 | 一、二八七 | 全羅道饑民或有食丐子者 |
| 同 十七年五月 | 伏見天皇正應四年 | 一、二九一 | 大旱 |
| 同 二十七年 | 後伏見天皇正安三年 | 一、三〇一 | 大旱東界自正月至九月不雨 |
| 同 二十九年八月 | 後三條天皇嘉元元年 | 一、三〇三 | 肅州原津自饑 |
| 忠宣王 三年 | 花園天皇應長元年 | 一、三一一 | 大旱自四月至八月不雨 |
| 忠肅王 後四年 | 後醍醐天皇建武二年 | 一、三三五 | 大旱自三月至五月不雨 |

第二章 災害の記録

朝鮮の災害

| | | | |
|-----------|------------|-------|-----------------------------------|
| 忠惠王後四年 | 後村上天皇興國四年 | 一、三四三 | 春旱八月東界山谷蝗 |
| 同五年四月 | 同五年 | 一、三四四 | 大旱自前年五月至今四月不雨 |
| 忠穆王三年四月五月 | 同三年 | 一、三四七 | 大旱 |
| 同四年四月 | 同三年 | 一、三四八 | 京都大饑 |
| 恭愍王三年 | 同九年 | 一、三五四 | 夏旱秋饑布一匹直米一斗三升九月蟲食松岳幾盡 |
| 同六年九月 | 同十二年 | 一、三五七 | 西北面大饑 |
| 同七年三月 | 同十三年 | 一、三五八 | 春夏大旱東北面及交州江陵道饑 |
| 同八年六月 | 同十四年 | 一、三五九 | 楊廣全羅慶尙道大旱冬大饑 |
| 同九年四月 | 同十五年 | 一、三六〇 | 大旱冬大饑全羅道最甚餓死者過半棄兒道路者不可勝計京都布一匹直米五升 |
| 同十年三月 | 同十六年 | 一、三六一 | 龍州饑民相食夏西北面大饑盜賊蜂起 |
| 同十四年五月 | 同二十年 | 一、三六五 | 京畿蝗 |
| 同十六年五月 | 同二十二年 | 一、三六七 | 南方大旱行旅不得水熊津渡纒濡馬足 |
| 同二十一年 | 同後龜山天皇文中元年 | 一、三七二 | 冬饑布一匹直米一斗五升 |
| 同二十二年四月 | 同二年 | 一、三七三 | 全羅慶尙道饑 |
| 辛禰二年六月 | 同天授二年 | 一、三七六 | 大旱 |
| 同九月 | 同 | 同 | 西北面蝗 |
| 同四年五月 | 同四年 | 一、三七八 | 早冬京都饑布一匹直米一斗三四升 |
| 同五年五月 | 同五年 | 一、三七九 | 早 |
| 同六年六月 | 同六年 | 一、三八〇 | 京都饑布一匹直米五升 |
| 同七年五月 | 同弘和元年 | 一、三八一 | 早大饑布一匹直米一斗慶尙道高靈郡尤饑死者多棄兒滿路 |

| | | | |
|---------|------------|-------|---------------------|
| 同八年 | 同二年 | 一、三八二 | 春旱無麥苗七月京都大饑布一匹直米三四升 |
| 恭讓王二年五月 | 同元中七年 | 一、三九〇 | 蝗江陵交州道蝗食苗 |
| 同四年六月 | 同九年 | 一、三九一 | 蝗食太廟松蓋 |
| 朝鮮定宗元年 | 後小松天皇應永六年 | 一、三九九 | 忠清道饑 |
| 太宗十一年 | 同十八年 | 一、四〇一 | 西北面海等道大旱 |
| 同十五年 | 同稱光天皇同二十二年 | 一、四一五 | 大旱 |
| 同十六年 | 同同二十三年 | 一、四一六 | 京畿饑 |
| 世宗十八年 | 後花園天皇永享八年 | 一、四三六 | 饑 |
| 同二十七年 | 同文安二年 | 一、四四五 | 京畿江原道大饑 |
| 文宗庚午 | 同寶德二年 | 一、四五〇 | 自四月至六月不雨 |
| 端宗壬申七月 | 同享德元年 | 一、四五二 | 平安道大旱秋饑 |
| 同二年 | 同三年 | 一、四五四 | 京畿關東三南大饑 |
| 世祖三年 | 同長祿二年 | 一、四五八 | 下三道饑 |
| 睿宗元年六月 | 後土御門天皇文明元年 | 一、四六九 | 關西沿江饑 |
| 成宗三年 | 同二年 | 一、四七〇 | 秋兩南饑 |
| 同八年 | 同八年 | 一、四七七 | 蝗 |
| 同十二年六月 | 同十三年 | 一、四八一 | 大旱 |
| 同十六年六月 | 同十七年 | 一、四八五 | 大旱 |
| 同十七年 | 同十八年 | 一、四八六 | 春大旱秋三南大饑 |
| 同二十三年 | 同明應元年 | 一、四九二 | 大旱饑 |

第二章の災害の記録

朝鮮の災害

| | | | |
|-------------|-----------|-------|--------------------|
| 中宗 十六年 | 後柏原天皇永正八年 | 一、五一一 | 北界大旱 |
| 同 二十年 | 同 大永五年 | 一、五二五 | 京都 饑 |
| 同 三十五年 | 後奈良天皇天文九年 | 一、五四〇 | 大 旱 |
| 明宗 乙巳 | 同 | 一、五四五 | 秋京外大饑餓孳戰路 |
| 同 二年 | 同 十四年 | 一、五四七 | 饑 |
| 同 三年 | 同 十六年 | 一、五四八 | 京都 饑 |
| 宣祖三年 自五月至七月 | 正親町天皇元龜元年 | 一、五七〇 | 不雨嶺南大饑 |
| 同 五年 五月 | 同 三年 | 一、五七二 | 有虫食禾苗 |
| 同 十二年 六月 | 同 天正七年 | 一、五七九 | 成饑大旱禾苗盡枯 |
| 同 十三年 | 同 八年 | 一、五八〇 | 秋饑京畿江原兩西尤甚 |
| 同 十七年 | 同 十二年 | 一、五八四 | 冬海州饑民掘食白土 |
| 同 二十六年 | 後陽成天皇文祿二年 | 一、五九三 | 水大饑木綿一匹直米二升一馬價米三四斗 |
| 同 二十七年 | 同 三年 | 一、五九四 | 饑 |
| 光海 君 戊申 | 同 慶長十三年 | 一、六〇八 | 大 旱 饑 |
| 同 四年 | 後水尾天皇同十七年 | 一、六一二 | 成饑道大饑死亡無數 |
| 同 七年 五月 | 同 元和元年 | 一、六一五 | 大旱草木盡枯井泉皆涸冬大饑 |
| 同 十一年 | 同 五年 | 一、六一九 | 秋連月大旱禾稼盡枯大饑 |
| 仁祖 四年 | 同 寬永三年 | 一、六二六 | 秋大饑餓孳相望三南尤甚 |
| 同 五年 | 同 四年 | 一、六二七 | 兩西大饑 |
| 同 六年 七月 | 同 五年 | 一、六二八 | 大 旱 |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-------------------------|
| 同 十七年 | 同 六年 | 一、六二九 | 夏大旱兩湖右路尤甚人無飲水者木綿一匹僅買五六盆 |
| 同 十六年 | 明正天皇同十五年 | 一、六三八 | 濟州饑 |
| 同 十七年 五月 | 同 十六年 | 一、六三九 | 大饑兩南尤甚 |
| 同 十九年 四月 | 同 十八年 | 一、六四一 | 大 旱 |
| 同 二十五年 | 後光明天皇正保四年 | 一、六四七 | 春大旱秋大水大饑餓何尤甚 |
| 孝宗 己丑 | 同 慶安二年 | 一、六四九 | 初成饑道饑 |
| 同 二年 | 同 四年 | 一、六五一 | 松 京 饑 |
| 同 三年 | 同 承應元年 | 一、六五二 | 全羅道饑 |
| 同 四年 | 同 二年 | 一、六五三 | 江 都 饑 |
| 同 六年 五月 | 後西院天皇明曆元年 | 一、六五五 | 大旱關北饑 |
| 同 八年 | 同 三年 | 一、六五七 | 夏 大 旱 |
| 同 九年 | 同 萬治元年 | 一、六五八 | 兩湖沿海饑 |
| 同 十年 | 同 二年 | 一、六五九 | 濟州饑關西大饑 |
| 顯宗 己亥 七月 | 同 | 同 | 大 旱 |
| 同 元年 | 同 三年 | 一、六六〇 | 饑 |
| 同 二年 | 同 寬文元年 | 一、六六一 | 大饑兩南尤甚 |
| 同 三年 | 同 二年 | 一、六六二 | 饑 |
| 同 七年 | 靈元天皇同 六年 | 一、六六六 | 成饑道饑 |
| 同 八年 | 同 七年 | 一、六六七 | 京畿湖西饑 |
| 同 九年 | 同 八年 | 一、六六八 | 京畿及兩西饑 |

第二章 災害の記録

朝鮮の災害

| | | | |
|--------|-----------|-------|----------------|
| 英祖四十年 | 後櫻町天皇明和元年 | 一、七六四 | 大旱自四月至七月不雨 |
| 同四十四年 | 同 | 一、七六八 | 濟州饑 |
| 同四十六年 | 同 | 一、七七〇 | 饑 |
| 正祖七年 | 光格天皇天明三年 | 一、七八三 | 饑 |
| 純祖三十二年 | 仁孝天皇天保三年 | 一、八三二 | 大饑 |
| 李太王十三年 | 明治天皇明治九年 | 一、八七六 | 夏旱八月十一日霜殺穀八路大饑 |
| 同二十五年 | 同 | 一、八八八 | 夏旱 |

洪水

| | | | |
|------------|-----------|-----|------------|
| 朝鮮年代 | 日本皇紀 | 西曆 | 摘要 |
| 高句麗閔中王二年五月 | 垂仁天皇七十四年 | 四五 | 國東大水 |
| 同 慕本王元年八月 | 同 七十七年 | 四八 | 大水山崩二十餘所 |
| 百濟己婁王四十年六月 | 景行天皇四十六年 | 一一六 | 大雨漢江水漲漂沒人家 |
| 新羅祗摩王二十年五月 | 成務天皇元年 | 一三一 | 大雨漂沒民戶 |
| 同 阿達羅王七年四月 | 同 三十年 | 一六〇 | 暴雨關川水溢漂流人家 |
| 同 伐休王九年五月 | 仲哀天皇元年 | 一九二 | 大水山崩十餘所 |
| 同 奈解王十七年五月 | 神功皇后攝政十二年 | 二二二 | 大水漂沒民屋 |
| 百濟仇首王八年五月 | 同 二十一年 | 二二一 | 國東大水山崩四十餘所 |
| 同 九年六月 | 同 二十二年 | 二二二 | 京都雨魚 |
| 新羅沾解王十四年夏 | 同 六十年 | 二六〇 | 大水山崩四十餘所 |

要

| | | | |
|-------------|------------|-----|-----------------------|
| 同 儒禮王七年五月 | 應仁天皇二十一年 | 二九〇 | 大水月城額 |
| 同 訖解王四十一年四月 | 仁德天皇三十八年 | 三五〇 | 大雨淡旬平地水三四尺漂沒官私屋舍 |
| 同 奈勿王十一年四月 | 同 五十四年 | 三六六 | 大水山崩十四餘所 |
| 同 慈悲王八年四月 | 同 六十一年 | 三七三 | 京城雨魚 |
| 百濟東城王十三年六月 | 仁賢天皇四年 | 四六五 | 大水山崩十七所 |
| 新羅炤智王十八年五月 | 同 九年 | 四九一 | 京都大水熊川水漲漂沒二百餘家 |
| 百濟東城王十九年六月 | 同 十年 | 四九六 | 大雨關川水漲漂沒二百餘家 |
| 高句麗安原王五年五月 | 安閑天皇二年 | 四九七 | 大雨漂沒民屋 |
| 新羅眞平王十一年七月 | 崇峻天皇二年 | 五三五 | 國南大水漂死者二百餘人 |
| 百濟武王十三年五月 | 推古天皇二十年 | 五八九 | 國西大水漂沒民戶三萬三百六十戶死者二百餘人 |
| 新羅善德女皇七年九月 | 舒明天皇十年 | 六一二 | 大水漂沒民屋 |
| 高麗寶藏王十五年五月 | 齊明天皇二年 | 六三八 | 雨黃花 |
| 新羅文武王四年七月 | 天智天皇三年 | 六五六 | 王都雨鐵 |
| 同 聖德王十九年四月 | 淳仁天皇天平寶字四年 | 六六四 | 一善郡大水溺死三百餘人 |
| 同 惠恭王十六年二月 | 光仁天皇寶龜十一年 | 七六〇 | 大水山崩十三所 |
| 同 元聖王十三年九月 | 桓武天皇延暦十六年 | 七八〇 | 雨土 |
| 同 憲德王六年五月 | 嵯峨天皇弘仁五年 | 七九七 | 大水山崩 |
| 同 十五年正月 | 同 十四年 | 八一四 | 國西大水 |
| 高麗太祖七年秋 | 醍醐天皇延長二年 | 八二三 | 雨蟲于西原 |
| | | 九二四 | 京都大水漂沒民屋水溢街衢漂沒人家水變爲赤色 |

第二章 災害の記録

| | | | |
|-----------|-----------|-------|------------------------------|
| 顯宗十七年七月 | 後一條天皇萬壽三年 | 一、〇二六 | 京都大雨四日漂毀民屋 |
| 同 九月 | 同 | 同 | 西京大水漂沒民家八十餘戶 |
| 靖宗五年六月 | 後朱雀天皇長曆三年 | 一、〇三九 | 大雨鴨綠江水漲漂失兵船七十餘艘 |
| 同 六年五月壬戌 | 同 長久元年 | 一、〇四〇 | 大雨彌月 |
| 同 七年二月癸未 | 同 二年 | 一、〇四一 | 雨黃土 |
| 文宗二十一年十一月 | 後冷泉天皇治曆三年 | 一、〇六七 | 南至日大雷雨 |
| 宣宗五年五月 | 堀河天皇寬治二年 | 一、〇七八 | 暴雨海溢漂沒人家殺沒舟楫 |
| 肅宗四年六月 | 堀河天皇康和元年 | 一、〇九九 | 大雨九龍山頽 |
| 同 九年七月戊戌 | 同 長治元年 | 一、一〇四 | 雨穀千通海縣 |
| 睿宗八年七月 | 鳥羽天皇永久元年 | 一、一一三 | 大雨平地水深尺餘 |
| 仁宗二年七月 | 崇德天皇天治元年 | 一、一二四 | 大雨(是日册李資謙爲朝鮮國公百官庭賀未畢大雨雨水深一丈) |
| 同 九年十月乙丑 | 同 天承元年 | 一、一三一 | 大雨四日 |
| 同 十二月壬辰 | 同 | 同 | 大雨溝渠凍如三月 |
| 同 十年八月 | 同 長承元年 | 一、一三二 | 大雨漂沒水家無數又水湧奉恩寺後山奔流入國學漂沒經史百家語 |
| 同 十二年五月 | 同 三年 | 一、一三四 | 雨血于廣州 |
| 同 二十三年六月 | 近衛天皇久安元年 | 一、一四五 | 大水東界文湧二州山崩水湧漂沒城門 |
| 毅宗十九年三月 | 二條天皇永萬元年 | 一、一六五 | 天寒雨甚衛卒凍死 |
| 同 六月 | 同 | 同 | 大雨漂沒民家六十餘戶 |
| 明宗六年正月癸酉 | 高倉天皇安元二年 | 一、一七六 | 雨黃土 |
| 同 九年六月 | 同 治承三年 | 一、一七九 | 大雨市邊橋樑漂流 |

| | | | |
|-------------|-----------|-------|------------------------|
| 同 十年六月 | 同 | 一、一八〇 | 大雨西京荷仁寺漂流八十餘間 |
| 同 十六年閏七月 | 後鳥羽天皇文治二年 | 一、一八六 | 安邊府大水漂水千餘人 |
| 同 十八年七月 | 同 四年 | 一、一八八 | 定長宜預高和六州大雨漂盡民屋 |
| 同 戊申 | 同 | 同 | 鎮溪界黃蟲黃鼠隨雨而下損傷禾稼 |
| 同 八月 | 同 | 同 | 登文宜鎮溪龍津寧仁等諸城大水漂蕩城郭死者甚衆 |
| 高宗八年三月 | 仲恭天皇承久三年 | 一、二二一 | 雨青色蚯蚓 |
| 同 十二年五月 | 後堀河天皇喜祿元年 | 一、二二五 | 大雨二日平地水深七八尺許 |
| 同 三十三年五月 | 後嵯峨天皇寬元四年 | 一、二四六 | 雨毒蟲 |
| 同 四十一年七月乙巳 | 後深草天皇建長六年 | 一、二五四 | 大雨傷稼多漂民戶 |
| 同 四十三年二月 | 同 康元元年 | 一、二五六 | 雨水銀 |
| 同 七月 | 同 | 同 | 京都大水 |
| 同 四十五年六月、七月 | 同 正嘉二年 | 一、二五八 | 恒雨 |
| 元宗十四年閏六月庚申 | 龜山天皇永文十年 | 一、二七三 | 大雨傷稼 |
| 忠烈王十五年八月 | 伏見天皇正應二年 | 一、二八九 | 大雨十日雨漁 |
| 同 閏十月庚辰 | 同 | 同 | 大雷雨如墨水 |
| 同 二十七年戊申 | 後伏見天皇正安三年 | 一、三〇一 | 大雨傷稼 |
| 忠宣王二年七月 | 花園天皇延慶三年 | 一、三一〇 | 大雨松岳崩 |
| 忠穆王四年四月 | 後村上天皇正平三年 | 一、三四八 | 大雨松岳崩 |
| 忠定王二年八月 | 同 五年 | 一、三五〇 | 淮陽大水漂沒官廨民戶及金剛山諸寺 |
| 恭愍王五年七月壬辰 | 同 十一年 | 一、三五六 | 大雨漂沒人家 |

朝鮮の災害

| | | | |
|------------|------------|-------|---|
| 恭愍王七年五月 | 後村上天皇正平十三年 | 一、三五八 | 慶尙道大水禾穀皆漂沒 |
| 同 十一年十一月乙巳 | 同 十七年 | 一、三六二 | 大雨震雷 |
| 同 十六年五月 | 同 二十二年 | 一、三六七 | 雨血于泥靛 |
| 同 二十二年四月丁丑 | 後龜山天皇文中二年 | 一、三七三 | 〔夜雨白毛、戊寅、己卯、壬午、癸未、丁亥、丙申亦如之長二寸或三四寸細如馬鬃〕 |
| 同 五月丙寅 | 同 | 同 | 雨米于平州大如升 |
| 辛禰元年六月丙午 | 同 天授元年 | 一、三七五 | 漢陽府大雨三角山國眾峯崩 |
| 同 七年七月癸亥 | 同 弘和元年 | 一、三八一 | 大雨漂溺人畜 |
| 同 八年二月癸亥 | 同 二年 | 一、三八二 | 雨穀有似黑黍小豆蕎麥者 |
| 恭讓王元年四月 | 同 元中六年 | 一、三八九 | 恒雨山崩水湧 |
| 同 二年五月 | 同 七年 | 一、三九〇 | 大雨雨(時清州、獄起評理尹虎等方鞠囚忽雷雨大雷前川暴漲城南門直衝北門城中水深丈餘漂沒官舍獄官攀樹得免) |
| 同 九月丙午 | 同 | 同 | 大雨雨人畜或有凍死者 |
| 朝鮮太宗元年 | 後小松天皇應永八年 | 一、四〇一 | 端川雨炭 |
| 世宗三年 | 稱光天皇同二十八年 | 一、四二一 | 大雨仁政殿鸞頭皆頽 |
| 成宗四年夏 | 後土御門天皇文明五年 | 一、四七三 | 大水 |
| 同 九年四月 | 同 十年 | 一、四七八 | 雨 土 |
| 中宗五年七月 | 後柏原天皇永正七年 | 一、五一〇 | 京師大水平地水深數尺漂沒民戶 |
| 同 十五年二月 | 同 十七年 | 一、五二〇 | 大水三江漲溢 |
| 明宗二年七月 | 後奈良天皇天文十六年 | 一、五四七 | 〔八道大水人畜田舍漂溺無數平壤城中依山倉亦至沈沒漂沒家舍七百二十餘戶餘死人二百餘名牛馬三百餘匹〕 |
| 同 六年三月己丑 | 同 二十年 | 一、五五一 | 雨 土 |
| 宣祖六年二月 | 正親町天皇正元年 | 一、五七三 | 雨 土 |

| | | | | |
|-------------|-----------|-------|---|-----------|
| 同 十年十月 | 同 | 五年 | 一、五七七 | 京畿大水漂沒人屋 |
| 同 十一年六月 | 同 | 六年 | 一、五七八 | 下三道大水壞山襄陵 |
| 同 十二年六月 | 同 | 七年 | 一、五七九 | 下三道大雨 |
| 同 十三年春 | 同 | 八年 | 一、五八〇 | 大水人多溺死 |
| 同 六月 | 同 | 同 | 同 | 大雨陵谷變遷 |
| 同 二十三年十一月甲辰 | 後陽成天皇同十八年 | 一、五九〇 | 京都大雨江水漲溢 | |
| 同 三十八年七月辛卯 | 同 慶長十年 | 一、六〇五 | 〔嶺南關東京畿忠清道大水公私家舍漂沒人畜溺死不記其數安邊府境內殆盡餘牛馬鶴犬山禽野獸堆死如山臭不堪近大水連根浮下流塞數十里火燒月餘道路不通或疑非天降雨海翻爲災云〕 | |
| 光海君戊申夏 | 同 十三年 | 一、六〇八 | 雨草實 | |
| 仁祖元年七月 | 後水尾天皇元和九年 | 一、六二二 | 大霖雨 | |
| 同 三年二月 | 同 寬永二年 | 一、六二五 | 大雨連月 | |
| 同 四月 | 同 | 同 | 順天府大雨山崩漂沒人家五百餘戶 | |
| 同 五年二月 | 同 四年 | 一、六二七 | 雨血草葉皆赤 | |
| 同 四月甲子 | 同 | 同 | 同 | |
| 同 十五年六月 | 明正天皇同十四年 | 一、六三七 | 大雨連月 | |
| 同 二十五年七月 | 後光明天皇正保四年 | 一、六四七 | 京畿江原道大水 | |
| 顯宗五年閏六月辛巳 | 靈元天皇寬文四年 | 一、六六四 | 湖南大水漂沒男女五十餘人 | |
| 肅宗八年七月戊午 | 同 天和二年 | 一、六八二 | 咸鏡道大水漂沒九百餘戶人畜壓溺死者數百餘 | |
| 同 三十三年夏 | 東山天皇寶永四年 | 一、七〇七 | 大水 | |
| 同 三十七年八月 | 中御門天皇正德元年 | 一、七一一 | 嶺東大水 | |

第二章 災害の録記

朝鮮の災害

| | | | |
|----------|------------|-------|------------------------|
| 英祖五年八月 | 中御門天皇享保十四年 | 一、七二九 | 關北大水漂没近千人 |
| 同 七年八月 | 同 十六年 | 一、七三一 | 全羅道大水壞八塚墓漂棺柩 |
| 同 十五年六月 | 櫻町天皇天文四年 | 一、七三九 | 黃海道大水一坪九百餘戶盡潦死 |
| 同 八月 | 同 | 同 | 北道大水漂没近千人 |
| 同 十七年 | 同 寬保元年 | 一、七四一 | 關東大水漂没千餘戶 |
| 同 十八年九月 | 同 二年 | 一、七四二 | 嶺南大水潦死者甚衆 |
| 同 二十六年九月 | 桃園天皇寬延三年 | 一、七五〇 | 湖南同福等縣大水漂没一百三十戶 |
| 同 二十八年六月 | 同 寶曆二年 | 一、七五二 | 畿甸大水漂没數百戶壓死者三十餘人 |
| 同 三十九年 | 同 三年 | 一、七五三 | 關東大水 |
| 正祖元年八月丁巳 | 後桃園天皇安永六年 | 一、七七七 | 起大雨山崩漂戶不記其數金剛山萬瀑洞填塞 |
| 同 五年六月 | 光格天皇天明元年 | 一、七八一 | 平安道大水漂没三百餘戶 |
| 同 八月 | 同 | 同 | 慶尙道大水漂没四百十餘戶 |
| 同 十三年六月 | 同 寬政元年 | 一、七八九 | 平壤大水漂没五百餘戶 |
| 同 二十年八月 | 同 八年 | 一、七九六 | 義州大水漂没一千餘戶潦死者二百餘人 |
| 同 二十一年 | 同 九年 | 一、七九七 | 黃海道大水漂没三百餘戶潦死者數十餘人 |
| 純祖十年七月 | 同 文化七年 | 一、八一〇 | 義州大水漂没一千七百餘戶潦死者一百七十餘人 |
| 同 八月 | 同 | 同 | 咸鏡道大水漂没七百餘戶潦死者四十餘人 |
| 同 十五年八月 | 同 十二年 | 一、八一五 | 慶尙道大水漂没一千八百餘戶潦死者五百七十餘人 |
| 同 十六年閏六月 | 同 十三年 | 一、八一六 | 黃海道大水漂没五百餘戶 |
| 同 十七年六月 | 仁孝天皇同十四年 | 一、八一七 | 全羅道大水漂没二千三百餘戶 潦死者八十餘人 |
| | | | 慶尙道 同 六百餘戶 同 三十餘人 |
| | | | 忠清道 同 六百餘戶 同 二十餘人 |

| | | | |
|-----------|----------|-------|------------------------|
| 同 十九年八月 | 同 文政二年 | 一、八一九 | 公清道大水漂没一千九百餘戶 同 一百七十餘人 |
| 同 二十年七月 | 同 三年 | 一、八二〇 | 平安道价川大水漂没二百餘戶 同 三百餘人 |
| 同 二十一年七月 | 同 四年 | 一、八二一 | 公清道同 七百餘戶 同 七十餘人 |
| 同 二十二年七月 | 同 五年 | 一、八二二 | 黃海道同 一千一百餘戶 同 二十餘人 |
| 同 二十三年六月 | 同 六年 | 一、八二三 | 慶尙道同 三千八百餘戶 同 六十人 |
| 同 七月 | 同 | 同 | 全羅道大水漂没七百餘戶 同 十人 |
| 同 二十四年閏七月 | 同 七年 | 一、八二四 | 同 一千二百餘戶 同 二十餘人 |
| 同 二十九年八月 | 同 十二年 | 一、八二九 | 咸鏡道大水漂没一千餘戶 同 一百六十餘人 |
| 同 三十二年七月 | 同 天保三年 | 一、八三二 | 慶尙道同 三百餘戶 同 八十餘人 |
| 同 八月 | 同 | 同 | 都城同 二百三十餘戶 |
| 同 三十四年七月 | 同 五年 | 一、八三四 | 公忠道同 一千二百餘戶 潦死者三十餘人 |
| 憲宗元年七月 | 同 六年 | 一、八三五 | 慶尙道同 一千五百餘戶 潦死者二十餘人 |
| 同 五年八月 | 同 十年 | 一、八三九 | 忠清道同 一千五百餘戶 同 一百二十餘人 |
| 同 十一年七月 | 同 弘化二年 | 一、八四五 | 平安道同 一千五百六十餘戶 同 二人 |
| 同 十二年七月 | 同 三年 | 一、八四六 | 慶尙道同 三千一百餘戶 同 四十餘人 |
| 同 十二年七月 | 同 弘化二年 | 一、八四五 | 黃海道同 三千六百餘戶 同 一百十餘人 |
| 同 十二年七月 | 同 弘化二年 | 一、八四五 | 平安道同 四千餘戶 同 五百餘人 |
| 同 十二年七月 | 同 弘化二年 | 一、八四五 | 黃海道同 六百四十餘戶 同 二十餘人 |
| 同 十二年七月 | 同 弘化二年 | 一、八四五 | 忠清道同 八百餘戶 |
| 哲宗元年七月 | 孝明天皇嘉永三年 | 一、八五〇 | 平安道同 二千五百餘戶 同 三十餘人 |
| 同 二年七月 | 同 四年 | 一、八五一 | 黃海道同 二千六百餘戶 同 四十餘人 |
| 同 八月 | 同 | 同 | 開城府同 八百餘戶 |
| 同 閏八月 | 同 | 同 | 全羅道同 一千三百九十餘戶 同 六十餘人 |
| 同 三年四月 | 同 五年 | 一、八五二 | 咸鏡道同 八百七十餘戶 |

第二章 災害の記録

朝鮮の災害

| | | | | | | | | |
|----|----|-----|-----|------|------|-----|------|----------------------------------|
| 世宗 | 壬寅 | 四月 | 丙午 | 應永二九 | 一四二二 | 五月 | 十九日 | 大雨豐壤離宮水間類初太上王於離宮之西引水爲池壘石爲階而構亭於其中 |
| 同 | 丙午 | 六月 | 丙寅 | 同三三 | 一四二六 | 七月 | 十七日 | 大雨京中十九戶漂流 |
| 同 | 庚申 | 六月 | 甲戌 | 永亨二二 | 一四四〇 | 七月 | 十一日 | 大雨城中川梁溢水邊人家多漂流 |
| 同 | 辛酉 | 七月 | 甲辰 | 嘉吉元 | 一四四一 | 八月 | 五日 | 大雨城中大水 |
| 同 | 同 | 八月 | 壬申 | 同 | 同 | 九月 | 二日 | 大雨夜城中大水漂流人家平地水三尺許 |
| 同 | 癸亥 | 八月 | 辛丑 | 同三 | 一四四三 | 九月 | 二十一日 | 漢江水溢沒人家 |
| 文宗 | 辛未 | 七月 | 丁未 | 寶德二 | 一四五一 | 八月 | 十六日 | 大雨街衢溢水深數尺川邊人家有或沒者 |
| 世祖 | 己卯 | 六月 | 戊辰 | 長祿三 | 一四五九 | 七月 | 二十六日 | 大雨城中水漲平地水深四五尺江水亦漲人多漂流 |
| 同 | 壬午 | 六月 | 甲申 | 寬正三 | 一四六二 | 七月 | 二十六日 | 大雨水邊家漂流 |
| 同 | 戊子 | 六月 | 庚寅 | 應仁二 | 一四六八 | 六月 | 三十日 | 大雨市街水深三四尺人多漂流 |
| 成宗 | 壬辰 | 五月 | 癸丑 | 文明四 | 一四七二 | 七月 | 二日 | 大雨水邊居民漂流多 |
| 中宗 | 辛未 | 七月 | 丙申 | 永正八 | 一五一一 | 八月 | 二日 | 大水平地水深數尺漂流民戶 |
| 同 | 庚辰 | 七月 | 乙亥 | 同二七 | 一五二〇 | 八月 | 三日 | 大雨沿江居民多被漂流沒家舍傾壓山岸沙汰人畜死者甚多京中及廣州尤甚 |
| 明宗 | 甲寅 | 六月 | 乙亥 | 天文二三 | 一五五四 | 七月 | 十五日 | 大水漢江水標二十一尺二寸 |
| 宣祖 | 丙子 | 十月 | 天正四 | 一五七六 | 一五七六 | | | 京城大水漂流人家 |
| 同 | 己卯 | | 同 | 同七 | 一五七九 | | | 春大水人多溺死 |
| 同 | 己丑 | 十一月 | 甲辰 | 同 | 一五八九 | 十二月 | 七日 | 大雨江水漲溢 |
| 同 | 戊戌 | 十二月 | 壬申 | 慶長四 | 一五九九 | 一月 | 十六日 | 大雨自昏至曉川溢 |
| 仁祖 | 丁卯 | 六月 | 丙辰 | 寬永四 | 一六二七 | 七月 | 三日 | 大風雨如注江上以常流水處基址尺量則以布帛尺十二尺五寸加漲溢 |
| 同 | 己巳 | 七月 | 辛未 | 同六 | 一六二九 | 八月 | 六日 | 禮曹啓曰立秋後霖雨累日禾穀損傷甲戌漢江水溢漂流沒江邊居民有十餘家 |

| | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|------|------|----|------|---|
| 同 | 癸酉 | 七月 | 己酉 | 同九 | 一六三三 | 八月 | 二十一日 | 中部水標自本月十八日至十九日平明下雨水標良中七尺五寸漲溢連夜下雨如注 |
| 同 | 丙子 | 五月 | 甲子 | 寬永二三 | 一六三六 | 六月 | 二十三日 | 漢江水如漲四十尺許戊辰今日下雨九尺五寸加流 |
| 同 | 同 | 六月 | 己卯 | 同 | 同 | 七月 | 八日 | 常流水基四尺五寸加漲溢漢江常流水二十八尺二寸加流中部水標常流良中五尺加流 |
| 同 | 辛巳 | 六月 | 乙巳 | 同 | 一六四一 | 七月 | 八日 | 夜下雨四尺五寸加流 |
| 同 | 壬午 | 六月 | 丁卯 | 同 | 一六四二 | 七月 | 二十五日 | 中部水標四尺流下 |
| 同 | 癸未 | 四月 | 壬子 | 同 | 一六四三 | 六月 | 三日 | 南部水標三尺五寸漲溢 |
| 同 | 同 | 五月 | 癸卯 | 同 | 同 | 同 | 二十六日 | 雨下漢江水基一尺五寸加漲溢十九日漢江常流水基加三尺五寸漲溢流下 |
| 同 | 同 | 六月 | 丙子 | 同 | 一六四六 | 七月 | 十三日 | 漢江常流塞以布帛尺十餘尺漲溢 |
| 同 | 丙戌 | 六月 | 丙子 | 正保三 | 一六四七 | 七月 | 十三日 | 水標直手本內看審則五尺流下事 |
| 同 | 同 | 十二月 | 壬辰 | 同 | 一六四七 | 一月 | 二十五日 | 南部水標未時下雨水標四尺流下 |
| 同 | 丁亥 | 七月 | 同 | 同 | 同 | 七月 | 二十九日 | 大雨三日漢江水漲 |
| 孝宗 | 庚寅 | 八月 | 己亥 | 慶安三 | 一六五〇 | 九月 | 十三日 | 京城大水 |
| 同 | 甲午 | 六月 | 丙寅 | 承應三 | 一六五四 | 七月 | 二十一日 | 京城大雨民多溺死者 |
| 同 | 丁酉 | 六月 | 己卯 | 明曆三 | 一六五七 | 七月 | 十八日 | 大雨附內水溢人有溺死者三角山小峰崩丁卯漢城府啓曰昨日暴雨川梁溢橋梁崩頽家舍漂流人民有溺死者 |
| 同 | 戊戌 | 六月 | 甲申 | 萬治元 | 一六五八 | 七月 | 十八日 | 南部水標去夜下雨三尺二寸流下 |
| 顯宗 | 壬寅 | 六月 | 丙寅 | 寬文二 | 一六六二 | 八月 | 八日 | 京城大水 |
| 同 | 丙午 | 六月 | 庚午 | 同 | 一六六六 | 七月 | 二十二日 | 大雨不止城中屋壞壓死亦多丁卯畿內大水水邊人家漂流甚多禾穀沈水傷損不可勝計 |
| 同 | 戊申 | 六月 | 乙亥 | 同 | 一六六八 | 七月 | 十六日 | 漢江水漲溢江邊人家五戶沈沒 |
| 同 | 辛亥 | 七月 | 甲子 | 同 | 一六七一 | 八月 | 十九日 | 自三日連晝夜大雨漢江水漲高至三十尺故設祭祈晴 |
| | | | | | | | | 自曉大雨暴注崇朝而止城中大小溝渠無不漲溢橋梁圯毀街成川人多溺死仁慶宮前橋圯猝死者至十四人城中水災之慘近古所未有 |

第二章 災害の記録

| | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|-----|------|-----|------|--|
| 肅宗 | 癸巳 | 閏五月 | 甲戌 | 正德三 | 一七二三 | 七月 | 二十日 | 潦水漲十一尺三寸 |
| 同 | 甲午 | 六月 | 己亥 | 同四 | 一七二四 | 八月 | 九日 | 同九尺七寸 |
| 同 | 乙未 | 七月 | 丁酉 | 同 | 同 | 九月 | 六日 | 同十三尺二寸 |
| 同 | 丙申 | 八月 | 己未 | 同五 | 一七二五 | 六月 | 二十五日 | 同十六尺五寸 |
| 同 | 丁酉 | 五月 | 癸酉 | 同 | 同 | 七月 | 九日 | 同二十五尺 |
| 同 | 戊戌 | 六月 | 丙子 | 享保元 | 一七二六 | 七月 | 六日 | 中部七尺庚辰中部七尺潦水漲七尺癸未潦水大漲以布帛尺二十五尺八寸 |
| 同 | 己亥 | 五月 | 辛巳 | 同二 | 一七二七 | 七月 | 六日 | 潦水漲十一尺一寸 |
| 同 | 庚辰 | 六月 | 戊子 | 同三 | 同 | 七月 | 十三日 | 潦水漲二十五尺八寸 |
| 同 | 辛巳 | 七月 | 癸未 | 同四 | 一七一八 | 八月 | 十五日 | 中部水標上過流甲申中部五尺丙戌漢江十尺五寸 |
| 同 | 壬午 | 八月 | 甲子 | 同五 | 同 | 八月 | 二十日 | 中部五尺五寸 |
| 同 | 癸未 | 九月 | 乙卯 | 同六 | 一七一九 | 八月 | 二十日 | 漢江漲溢五尺二寸庚子中部十二尺幾越霖雨江水大漲七尺五寸癸酉霖雨暴注江水漲三十五尺流下 |
| 英祖 | 丙寅 | 七月 | 辛丑 | 延享三 | 一七四六 | 八月 | 二十三日 | 中部六尺漢江五尺五寸 |
| 景宗 | 壬寅 | 五月 | 己酉 | 同七 | 一七二二 | 七月 | 八日 | 漢江水漲溢五尺五寸 |
| 同 | 癸卯 | 六月 | 庚辰 | 同八 | 一七五八 | 八月 | 十二日 | 大霖雨連日平地水深丈餘道路不通廬舍漂沒城中人畜亦多溺死者 |
| 同 | 甲辰 | 七月 | 辛巳 | 寶曆二 | 一七五二 | 八月 | 一日 | 京畿大水人物壓死者三十三人家漂沒者二百十餘戶 |
| 同 | 乙巳 | 八月 | 壬午 | 同九 | 一七六〇 | 九月 | 十二日 | 漢江以布帛尺十九尺加流 |
| 同 | 丙午 | 九月 | 癸未 | 同十 | 一七六六 | 十月 | 六日 | 漢江以布帛尺十二尺加漲辛丑水標五尺五寸 |
| 同 | 丁未 | 十月 | 甲申 | 同十一 | 一七六二 | 十一月 | 六日 | 漢江以布帛尺九尺加漲 |
| 同 | 戊申 | 十一月 | 乙酉 | 同十二 | 一七六八 | 十二月 | 六日 | 漢江以布帛尺三寸漢江以布帛尺二十尺加漲 |
| 同 | 己酉 | 十二月 | 丙戌 | 同十三 | 一七六四 | 同 | 同 | 同 |

| | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|-----|------|-----|------|---|
| 同 | 甲申 | 六月 | 辛卯 | 明和元 | 一七六四 | 七月 | 九日 | 水標五尺二寸 |
| 同 | 乙酉 | 五月 | 壬辰 | 同二 | 一七六五 | 七月 | 五日 | 水標五尺三寸 |
| 同 | 丙戌 | 六月 | 癸巳 | 同三 | 一七六六 | 七月 | 九日 | 水標十尺之上過流 |
| 同 | 丁亥 | 七月 | 甲午 | 同四 | 一七六七 | 八月 | 九日 | 水標五尺五寸 |
| 同 | 戊子 | 八月 | 乙未 | 同五 | 一七六八 | 八月 | 二十三日 | 漢江水漲溢以布帛尺五尺 |
| 同 | 己丑 | 九月 | 丙申 | 同六 | 一七六九 | 九月 | 十九日 | 漢江以布帛尺七尺添流乙未水標十尺之上過流丙午水標五尺二寸 |
| 同 | 庚寅 | 十月 | 丁酉 | 同七 | 一七七〇 | 十月 | 七日 | 漢江以布帛尺五尺添流 |
| 同 | 辛卯 | 十一月 | 戊戌 | 同八 | 一七七一 | 十一月 | 十八日 | 漢江以布帛尺五尺添流 |
| 同 | 壬辰 | 十二月 | 己亥 | 同九 | 一七七二 | 十二月 | 十八日 | 漢江以布帛尺五尺添流 |
| 同 | 癸巳 | 正月 | 庚子 | 同十 | 一七七三 | 正月 | 四日 | 漢江以布帛尺五尺許添流水標三尺九寸流下矣常流水甚良中合八尺添流 |
| 同 | 甲午 | 二月 | 辛丑 | 同十一 | 一七七四 | 二月 | 十日 | 漢江以布帛尺十三尺添流 |
| 正祖 | 乙未 | 三月 | 壬寅 | 同十二 | 一七七五 | 三月 | 二十八日 | 漢江七尺添流 |
| 同 | 丙申 | 四月 | 癸卯 | 同十三 | 一七七六 | 四月 | 十三日 | 漢江十尺添流 |
| 同 | 丁酉 | 五月 | 甲辰 | 同十四 | 一七七七 | 五月 | 十三日 | 漢江五尺添流癸卯漢江五尺添流 |
| 同 | 戊戌 | 六月 | 乙巳 | 同十五 | 一七七八 | 六月 | 十三日 | 漢江十尺添流 |
| 同 | 己亥 | 七月 | 丙午 | 同十六 | 一七七八 | 七月 | 二十二日 | 漢江十尺添流 |
| 同 | 庚子 | 八月 | 丁未 | 同十七 | 一七八〇 | 八月 | 二十二日 | 時久霖江漲 |
| 純祖 | 辛丑 | 九月 | 戊申 | 同十八 | 一八〇四 | 九月 | 十六日 | 江華留守吳載紹以本月十二日雨水深一尺六寸二分西南雨水門及南三水門辨爲頽圮民家漂溺百餘戶人物斃死七名啓 |
| 同 | 壬寅 | 十月 | 己酉 | 同十九 | 一八一七 | 十月 | 十九日 | 時霖雨屢都下五部民家漂溺七百七十八戶自六月初霖雨連綿多或盈尺前後合部內民家漂溺一千七十九戶北漢人物壓死者十六名其名八道漂溺四千二十六戶壓死者百六十五名 |
| 同 | 癸卯 | 十一月 | 庚戌 | 同二十 | 一八二一 | 十一月 | 七日 | 同 |

朝鮮の災害の記録

| 年 | 日 | 本 | 西 | 曆 | 記 | | | |
|------|-----------|----------|-----|------------|------|-----|------|---------------------|
| 純祖 | 壬辰 | 六月 | 癸未 | 天保三 | 一八三二 | 七月 | 五日 | 總或使柳相亮以今月二十二日夜暴雨本城 |
| 憲宗 | 丙午 | 九月 | 辛卯 | 弘化三 | 一八四六 | 十一月 | 九日 | 行宮後麓及山谷處々沙汰行宮公廟僧寺樓 |
| 哲宗 | 丁巳 | 四月 | 甲午 | 安政四 | 一八五七 | 五月 | 六日 | 十名是歲六月後至七月平無日不 |
| 同 | 己未 | 六月 | 丙寅 | 同 | 一八五九 | 七月 | 二十七日 | 百六十六戶一尺前後六部民家類三千一 |
| 高麗恭本 | 二年三月 | 垂仁天皇七十八年 | 四九 | 暴風拔樹 | | | | 是歲夏秋外大水五部類民家凡三千九 |
| 新羅儲理 | 王三十三年五月 | 垂仁天皇八十五年 | 五六 | 大風拔木 | | | | 人命餘死且多 |
| 同 | 脫解王二十四年四月 | 景行天皇十 | 八〇 | 京都大風 | | | | 教曰霖雨支離近於災異豫心恐懼次對千照 |
| 百濟已婁 | 王十四年六月 | 同 | 九〇 | 大風拔木 | | | | 政堂上曰連日之雨便成長霖極其垂宜豫心 |
| 新羅婆婁 | 王十七年七月 | 同 | 九六 | 暴風自南拔金城南大樹 | | | | 雨數日此雨已淡旬有餘矣田疇之潰缺千穀 |
| 同 | 祇摩王十一年四月 | 同 | 一二二 | 大風東來折木飛瓦 | | | | 之沈熱即應是必然之勢焉心惶々內枕靡安於 |
| 百濟竹古 | 王四十四年十月 | 神功(攝政)九年 | 二〇九 | 大風折木 | | | | 民家漂溺死亦難保其必無發遣宜傳官與 |
| 新羅奈解 | 王十九年三月 | 同 | 二一四 | 大風折木 | | | | 五部官員這々摘奸 |

五四

暴風

| | | | | | |
|------|-----------|------------|-----|-------------|------|
| 同 | 助賁王四年四月 | 同 | 三十三 | 大風飛瓦 | |
| 同 | 味鄒王十七年四月 | 應仁天皇九 | 二七八 | 暴風拔木 | 大風飛瓦 |
| 高麗美川 | 王元年十二月 | 同 | 三〇〇 | 風從西北來飛瓦走石六日 | |
| 新羅訖解 | 王三十五年四月 | 仁德天皇三十二年 | 三四四 | 暴風拔宮南大樹 | |
| 百濟昆有 | 王三年十一月 | 允恭天皇十八年 | 四二九 | 大風飛瓦 | |
| 新羅訖祇 | 王十九年正月 | 同 | 四三五 | 大風拔木 | |
| 同 | 四十二年四月 | 同 | 四三八 | 京都大風 | |
| 同 | 四十二年二月 | 同 | 四五二 | 大風拔木 | |
| 同 | 四十二年四月 | 同 | 四八二 | 大風拔木 | |
| 同 | 十二年四月 | 仁賢天皇三 | 四九〇 | 暴風拔木 | |
| 百濟東城 | 王十四年四月 | 同 | 四九二 | 大風拔木 | |
| 高麗文咨 | 王二十七年三月 | 繼體天皇十一年 | 五一七 | 大風拔木毀宮南門 | |
| 高麗安原 | 王十二年三月 | 欽明天皇三 | 五四二 | 大風飛瓦拔木 | |
| 新羅眞平 | 王四十九年三月 | 推古天皇三十五年 | 六二七 | 大風土雨五日 | |
| 同 | 文武王十四年七月 | 天武天皇二 | 六七四 | 大風毀皇龍寺佛殿 | |
| 同 | 孝昭王七年二月 | 文武天皇二 | 六九八 | 大風折木 | |
| 同 | 聖德王十五年三月 | 元正天皇靈龜二年 | 七二六 | 大風拔木飛瓦毀崇禮殿 | |
| 同 | 景德王八年三月 | 孝謙天皇(天平、天 | 七四九 | 暴風拔木 | |
| 同 | 二十二年七月 | 平感寶(天平勝寶 | 七六三 | 京都大風飛瓦拔木 | |
| 同 | 元聖王九年八月 | 淳仁天皇天平寶字七年 | 七九三 | 大風折木偃禾 | |
| 同 | 桓武天皇延曆十二年 | 桓武天皇延曆十二年 | 七九三 | 大風折木偃禾 | |

第二章 災害の記録

五五

朝鮮の災害

| | | | |
|-----------|------------|-------|--------------------|
| 新羅昭聖王二年四月 | 桓武天皇延暦十九年 | 八〇〇 | 暴風毀臨海仁化二門瑞蘭殿簾飛不知去處 |
| 同 文聖王十二年 | 仁孝天皇嘉祥三年 | 八五〇 | 京都大風拔木 |
| 同 景明王五年四月 | 醍醐天皇延喜二十一年 | 九二一 | 京都大風拔木 |
| 高麗太祖十五年五月 | 朱雀天皇承平二年 | 九三二 | 西京大風官舍類毀屋瓦皆飛 |
| 光宗元年正月 | 村上天皇天曆四年 | 九五〇 | 大風拔木 |
| 同 十二年四月 | 同 應和元年 | 九六一 | 大風雨拔木 |
| 穆宗十二年正月 | 一條天皇寬弘六年 | 一、〇〇九 | 幸崇教寺暴風折傘蓋柄 |
| 顯宗二年六月 | 同 八年 | 一、〇一一 | 暴風飛瓦拔木 |
| 同 四年四月 | 三條天皇長和二年 | 一、〇一三 | 大風三日 |
| 同 六年四月 | 同 四年 | 一、〇一五 | 大風折木 |
| 同 十一年十一月 | 後一條天皇寬仁四年 | 一、〇二〇 | 大風 |
| 同 十三年十月 | 同 治安二年 | 一、〇二二 | 暴風拔木 |
| 靖宗六年七月 | 後朱雀天皇長久元年 | 一、〇四〇 | 暴雨疾風路人有殞死者廣化門鳴吻頽 |
| 文宗四年二月 | 後冷泉天皇永承五年 | 一、〇五〇 | 暴風折木拔屋三日 |
| 同 六年七月 | 同 七年 | 一、〇五二 | 大風毀屋折木 |
| 同 三十六年九月 | 白河天皇永保二年 | 一、〇八二 | 大風折木 |
| 宣宗四年三月 | 堀河天皇寬治元年 | 一、〇八七 | 大風拔木 |
| 同 六年四月 | 同 三年 | 一、〇八九 | 寒風大起 |
| 睿宗二年八月 | 鳥羽天皇嘉承二年 | 一、一〇七 | 納李養謙第三女大風飛瓦拔木 |
| 同 三年正月 | 同 天仁元年 | 一、一〇八 | 大風 |

| | | | |
|---------|----------|-------|-----------|
| 同 閏三月 | 同 | 同 | 大風晝晦 |
| 同 五年八月 | 天永元年 | 一、一一〇 | 大風拔木偃禾 |
| 同 八年四月 | 同 永久元年 | 一、一一三 | 大風拔木 |
| 同 十一年六月 | 同 永久四年 | 一、一一六 | 大風二日 |
| 同 十二年四月 | 同 五年 | 一、一一七 | 大風 |
| 同 十四年六月 | 同 元永二年 | 一、一一九 | 大風 |
| 同 十七年十月 | 同 保安三年 | 一、一二二 | 大風雨 |
| 仁宗元年十月 | 同 四年 | 一、一二三 | 大風拔木 |
| 同 二年正月 | 崇德天皇天治元年 | 一、一二四 | 同 |
| 同 三月 | 同 | 同 | 大風 |
| 同 閏三月壬辰 | 同 | 同 | 大風昇平門鷗治動搖 |
| 同 八月戊午 | 同 | 同 | 大風飛瓦拔木 |
| 同 己未 | 同 | 同 | 大風拔木 |
| 同 五年八月 | 同 大治二年 | 一、一二七 | 暴風拔木 |
| 同 六年九月 | 同 三年 | 一、一二八 | 大風 |
| 同 八年六月 | 同 五年 | 一、一三〇 | 暴風揚沙折木 |
| 同 七月 | 同 | 同 | 暴風拔木 |
| 同 十月 | 同 | 同 | 大風拔木 |
| 同 九年二月 | 同 天承元年 | 一、一三一 | 同 |
| 同 十月 | 同 | 同 | 同 |

第二章 災害の記録

朝鮮の災害

| | | | | |
|----|---------|-------------|-------|------------------------|
| 仁宗 | 九年十一月 | 崇德天皇承元年 | 一、一三一 | 大風雨 |
| 同 | 十一年十二月 | 同 長承二年 | 一、一三三 | 大風拔木 |
| 同 | 十二年八月 | 同 三年 | 一、一三四 | 同 大風 |
| 同 | 十三年五月 | 同 保延元年 | 一、一三五 | 大風拔木 |
| 同 | 十六年八月 | 同 四年 | 一、一三八 | 同 大風 |
| 同 | 十八年六月 | 同 六年 | 一、一四〇 | 有良風凡五日百穀草木枯死過半蚯蚓出死道傍可掬 |
| 同 | 二十年正月乙未 | 近衛天皇康治元年 | 一、一四二 | 大風終日飛沙走石 |
| 同 | 丁巳 | 同 | 同 | 大風飛沙 |
| 同 | 毅宗元年正月 | 同 久安三年 | 一、一四七 | 大風折木拔屋 |
| 同 | 十一年正月 | 同 後白河天皇保元二年 | 一、一五七 | 風從轉來 |
| 同 | 十二年八月 | 同 三年 | 一、一五八 | 子尙書刑部奏決重刑大風雨拔木飛瓦 |
| 同 | 十五年七月 | 同 二條天皇應保元年 | 一、一六一 | 大風拔木 |
| 同 | 十八年五月 | 同 長寬二年 | 一、一六四 | 大風傷穀 |
| 同 | 明宗四年九月 | 同 高倉天皇承安四年 | 一、一七四 | 大風早草木萎黃 |
| 同 | 七年五月 | 同 治承元年 | 一、一七七 | 大風飛沙走石二日 |
| 同 | 八年三月 | 同 二年 | 一、一七八 | 暴風拔木 |
| 同 | 四月 | 同 | 同 | 大風揚沙石 |
| 同 | 九月 | 同 | 同 | 亦如之 |
| 同 | 九年七月 | 同 三年 | 一、一七九 | 大風昇平門右屏尾頰 |
| | | | | 大風傷穀 |

| | | | | | |
|---|--------|-------------|-------|--------------------------------|------------|
| 同 | 九月 | 同 | 同 | 同 | 大風雨奉定門右鳴尾頰 |
| 同 | 十年八月 | 同 四年 | 一、一八〇 | 大風拔木 | |
| 同 | 十一年正月 | 同 安徳天皇養和元年 | 一、一八一 | 同 | |
| 同 | 十七年三月 | 同 後鳥羽天皇文治三年 | 一、一八七 | 同 大風 | |
| 同 | 七月 | 同 | 同 | 大風 | |
| 同 | 十八年八月 | 同 四年 | 一、一八八 | 大風拔木 | |
| 同 | 十一月 | 同 | 同 | 大風雨三日 | |
| 同 | 二十三年十月 | 同 建久四年 | 一、一九三 | 大風雨 | |
| 同 | 二十七年九月 | 同 建久八年 | 一、一九七 | 暴風拔興國寺南道傍樹吹入獄中垣墻盡頰近獄新步廊十八門一時壞仆 | |
| 同 | 康宗元年七月 | 同 順徳天皇建曆二年 | 一、二〇二 | 大風拔木 | |
| 同 | 高宗二年四月 | 同 建保三年 | 一、二一五 | 大風拔木連日 | |
| 同 | 八月 | 同 | 同 | 大風拔木傷禾 | |
| 同 | 四年九月 | 同 五年 | 一、二二七 | 大風雨 | |
| 同 | 十五年正月 | 同 後堀河天皇安貞二年 | 一、二二八 | 大風拔木 | |
| 同 | 二十二年二月 | 同 四條天皇嘉祿元年 | 一、二三五 | 恒風 | |
| 同 | 三十二年九月 | 同 後嵯峨天皇寬元三年 | 一、二四五 | 暴風飛瓦 | |
| 同 | 三十三年七月 | 同 四年 | 一、二四六 | 大風振屋 | |
| 同 | 四十一年正月 | 同 後深草天皇建長六年 | 一、二五四 | 大風飛瓦 | |
| 同 | 三月 | 同 | 同 | 亦如之 | |
| 同 | 閏六月 | 同 | 同 | 大風拔木 | |

第二章 災害の記録

朝鮮の災害

| | | | |
|-----------|-----------|-------|------------------------|
| 高宗 四十四年三月 | 後深草天皇正嘉元年 | 一、二五七 | 恒風 |
| 同 九月 | 同 | 同 | 大風飛瓦 |
| 同 四十六年六月 | 同 正元元年 | 一、二五九 | 大風雨 |
| 元宗 十年六月 | 龜山天皇永永六年 | 一、二六九 | 暴風雨拔木飛瓦 |
| 忠烈王 六年八月 | 後宇多天皇弘安三年 | 一、二八〇 | 全羅道大風七日川溢損禾 |
| 同 九年四月 | 同 六年 | 一、二八三 | 夜暴風大起 |
| 同 十一年七月 | 同 八年 | 一、二八五 | 大風拔木飛瓦 |
| 同 十四年八月 | 伏見天皇正應元年 | 一、二八八 | 大風傷禾 |
| 同 十九年四月 | 同 永仁元年 | 一、二九三 | 暴風傷禾 |
| 同 二十一年七月 | 同 三年 | 一、二九五 | 大風拔木 |
| 同 二十四年二月 | 同 六年 | 一、二九八 | 大風雨 |
| 同 二十七年五月 | 後伏見天皇正安三年 | 一、三〇一 | 慶尚道安東府中曲大風拔一大樹置二里許枝幹不折 |
| 忠宣王 三年二月 | 花園天皇應長元年 | 一、三一一 | 大風屋瓦皆飛 |
| 忠肅王 五年二月 | 同 正和二年 | 一、三一一 | 夜大風雨穢庭東西廊頽 |
| 同 六月 | 同 | 同 | 大風行路不行 |
| 同 六月 | 同 | 同 | 大風雨 |
| 同 八月 | 同 | 同 | 大風雨禾偃木拔凡二日 |
| 同 六月 | 後醍醐天皇元應元年 | 一、三一九 | 大風雨 |
| 同 七月 | 同 | 同 | 同 |
| 同 八月 | 同 | 同 | 夜大風 |

| | | | |
|--------------|-----------|-------|------------------------|
| 同 十五年十一月 | 同 嘉曆三年 | 一、三二八 | 大風 |
| 同 (復位)六年十月 | 同 延元二年 | 一、三三七 | 北風大作揚沙石人馬不能前 |
| 同 七年七月 | 同 三年 | 一、三三八 | 大風雨拔屋偃禾 |
| 忠惠王(復位)二年十二月 | 後村上天皇興國二年 | 一、三四一 | 大風拔松樹數千章 |
| 忠穆王 元年七月 | 同 六年 | 一、三四五 | 大風雨拔松岳樹 |
| 同 三年五月 | 同 正平二年 | 一、三四七 | 大風飛瓦 |
| 忠定王 元年閏七月 | 同 四年 | 一、三四九 | 大風雨城中屋瓦皆飛儀鳳樓頽松岳龍首兩山松盡拔 |
| 同 十月 | 同 | 同 | 大風看樂樓頽 |
| 同 二年六月 | 同 五年 | 一、三五〇 | 暴風雨拔木損禾 |
| 同 三年正月 | 同 六年 | 一、三五一 | 颶風暴作翌日乃至 |
| 同 十二月 | 同 | 同 | 颶風大作 |
| 恭愍王 二年正月 | 同 八年 | 一、三五三 | 大風 |
| 同 十一月 | 同 | 同 | 同 |
| 同 三年正月 | 同 九年 | 一、三五四 | 同 |
| 同 五年正月 | 同 十一年 | 一、三五六 | 同 |
| 同 六年九月 | 同 十二年 | 一、三五七 | 大風拔木飛瓦二日 |
| 同 七年二月 | 同 十三年 | 一、三五八 | 大風晝晦 |
| 同 八年正月 | 同 十四年 | 一、三五九 | 大風拔木 |
| 同 七月 | 同 | 同 | 大風雨 |
| 同 十二年閏三月甲午 | 同 十八年 | 一、三六三 | 旋風忽起吹亂市廛諸物高舉空中落巡軍庭人爭拾取 |
| 同 十四年正月 | 同 二十年 | 一、三六五 | 大風雨 |

第二章 災害の記録

| 朝鮮 | 年 | 代 | 日本皇紀 | 西曆 | 摘要 |
|--------|------|-----|----------|-----|------------|
| 高麗琉璃王 | 二十一年 | 八月 | 垂仁天皇三十一年 | 二 | 地震 |
| 百濟溫祚王 | 三十一年 | 五月 | 同 | 一三 | 同 |
| 同 | 六月 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 高麗大武神王 | 二年 | 正月 | 同 | 一九 | 同 |
| 百濟溫祚王 | 四十五年 | 十月 | 同 | 二七 | 地大震屋舍皆倒 |
| ○新羅儒理王 | 十一年 | 二月 | 同 | 三四 | 京都地震泉湧 |
| 百濟多婁王 | 十年 | 十一月 | 同 | 三七 | 地震聲如雷 |
| 新羅脫解王 | 八年 | 十二月 | 同 | 六四 | 地震 |
| 百濟己婁王 | 十三年 | 六月 | 景行天皇十九年 | 八九 | 地震裂陷民屋多有死者 |
| 同 | 十月 | 同 | 同 | 同 | 地震 |
| 新羅婆娑王 | 十四年 | 十月 | 同 | 九三 | 京都地震 |
| 同 | 二十一年 | 十月 | 同 | 一〇〇 | 京都地震屋倒民有死者 |
| ○百濟己婁王 | 三十五年 | 三月 | 同 | 一一一 | 地震 |
| 高句麗太祖王 | 六十六年 | 二月 | 同 | 一一八 | 同 |
| 新羅祗摩王 | 十二年 | 五月 | 同 | 一二三 | 金城民爲陷爲池美栗生 |
| 高句麗太祖王 | 七十二年 | 十一月 | 同 | 一二四 | 京都地震 |
| 新羅祗摩王 | 十七年 | 十月 | 同 | 一二八 | 國東地震 |
| 高句麗太祖王 | 九十年 | 同 | 成務天皇十二年 | 一四二 | 丸都地震 |
| 同 | 大正二年 | 十一月 | 同 | 一四七 | 地震 |

| 朝鮮 | 年 | 代 | 日本皇紀 | 西曆 | 摘要 |
|---------|--------|-----|-------------|-----|---------------|
| ○同 | 八年 | 十二月 | 同 | 一五三 | 同 |
| 新羅阿達羅王 | 十七年 | 七月 | 同 | 一七〇 | 京都地震 |
| 百濟肖古王 | 三十四年 | 七月 | 仲哀天皇八年 | 一九九 | 地震 |
| 高麗山上王 | 二十一年 | 十月 | 神功皇后(攝政)十七年 | 二一八 | 同 |
| 新羅奈解王 | 三十四年 | 九月 | 同 | 二二九 | 同 |
| 同 | 助賈王十七年 | 十一月 | 同 | 二四六 | 京都地震 |
| 高句麗中川王 | 七年 | 七月 | 同 | 二五四 | 地震 |
| 同 | 十五年 | 十一月 | 同 | 二六二 | 同 |
| 同 | 西川王二年 | 十二月 | 應神天皇二年 | 二七一 | 同 |
| 同 | 十九年 | 九月 | 同 | 二八八 | 同 |
| 同 | 燉上王元年 | 九月 | 同 | 二九二 | 同 |
| 同 | 八年 | 十二月 | 同 | 二九九 | 同 |
| 同 | 九年 | 正月 | 同 | 三〇〇 | 同 |
| ○新羅基臨王 | 七年 | 八月 | 同 | 三〇四 | 地震泉湧 |
| ○同 | 九月 | 同 | 同 | 三〇四 | 京都又震壞室屋民有死者 |
| 百濟近肖古王 | 二十七年 | 七月 | 仁德天皇六十年 | 三七二 | 地震 |
| 同 | 近仇首王六年 | 五月 | 同 | 三八〇 | 地裂深五尺橫廣三丈三日而合 |
| 高句麗故國壤王 | 二年 | 十二月 | 同 | 三八五 | 地震 |
| 新羅奈勿王 | 三十三年 | 四月 | 同 | 三八八 | 京都地震 |
| 同 | 六月 | 同 | 同 | 同 | 同 |

朝鮮の災害

| | | | |
|--------------|----------|-----|---------------|
| 新羅實聖王五年十月 | 反正天皇元年 | 四〇六 | 京都地震 |
| 百濟毗有王三年十一月 | 允恭天皇十八年 | 四二九 | 地震 |
| ○新羅訥祇王四十二年二月 | 雄略天皇二年 | 四五八 | 地震金城南門毀 |
| 同 慈悲王十四年三月 | 同 十五年 | 四七一 | 京都地震廣袤二十丈濁水湧出 |
| 同 二十一年十月 | 同 二十二年 | 四七八 | 京都地震 |
| 高句麗文咨王二年十月 | 仁賢天皇五年 | 四九二 | 地震 |
| ○同 十二年十月 | 武烈天皇四年 | 五〇二 | 地震民屋倒墮有壓死者 |
| ○新羅智證王十一年五月 | 繼體天皇四年 | 五一〇 | 地震民屋有壓死者 |
| 百濟武寧王二十二年十月 | 同 十六年 | 五二二 | 地震 |
| 高句麗安原王五年十月 | 安閑天皇四年 | 五三五 | 同 |
| 新羅眞興王元年十月 | 欽明天皇元年 | 五四〇 | 同 |
| 百濟威德王二十六年十月 | 敏達天皇八年 | 五七九 | 同 |
| 新羅眞平王三十七年十月 | 推古天皇二十三年 | 六一五 | 同 |
| 百濟武王十七年十一月 | 同 二十四年 | 六一六 | 京都地震 |
| 新羅眞平王五十二年 | 舒明天皇二年 | 六三〇 | 宮庭地震 |
| 同 善德女王二年二月 | 同 五年 | 六三三 | 京都地震 |
| 百濟武王三十八年二月 | 同 九年 | 六三七 | 同 |
| 同 三十三三月 | 同 三十四三月 | 同 | 同 |
| ○新羅文武王四年三月 | 天智天皇三年 | 六六四 | 地震 |
| ○同 八平八月 | 同 三十三三月 | 同 | 地震壞民屋南方尤甚 |

| | | | |
|-----------|------------|-----|-------|
| 同 十六年二月 | 同 五年 | 六六六 | 京都地震 |
| 同 十年十二月 | 同 九年 | 六七〇 | 同 |
| 同 十三年正月 | 天武天皇元年 | 六七三 | 地震 |
| 同 二十一年五月 | 同 九年 | 六八一 | 同 |
| 同 孝昭王四年 | 持統天皇九年 | 六九五 | 京都地震 |
| 同 同 七年二月 | 文武天皇二年 | 六九八 | 京都地震 |
| 同 聖德王七年二月 | 元明天皇和銅元年 | 七〇八 | 地震 |
| 同 九年 | 同 四年 | 七一〇 | 同 |
| 同 十六年四月 | 元正天皇養老元年 | 七二七 | 同 |
| 同 十七年三月 | 同 二年 | 七二八 | 同 |
| 同 十九年正月 | 同 四年 | 七二〇 | 同 |
| 同 二十年二月 | 同 五年 | 七二一 | 京都地震 |
| 同 二十二年四月 | 同 七年 | 七二三 | 地震 |
| 同 二十四年十月 | 聖武天皇神龜二年 | 七二五 | 地震 |
| 同 孝成王元年二月 | 同 天平九年 | 七三七 | 地震 |
| 同 六年二月 | 同 十四年 | 七四二 | 地震聲如雷 |
| 同 景德王二年八月 | 同 十五年 | 七四三 | 地震 |
| 同 二十四年四月 | 稱徳天皇天平神護元年 | 七六五 | 同 |
| 同 惠恭王二年二月 | 同 二年 | 七六六 | 同 |
| ○同 三年六月 | 同 神護景雲元年 | 七六七 | 同 |

康州地陷成池縱橫五十餘尺水色青黑勿有鯉魚五六相繼而漸大濁亦隨大

第二章 災害の記録

朝鮮の災害

| | | | |
|--------------|-----------|-------|---|
| 高麗顯宗十六年七月 | 後一條天皇萬壽元年 | 一、〇二五 | 慶尚清州安東密城地震 |
| 同 二十一年 | 同 長元三年 | 一、〇三〇 | 交州翼嶺洞山縣地震 |
| 同 德宗元年十月 | 同 五年 | 一、〇三二 | 尙州等十餘縣地震 |
| 同 二年六月 | 同 六年 | 一、〇三三 | 安東陝州地震 |
| 同 靖宗元年六月丙辰 | 同 八年 | 一、〇三五 | 京都地震 |
| 同 八月辛未 | 同 | 〇〇〇 | 又震聲如雷 |
| 同 九月癸卯 | 同 | 〇〇〇 | 慶州等九州地震 |
| 〇同 二年六月戊辰 | 同 九年 | 一、〇三六 | 〔京城及東京尙廣二州、安邊府等管内州縣地震毀民屋 慶東京三日而止 東京管内州縣及全州密城地震聲如雷 龜湖泰州及咸遠鎮地震 |
| 同 八月戊辰 | 同 | 同 | 朔安西府地震 |
| 同 三年九月己酉 | 後朱雀天皇長曆元年 | 一、〇三七 | 地 震 |
| 同 文宗六年二月丁丑 | 後冷泉天皇永承七年 | 一、〇五二 | 京都地震 |
| 同 十二年四月壬子 | 同 康平元年 | 一、〇五八 | 地 震 |
| 同 二十年四月庚辰 | 同 治曆二年 | 一、〇六六 | 京都地震 |
| 同 二十七年正月乙巳 | 白河天皇延久五年 | 一、〇七三 | 地 震 |
| 同 宣宗九年十二月壬申 | 堀河天皇寬治六年 | 一、〇九二 | 同 |
| 同 肅宗八年十一月己丑 | 同 康和五年 | 一、一〇三 | 京都地震 |
| 同 十二月戊午 | 同 | 同 | 同 |
| 同 睿宗十二年十二月戊辰 | 鳥羽天皇永久五年 | 一、一一七 | 地 震 |
| 同 仁宗十二年六月己卯 | 崇德天皇長承三年 | 一、一三四 | 東京地震 |
| 同 十五年三月乙亥 | 同 保延三年 | 一、一三七 | 西京地震 |

第二章 災害の記録

| | | | |
|-------------|-----------|-------|--------------------|
| 同 毅宗六年三月丙申 | 近衛天皇仁平二年 | 一、一五二 | 地 震 |
| 同 四月丙寅 | 同 | 同 | 同 |
| 同 十三年十二月乙未 | 二條天皇平治元年 | 一、一五九 | 地震聲如雷 |
| 同 十七年十月丙寅 | 同 長寬元年 | 一、一六三 | 地 震 |
| 同 明宗元年十二月辛卯 | 高倉天皇承安元年 | 一、一七一 | 同 |
| 同 九年十一月戊午 | 同 治承三年 | 一、一七九 | 同 |
| 同 十二月 | 同 | 同 | 同 |
| 同 十四年三月辛丑 | 安德天皇壽永三年 | 一、一八四 | 京都地震 |
| 同 二十一年八月 | 後鳥羽天皇建久二年 | 一、一九一 | 德水縣地陷深三丈 |
| 同 二十六年二月丁卯 | 同 七年 | 一、一九六 | 京都地震 |
| 同 康宗二年三月甲子 | 順德天皇建保元年 | 一、二一三 | 羅州地震 |
| 同 高宗元年五月庚辰 | 同 二年 | 一、二一四 | 西京法器寺屋地陷周八十兩尺深二十尺許 |
| 同 二年正月辛未 | 同 三年 | 一、二一五 | 地 震 |
| 同 三年正月 | 同 四年 | 一、二二六 | 同 |
| 同 六年八月 | 同 承久元年 | 一、二一九 | 同 |
| 同 十年八月甲申 | 後堀河天皇貞應二年 | 一、二二二 | 西京地連日大震 |
| 同 己酉 | 同 | 同 | 同 |
| 同 十三年正月辛卯 | 同 喜祿二年 | 一、二二六 | 地 震 |
| 〇同 十月己丑 | 同 | 同 | 地震屋瓦皆墮 |
| 同 乙未 | 同 | 同 | 同 |

朝鮮の災害

| | | | |
|--------------|-----------|-------|--------------|
| 高麗高宗十四年二月庚寅 | 後堀河天皇安貞元年 | 一、二二七 | 地大震 |
| 同 癸卯 | 同 | 同 | 同 |
| 同 十五年正月丙子 | 同 二年 | 一、二二八 | 地震 |
| 同 十一月辛未 | 同 | 同 | 同 |
| 同 十八年十月壬戌 | 同 寬喜三年 | 一、二三一 | 同 |
| 同 四十一年八月甲戌 | 後深草天皇建長六年 | 一、二五四 | 同 |
| 同 四十二年三月 | 同 七年 | 一、二五五 | 同 |
| 同 四十四年九月辛酉 | 同 正嘉元年 | 一、二五七 | 京都地震 |
| 同 四十五年七月 | 同 二年 | 一、二五八 | 地震 |
| 同 四十六年十一月 | 同 正元元年 | 一、二五九 | 同 |
| ○同 元宗元年五月庚戌 | 龜山天皇文應元年 | 一、二六〇 | 地大震 塔屋崩頽京都尤甚 |
| 同 七月 癸酉 | 同 | 同 | 地震 |
| 同 二年正月辛巳 | 同 弘長元年 | 一、二六一 | 同 |
| 同 六月 壬子 | 同 | 同 | 地大震 |
| 同 五年二月壬子 | 同 文永元年 | 一、二六四 | 京都地震 |
| 同 十月 辛酉 | 同 | 同 | 又大震聲如雷 |
| 同 十一年二月戊子 | 同 七年 | 一、二七〇 | 地大震 |
| 同 十三年三月戊寅 | 同 九年 | 一、二七二 | 地震 |
| 同 十月乙未 | 同 | 同 | 同 |
| 同 忠烈王三年十一月乙巳 | 後宇多天皇建治二年 | 一、二七六 | 地震聲如雷 |

| | | | |
|--------------|-----------|-------|--------------------|
| 同 三年九月癸卯 | 同 | 一、二七七 | 地大震 |
| 同 四年九月丁酉 | 同 弘安元年 | 一、二七八 | 同 |
| 同 七年正月庚申 | 同 四年 | 一、二八一 | 同 |
| 同 閏八月癸丑 | 同 | 同 | 同 |
| 同 十年四月癸卯 | 同 七年 | 一、二八四 | 同 |
| 同 十一年二月癸丑 | 同 八年 | 一、二八五 | 同 |
| 同 十九年十月甲辰 | 伏見天皇永仁元年 | 一、二九三 | 同 |
| 同 二十一年十月丙寅 | 同 三年 | 一、二九五 | 同 |
| 同 二十四年正月壬寅 | 同 六年 | 一、二九八 | 地拆壽寧宮門外泉湧高數尺自午後酉乃止 |
| 同 三十四年二月 | 後三條天皇延慶元年 | 一、三〇八 | 地大震 |
| 同 忠宣王三年九月辛酉 | 花園天皇應長元年 | 一、三一二 | 毀古壽寧宮御座地拆長數尺 |
| 同 忠肅王元年閏三月癸未 | 同 正和三年 | 一、三一四 | 地震 |
| 同 五年二月己亥 | 同 文治二年 | 一、三一八 | 同 |
| 同 十五年十月乙巳 | 後醍醐天皇嘉曆三年 | 一、三三八 | 同 |
| 同 十一月乙酉 | 同 | 同 | 同 |
| 同 十七年十一月丙戌 | 同 元德二年 | 一、三三〇 | 同 |
| 同 忠惠王六年正月辛丑 | 同 延元元年 | 一、三三六 | 同 |
| 同 忠肅王後六年十月己卯 | 同 二年 | 一、三三七 | 禮城縣地震 |
| 同 七年六月丙寅 | 同 三年 | 一、三三八 | 白州地再震 |
| 同 乙亥 | 同 | 同 | 同 |

第二章 災害の記録

朝鮮の災害

| | | | |
|---------------|-----------|-------|---|
| 高麗恭愍王二十五年七月己巳 | 後龜山天皇文中三年 | 一、三七四 | 地大震 |
| 同 辛禱二年五月庚午 | 同 天授二年 | 一、三七六 | 同 |
| 同 四年二月壬申 | 同 四年 | 一、三七八 | 地 震 |
| 同 十一月辛巳 | 同 | 同 | 同 |
| 同 五年四月甲辰 | 同 五年 | 一、三七九 | 同 |
| 同 十二月 | 同 | 同 | 同 |
| 同 十年四月丙子 | 同 元中元年 | 一、三八四 | 同 |
| 同 五月戊甲 | 同 | 同 | 同 |
| ○同 十一年七月戊寅 | 同 二年 | 一、三八五 | 地震四日聲如陣馬之奔塔屋類圯人皆出避松岳西嶺石崩已卯地震三日 |
| 同 十月戊申 | 同 | 同 | 地 震 |
| 同 十二年十二月 | 同 三年 | 一、三八六 | 同 |
| 同 辛昌元年十一月 | 同 六年 | 一、三八九 | 同 |
| 同 同恭讓王元年十一月甲戌 | 同 八年 | 一、三九一 | 同 |
| 同 三年七月丙戌 | 同 | 同 | 同 |
| 同 壬辰 | 同 | 同 | 同 |
| 同 八月乙丑 | 同 | 同 | 同 |
| ○朝鮮太宗癸巳四月庚申 | 稱光天皇應永二十年 | 一、四一三 | 慶尙道草溪善山與海、全羅道全州益山龍安與德茂長高嶺靈光咸平務安羅州靈岩海南珍島康津長興寶城興陽樂安順天光陽求禮雲峰南原任實谷城長水淳昌金海咸悅濟州大靜旌義垣屋類毀多人壓死 |
| ○同 丙申四月己卯 | 同 二十三年 | 一、四一六 | 地 震 |
| ○同 世宗丁巳正月甲寅 | 後花園天皇永享九年 | 一、四三七 | 京師及京畿、慶尙、江原、忠清、全羅諸道地震 |

| | | | |
|--------------|------------|-------|---|
| ○同 端宗甲戌十二月甲辰 | 同 康正元年 | 一、四五五 | 慶尙道草溪善山與海、全羅道全州益山龍安與德茂長高嶺靈光咸平務安羅州靈岩海南珍島康津長興寶城興陽樂安順天光陽求禮雲峰南原任實谷城長水淳昌金海咸悅濟州大靜旌義垣屋類毀多人壓死 |
| 同 成 宗 九 年 | 後土御門天皇文明十年 | 一、四七八 | 地 震 |
| ○同 燕山君癸亥八月丁巳 | 後柏原天皇文龜三年 | 一、五〇三 | 京師及京畿、忠清、慶尙、全羅諸道地震 |
| ○同 中宗戊寅五月癸丑 | 同 永正十五年 | 一、五一八 | 西時大地震凡三度、其聲殷々如怒雷、人馬辟易墻屋壓頹城堞墜落、都中之人皆驚惶失色。因知攸爲終夜露不報入處其家、故老皆爲所無也。八道皆同、黃海道白川郡地、水湧、忠清道觀察使使世健曰今五月十五日、至西時、有聲如雷、自東如越、人不自立、四面城墜相繼、牛馬皆驚、水泉如沸、山石亦有崩落、京外地震四日、太廟殿瓦墜落、關內墻垣倒塌民家類圯、男女老少皆出外露處、以免覆壓 |
| ○同 五月十五日 | 同 | 同 | 中外地震、京城尤甚、墻屋類落、人皆奔突、移時而止、地震有聲如牛吼、城垣之墮塌者十中居一二、須臾震四五度、或震、或輾、令露宿於外、過一月纔定 |
| ○同 丙戌九月壬寅 | 同 大永六年 | 一、五二六 | 京師、京畿、忠清、江原、慶尙諸道地震、有聲如雷屋宇搖動 |
| ○同 甲辰二月壬申 | 御奈良天皇天文十三年 | 一、五四四 | 京畿、江原、全羅、慶尙、忠清、黃海諸道地震 |
| ○同 仁宗丙午五月乙亥 | 同 十五年 | 一、五四六 | 京師地震、自東而西、良久乃止、其始也聲如雷雷方其震也屋宇皆動、墻壁根落、申時又震 |
| ○同 五月丁丑 | 同 | 同 | 京畿、黃海、忠清、咸鏡諸道地震、平安道再度地震、人家動搖、牛馬驚走、地震仍陷沒者四處、江原道川渠動盪 |
| ○同 五月壬午 | 同 | 同 | 京畿江華地震、有一民家、北角類落、三人壓死 |
| ○同 明宗癸丑二月乙卯 | 同 二十二年 | 一、五五三 | 慶尙道內五十餘邑地震、或屋墻壁墜落、或山城崩壞 |
| ○同 甲子二月丁未 | 正親町天皇永祿七年 | 一、五六四 | 平安道江界地震、凝雪盡圯 |
| ○同 乙丑八月丙寅 | 同 八年 | 一、五六五 | 平安道祥原地震 |
| ○同 十二月戊子 | 同 | 同 | 地 震 |

第二章 災害の記録

朝鮮の災害

| | | | |
|-------------|----------|-------|---|
| ○朝鮮顯宗戊申六月庚寅 | 靈元天皇寬文八年 | 一、六六八 | 黃海道海州安岳延安戰寧長連白川鳳山、慶尙道昌原山、海州大湓、屋瓦皆似、人或驚仆、平壤地震、如是者三、順安肅川同日地震 |
| ○同 己酉九月甲辰 | 同 | 一、六六九 | 金羅道高山等二十餘邑地震、光州康津雲峰淳昌、四邑尤甚、館字振、若將傾覆、城壁頹圯、屋瓦墜落、牛馬不能立、行路不能定、若黃鷲、莫不顛仆、地震之慘、近古所無 |
| ○同 庚戌九月辛未 | 同 | 一、六七〇 | 全羅道濟州地震有聲如雷、人家墻壁多有頹圯 |
| ○同 十月丁亥 | 同 | 同 | 地 震 |
| ○同 肅宗甲寅十月戊午 | 延寶二年 | 一、六七四 | 尙州沃川等五色地震有聲如雷屋壁皆動擄 |
| ○同 元年八月壬午 | 同 | 一、六七五 | 瑞興等七邑及龍岡地震 |
| ○同 九月壬辰 | 同 | 同 | 公州十邑地震屋宇動擄 |
| ○同 二年三月丁未 | 同 | 一、六七六 | 平壤三和全州鎮安谷城求禮地震 |
| ○同 四年正月 | 同 | 一、六七八 | 咸悅北川恩津魯城等地地震 |
| ○同 六年五月 | 同 | 同 | 順天等地地震 |
| ○同 辛酉四月己酉 | 天和元年 | 一、六八一 | 申時京師地震、自良方至坤方、屋宇振動、窓壁墜、震地行路之人、有所驚、驚逸死者、京畿、江原、慶尙、忠清、黃海、平安、咸鏡諸道地震 |
| ○同 五月甲寅 | 同 | 同 | 平安、慶尙、江原諸道及全羅道光州外十九處地震 |
| ○同 丁巳 | 同 | 同 | 京畿廣州等三十五邑、忠清道洪州等十六邑地震、江原道申時一日之內三度地震、城壁頹圯屋瓦墜落、黃海道地震 |
| ○同 癸亥 | 同 | 同 | 京畿廣州地震、江原道地震、聲如雷、城壁頹圯、屋瓦墜落、襄陽海水震蕩如沸、雪岳山、新興寺及慈祖窟巨岩俱崩、三陟府西頭陀山層岩、自古稱以動石者盡崩、府東凌波臺水中、餘丈、石中折、海水爲潮退之狀、平日水滿處、露出百餘步、或五、六十步、平昌旌善亦有山岳振動岩石墜落之變、是後江陵襄陽三陟蔚珍平海旌善等地動殆十餘次、是時八道皆震 |

| | | | |
|-------------|------------|-------|--|
| ○同 甲子 | 同 | 同 | 江原道江陵襄陽三陟二日連有地震黃海道平山田中地嶺、深九尺、穴中有水 |
| ○至自 庚辰 | 同 | 同 | 慶尙道榮川、禮安、安東、醴泉、豐基、眞寶、奉化等二三次或一次地震 |
| ○同 壬戌二月戊巳 | 同 | 一、六八二 | 江原道平海地震、平昌地川邊地陷 |
| ○同 甲子三月庚午 | 同 | 一、六八四 | 平安道昌城地震、聲如雷鼓、屋瓦皆動、如是者三、朔州、敢亦於是日再震 |
| ○同 十二年十一月 | 同 | 一、六八六 | 地 震 |
| ○同 壬申九月庚午 | 東山天皇元祿五年 | 一、六九二 | 二更五點京師地震、自良方起直至坤方、亥時忠清、全羅、慶尙、江原諸道地震、京都大震、是日京畿、忠清、全羅、慶尙、江原等道俱地震、有聲如雷、甚處屋宇振、窓戶自開、山川草木無不震動、至鳥獸驚散、震者、其震多從西北起至東南云 |
| ○同 庚辰三月甲辰 | 同 | 一、七〇〇 | 慶尙道大邱等二十四邑地震、晉州泗川二處、城墻崩頹行人顛 |
| ○同 七月庚申 | 同 | 同 | 平安道慈山地震、忠清道青山地裂內浦海溢 |
| ○同 壬午七月癸丑 | 同 | 一、七〇二 | 京都、京畿、忠清、江原、全羅、慶尙五道地震 |
| ○同 英祖丁未五月丁巳 | 中御門天皇享保十二年 | 一、七二七 | 咸鏡道咸興等七邑地震、屋宇城堞多頹壓 |
| ○同 十五年七月壬戌 | 櫻町天皇天文四年 | 一、七三九 | 夜 震 |
| ○同 十六年九月癸巳 | 同 | 一、七四〇 | 同 |
| ○同 十九年三月丙辰 | 同 | 一、七四三 | 地 震 |
| ○同 八月 九月庚申 | 同 | 同 | 地 震 |
| ○同 二十七年九月辛巳 | 桃園天皇寶曆元年 | 一、七五一 | 夜 震 |
| ○同 二十八年九月己卯 | 同 | 一、七五二 | 地 震 |
| ○同 三十年五月己未 | 同 | 一、七五四 | 地 震 |
| ○同 六月癸丑 | 同 | 同 | 地 震 |

第二章 災害の記録

朝鮮の災害

| 朝鮮 | 日本皇紀 | 西曆 | 災害 |
|--------------|-----------|-------|----|
| 朝鮮英祖三十五年正月戊子 | 桃園天皇寶曆九年 | 一、七五九 | 地震 |
| 同 四十五年二月癸未 | 後櫻町天皇明和六年 | 一、七六九 | 同 |
| 同 三月己丑 | 同 | 同 | 同 |
| 同 正祖六年正月辛酉 | 光格天皇天明二年 | 一、七八二 | 地震 |
| 同 八年二月癸亥 | 同 四年 | 一、七八四 | 同 |
| 同 純祖十年正月 | 同 文化七年 | 一、八一〇 | 同 |
| 同 二十七年八月 | 仁孝天皇文政十年 | 一、八二七 | 地震 |
| 同 憲宗十二年六月丙寅 | 同 弘化三年 | 一、八四六 | 同 |
| 同 李太王六年三月 | 明治天皇明治二年 | 一、八六九 | 同 |
| 同 十九年十二月 | 同 十五年 | 一、八八二 | 同 |
| 同 二十五年十月 | 同 二十一年 | 一、八八八 | 地震 |
| 同 光武二年十一月 | 同 三十一年 | 一、八九八 | 同 |

備考 本表中○印ヲ附シタルハ強震ヲ示ス。

霜

害

朝鮮年代

日本皇紀

西曆

摘

| 朝鮮年代 | 日本皇紀 | 西曆 | 摘 |
|---------------|----------|-----|------|
| 百濟溫祚王二十八年四月 | 垂仁天皇三十八年 | 九 | 限霜害麥 |
| 高句麗大武神王二十四年七月 | 同 七十年 | 一七 | 同 |
| 同 慕本王二年 | 同 七十八年 | 四九 | 同 |
| 新羅祗摩王十二年四月 | 景行天皇五十三年 | 一二三 | 同 |

| 朝鮮年代 | 日本皇紀 | 西曆 | 災害 |
|--------------|----------|-----|------|
| 同 逸聖王六年七月 | 成務天皇九年 | 一三九 | 限霜殺菽 |
| 高句麗次大王八年六月 | 同 二十三年 | 一五三 | 限霜如雪 |
| 新羅阿達羅王二年四月 | 同 二十五年 | 一五五 | 限霜 |
| 同 十七年七月 | 同 四十年 | 一七〇 | 京都限霜 |
| 高句麗故國川王十六年七月 | 仲哀天皇三十四年 | 一九四 | 限霜殺菽 |
| 新羅奈解王五年七月 | 同 九十二年 | 二〇〇 | 限霜殺草 |
| 同 十年七月 | 神功皇后攝政五年 | 二〇五 | 同 |
| 高句麗西川王三年四月 | 應神天皇三年 | 二七二 | 限霜害麥 |
| 新羅味鄒王十四年七月 | 同 | 同 | 限霜害穀 |
| 高句麗故國原王五年七月 | 仁德天皇二十三年 | 三三五 | 同 |
| 新羅訖解王二十八年四月 | 同 二十五年 | 三三七 | 限霜害穀 |
| 百濟辰斯王二年七月 | 同 七十三年 | 三八五 | 限霜害穀 |
| 新羅訖祗王四年七月 | 允恭天皇九年 | 四二〇 | 同 |
| 同 十五年七月 | 同 二十年 | 四三一 | 同 |
| 同 三十八年七月 | 安康天皇元年 | 四五四 | 霜害害穀 |
| 同 四十一年四月 | 雄略天皇元年 | 四五七 | 限霜傷麥 |
| 同 智證王十年七月 | 繼體天皇三年 | 五〇九 | 限霜殺菽 |
| 高句麗平原王二十三年七月 | 敏達天皇十年 | 五八一 | 霜害殺穀 |
| 新羅眞平王三十五年四月 | 推古天皇二十一年 | 六一三 | 限霜 |
| 高句麗寶藏王九年七月 | 孝德天皇白雉元年 | 六五〇 | 霜害害穀 |

第二章 災害の記録

| | | | |
|-------------|-----------|-------|--------|
| 新羅元聖王五年七月 | 桓武天皇延暦八年 | 七八九 | 續霜傷穀 |
| 同 興德王二年五月 | 淳和天皇天長四年 | 八二七 | 限 霜 |
| 同 文聖王十三年四月 | 文德天皇仁壽元年 | 八五一 | 同 霜 |
| 同 憲安王二年四月 | 同 天安二年 | 八五八 | 同 霜 |
| 同 孝恭王九年四月 | 醍醐天皇延喜五年 | 九〇五 | 同 霜 |
| 同 神德王二年四月 | 同 十三三年 | 九一三 | 同 霜 |
| 高麗顯宗三年四月 | 三條天皇長和元年 | 一、〇二二 | 同 霜 |
| 同 四年四月丙子 | 同 二年 | 一、〇一三 | 續霜殺草 |
| 同 十八年四月甲戌 | 後一條天皇萬壽四年 | 一、〇二七 | 續霜害苗 |
| 同 二十二年四月丁亥 | 同 長元四年 | 同 三三三 | 公州續霜殺苗 |
| 同 靖宗二年四月辛酉 | 同 九年 | 一、〇三六 | 續 霜 |
| 同 八年四月丙戌 | 後朱雀天皇長久三年 | 一、〇四二 | 同 霜 |
| 同 文宗二年四月甲午 | 後冷泉天皇永承三年 | 一、〇四八 | 續霜于土山縣 |
| 同 三十七年四月 | 白河天皇永保三年 | 一、〇八三 | 續霜 |
| 同 宣宗六年四月辛酉 | 堀河天皇寬治三年 | 一、〇八九 | 同 霜 |
| 同 肅宗元年四月壬戌 | 同 永長元年 | 一、〇九六 | 連日限霜 |
| 同 仁宗十二年四月戊戌 | 崇徳天皇長承三年 | 一、一三四 | 限 霜 |
| 同 十七年四月丁卯 | 同 保延五年 | 一、一三九 | 同 霜 |
| 同 二十一年四月戊辰 | 近衛天皇康治二年 | 一、一四三 | 同 霜 |

| | | | |
|--------------|-------------|-------|---------|
| 同 毅宗二十一年四月丁亥 | 六條天皇仁安二年 | 一、一六七 | 同 |
| 同 明宗九年四月壬辰 | 高倉天皇治承三年 | 一、一七九 | 限霜殺草 |
| 同 高宗四十五年七月 | 後深草天皇正嘉二年 | 一、二五八 | 限霜于南界 |
| 同 元宗十三年四月戊戌 | 龜山天皇文永九年 | 一、二七二 | 限霜 |
| 同 十四年四月戊子 | 同 十年 | 一、二七三 | 同 霜 |
| 同 忠烈王六年四月癸未 | 後宇多天皇弘安三年 | 一、二八〇 | 連日霜殺于苗 |
| 同 十一年四月甲辰 | 同 八年 | 一、二八五 | 限霜 |
| 同 十二年四月甲辰 | 同 九年 | 一、二八六 | 同 霜 |
| 同 十三年四月庚辰 | 同 十年 | 一、二八七 | 連日限霜 |
| 同 十五年四月辛亥 | 伏見天皇正應二年 | 一、二八九 | 限霜 |
| 同 二十年四月戊戌 | 同 永仁二年 | 一、二九四 | 同 霜 |
| 同 二十一年四月乙酉 | 同 三年 | 一、二九五 | 限霜殺麻麥 |
| 同 二十三年四月庚戌 | 同 五年 | 一、二九七 | 限霜 |
| 同 恭愍王十七年七月 | 後龜山天皇正平二十三年 | 一、三六八 | 限霜殺草 |
| 同 二十二年四月乙酉 | 同 文中二年 | 一、三七三 | 限霜殺草 |
| 同 辛禰六年七月甲寅 | 同 天授六年 | 一、三八〇 | 連日限霜 |
| 同 十一年七月 | 同 元中二年 | 一、三八五 | 江陵道限霜殺禾 |
| 同 十二年四月丙申 | 同 三年 | 一、三八六 | 限霜 |
| 同 十三年四月乙未 | 同 四年 | 一、三八七 | 同 霜 |
| 同 恭讓王元年四月乙巳 | 後龜山天皇元中六年 | 一、三八九 | 限霜 |

朝鮮の災害

| | | | |
|-------------|------------|-------|------------|
| 高麗恭讓王二年四月乙卯 | 後龜山天皇中元七年 | 一、三九〇 | 限霜 |
| 同 庚申 | 同 | 同 | 同 |
| 同 四年七月辛卯 | 同 九年 | 一、三九二 | 限霜甚寒 |
| 朝鮮太祖七年六月 | 後小松天皇應永五年 | 一、三九八 | 限霜于山羊會地 |
| 同 太宗五年四月 | 同 十二年 | 一、四〇五 | 限霜 |
| 同 十七年五月 | 稱光天皇二十四年 | 一、四一七 | 同 |
| 同 宣祖二年四月 | 正親町天皇永祿十二年 | 一、五六九 | 同 |
| 同 十三年五月 | 同 天正八年 | 一、五八〇 | 同 |
| 同 二十三年五月 | 同 十八年 | 一、五九〇 | 同 |
| 同 仁祖六年六月七日 | 後水尾天皇寬永五年 | 一、六二八 | 北青甲山等地連日限霜 |
| 同 七年四月壬寅 | 同 六年 | 一、六二九 | 義州府限霜 |
| 同 甲辰 | 同 | 同 | 同 |
| 同 九年四月戊辰 | 明正天皇同 八年 | 一、六三一 | 長興興陽等地限霜 |
| 同 七月丙戌 | 同 | 同 | 安陰縣連夜限霜 |
| 同 十一年七月丁未 | 同 十年 | 一、六三三 | 關西連夜限霜 |
| 同 孝宗四年六月 | 後光明天皇承應二年 | 一、六五三 | 江陵府限霜 |
| 同 肅宗元年四月壬辰 | 靈元天皇延寶三年 | 一、六七五 | 平安道連日限霜 |
| 同 壬寅 | 同 | 同 | 茂朱限霜山野遍白 |
| 同 五月庚申 | 同 | 同 | 長水鎮安等地連日限霜 |
| 同 辛酉 | 同 | 同 | 同 |

| | | | |
|------------|----------|-------|---|
| 同 甲戌 | 同 | 同 | 同 |
| 同 二年四月丙辰 | 同 四年 | 一、六七六 | 同 |
| 同 英祖二十一年五月 | 櫻町天皇延享二年 | 一、七四五 | 同 |
| 同 二十九年六月 | 桃園天皇寶曆三年 | 一、七五三 | 同 |
| 同 三十年四月辛丑 | 同 四年 | 一、七五四 | 同 |

狼川公州等地限嚴霜各穀枯死
 利川等十三邑限霜谷山邊安等地亦限霜
 兩湖及關東限霜
 關東及嶺南限霜
 限霜霜

朝鮮十年代

| | | | |
|--------------|------------|-------|---|
| 百濟溫祚王三十七年三月 | 垂仁天皇四十八年 | 一、一九 | 同 |
| 新羅婆娑王二十一年七月 | 景行天皇三十年 | 一〇〇 | 同 |
| 百濟仇首王十八年四月 | 神功皇后攝政三十一年 | 一、二三一 | 同 |
| 新羅景德王四年四月 | 聖武天皇天平十七年 | 七四五 | 同 |
| 同 十四年四月 | 孝謙天皇天平勝寶七年 | 七五五 | 同 |
| 同 惠恭王四年六月 | 稱德天皇神護景雲二年 | 七六七 | 同 |
| 同 元聖王二年四月 | 桓武天皇延曆五年 | 七八六 | 同 |
| 高麗毅宗十三年四月庚寅 | 二條天皇平治元年 | 一、一五九 | 同 |
| 同 十四年八月丁未 | 同 永曆元年 | 一、一六〇 | 同 |
| 同 明宗十四年四月戊午 | 安德天皇壽永三年 | 一、一八四 | 同 |
| 同 十六年八月 | 後鳥羽天皇文治二年 | 一、一八六 | 同 |
| 同 高宗二十三年四月己亥 | 四條天皇嘉禎二年 | 一、二三六 | 同 |

雨電大如鷄子鳥雀中者皆死
 雨電飛鳥殺
 雨電鳥雀中死
 雨電大如鷄子
 同
 京都雨電傷草木
 國東雨電麥皆傷
 大雨電平地三寸
 雨電大如拳
 雨電如杏子
 雨電于東澤二州大如拳屋瓦皆碎
 大雨電鳥雀中死

第二章 災害の記録

| | | | |
|--------------|------------|-------|------------------------------|
| 高麗忠烈王二年閏三月乙卯 | 後宇多天皇建治二年 | 一、二七六 | 雨雹于寧越大如鶴卵鳥雀中死 |
| 同 十二年四月丁酉 | 同 九年 | 一、二八六 | 雨雹而氷凡八日 |
| 同 二十七年五月 | 後伏見天皇正安三年 | 一、三〇四 | 慶尚道安東府大雨雹一枚數人不能舉麋鹿中死 |
| 同 忠肅王九年九月乙未 | 後醍醐天皇元亨二年 | 一、三二二 | 雨雹大如李梅四角如蒺藜 |
| 同 忠穆王三年五月癸亥 | 後村上天皇正平二年 | 一、三四七 | 雨雹大如梨 |
| 同 恭愍王十六年四月壬戌 | 同 二十二年 | 一、三六七 | 大雨雹平壤尤甚田頭罌器皆碎 |
| 同 辛禎元年三月甲申 | 後龜山天皇天授元年 | 一、三七五 | 雨雹大如彈丸 |
| 同 十一年四月 | 同 元中二年 | 一、三八五 | 雨雹大如拳數日乃消 |
| 朝鮮太宗七年夏 | 後小松天皇應永十四年 | 一、四〇七 | 大雨雹人有凍死者 |
| 同 宣祖十二年六月 | 同 十六年 | 一、四〇九 | 雨雹大如彈丸人有中死禽鳥多斃 |
| 同 二十九年五月丁丑 | 正親町天皇天正七年 | 一、五七九 | 平安道大雨雹大者如匙小者如手掌 |
| 同 四十年六月 | 後陽成天皇慶長元年 | 一、五九六 | 南原淳昌等處大雨雹大如鷄卵飛鳥中死穴越亦斃 |
| 同 光海君十三年五月 | 同 十二年 | 一、六〇七 | 忠清慶尙兩道雨雹大如鷄卵壓碎禽鳥隕殺草木 |
| 同 仁祖二年秋 | 後水尾天皇元和七年 | 一、六二一 | 洪原等處雨雹大如鷄卵飛鳥皆斃人或中死 |
| 同 四年 | 同 寬永元年 | 一、六二四 | 自長湍至平山大雨雹大者如鉢小者如鷄卵牛馬擊觸多死 |
| 同 六年四月丁巳 | 同 三年 | 一、六二六 | 昌城雨雹如人面鼻眼皆備 |
| 同 五年五月戊辰 | 同 五年 | 一、六二八 | 平壤江西等處大雨雹大者如椀子小者如鷄卵積地三尺 |
| 同 八年六月己酉 | 同 五年 | 一、六三〇 | 星州青松等處大雨雹大如鷄卵 |
| 同 十一年七月丁未 | 同 十年 | 一、六三三 | 萬頃縣大雨雹大者如大椀有三角中者如沙鉢有兩角刃小者如鷄卵 |
| | | | 平安道雨雹積地三寸 |

火

災

| | | | |
|-------------|-----------|---------|--------------------|
| 同 十四年 | 同 十三年 | 一、六三六 | 金化雨雹如人面鳥雀多中死 |
| 同 十六年九月戊辰 | 同 十五年 | 一、六三八 | 龍岡等十邑雨雹禽獸多中斃 |
| 同 肅宗元年七月癸巳 | 靈元天皇延寶三年 | 一、六七五 | 水原振威等處雨雹大如桃宿鳥傷死者千數 |
| 同 純祖二十一年五月 | 仁孝天皇文政四年 | 一、八二一 | 全羅道大雨雹狀如鷄卵 |
| 同 二十九年九月 | 同 十二年 | 一、八二九 | 平安道雨雹大如鷄卵 |
| 同 李太王十一年八月 | 明治天皇明治七年 | 一、八七四 | 黃海道大雹 |
| 朝鮮 年 代 | 日本 皇 紀 | 西 曆 紀 元 | 摘 要 |
| 新羅祗摩王二十一年二月 | 成務天皇二年 | 一、三三二 | 宮南門災 |
| 同 逸聖王二十年十月 | 同 二十三年 | 一、五三三 | 宮 門 災 |
| 百濟仇首王七年十月 | 神功皇后攝政二十年 | 二、二二〇 | 王宮西門火 |
| 新羅味鄒王元年七月 | 同 六十二年 | 二、六二二 | 金城西門災延燒民家三百餘戶 |
| 百濟比流王三十年五月 | 仁德天皇二十一年 | 一、三三三 | 星隕王宮火延燒民戶 |
| 新羅炤智王四年二月 | 清寧天皇三年 | 四、八二二 | 金城南門災 |
| 同 眞平王十八年十月 | 推古天皇四年 | 五、九六六 | 永興寺火延燒民家三百五十戶 |
| 同 憲德王五年二月 | 嵯峨天皇弘仁四年 | 八、一三三 | 始祖廟玄德門火 |
| 同 文聖王十四年 | 同 十三年 | 八、二二二 | 調 府 災 |
| 高麗穆宗十二年正月壬申 | 一條天皇寬弘六年 | 一、〇〇九 | 大府油庫災延燒千秋殿 |
| 同 顯宗三年六月癸卯 | 三條天皇長和元年 | 一、〇二二 | 龍津鎮民家三百四十餘戶火 |

朝鮮の災害

| | | | |
|--------------|-----------|-------|--------------------------|
| 高麗顯宗十二年二月癸亥 | 後一條天皇治安元年 | 一、〇二一 | 仁壽門外民家二千戸災 |
| 同 十九年三月丁未 | 同 長元元年 | 一、〇二八 | 龜州官舎及民家八百四十餘戸火 |
| 同 德宗元年二月癸酉 | 同 五年 | 一、〇三二 | 靈州火 |
| 同 靖宗四年二月庚寅 | 後朱雀天皇長曆二年 | 一、〇三八 | 中部民家八百六十戸火 |
| 同 六年二月庚寅 | 同 長久元年 | 一、〇四〇 | 昇平門廊屋數百間災延燒御史臺 |
| 同 己酉 | 同 | 同 | 松岳神祠災 |
| 同 九年正月乙酉 | 同 四年 | 一、〇四三 | 白翎鎮火延燒城門三百餘間倉庫五十間民家三百餘戸 |
| 同 文宗十二年十二月甲子 | 後冷泉天皇康平元年 | 一、〇五八 | 內史門下省火延燒會慶殿東南廊 |
| 同 二十年二月己亥 | 同 治曆二年 | 一、〇六六 | 雲興倉災積年所蓄盡爲灰燼 |
| 同 三十二年四月丙申 | 白河天皇永曆二年 | 一、〇七八 | 將作監災 |
| 同 宣宗三年三月庚辰 | 同 應德三年 | 一、〇八六 | 市塵災 |
| 同 四年九月庚戌 | 堀河天皇寬治元年 | 一、〇八七 | 夜懷鼓驛行在所扈衛軍營火 |
| 同 七年三月戊子 | 同 四年 | 一、〇九〇 | 夜大震雷新興倉災因震鉅萬燒盡飛烟蔽空而民室無損者 |
| 同 九年三月丙辰 | 同 六年 | 一、〇九二 | 祭器都監藥店兩司樓門及市巷民家六百四十戸火 |
| 同 肅宗五年八月己未 | 同 康和二年 | 一、一〇〇 | 宮南樓橋東廊及四店館掌牲司儀二署火延燒民戸數百 |
| 同 六年四月乙巳 | 同 十三年 | 一、一〇一 | 吏部火 |
| 同 睿宗元年十二月丁丑 | 同 嘉承元年 | 一、一〇六 | 大寧宮災 |
| 同 十二年十二月戊寅 | 同 嘉永二年 | 一、一〇七 | 左監牧火 |
| 同 壬午 | 同 | 同 | 大寧宮火 |
| 同 九年五月戊戌 | 鳥羽天皇永久二年 | 一、一一四 | 中尙署火 |

| | | | |
|-------------|-----------|-------|------------------|
| 同 十三年十二月己亥 | 同 元永元年 | 一、一一八 | 明陵火 |
| 同 十四年正月 | 同 二年 | 一、一一九 | 迎恩館火 |
| 同 十月辛巳 | 同 二年 | 一、一一九 | 乾明殿火 |
| 同 十五年十月戊戌 | 同 保安元年 | 一、一二〇 | 鶴嶺城火 |
| 同 十六年三月 | 同 二年 | 一、一二一 | 市塵火 |
| 同 仁宗六年正月乙巳 | 崇德天皇大治三年 | 一、一二八 | 仁德宮火 |
| 同 二月癸亥 | 同 | 同 | 南京宮闕災 |
| 同 七年二月癸丑 | 同 四年 | 一、一二九 | 供備庫火 |
| 同 十年三月丁酉 | 同 長承元年 | 一、一三二 | 仁德宮老櫓火出自焚 |
| 同 十四年十一月乙酉 | 同 保延二年 | 一、一三六 | 東京兵庫火 |
| 同 十五年二月癸丑 | 同 三年 | 一、一三七 | 東界禾登戌兵庫火延燒民家七十餘戸 |
| 同 二十一年五月丁卯 | 近衛天皇康治二年 | 一、一四三 | 延德宮火 |
| 同 二十三年十一月丙寅 | 同 天養二年 | 一、一四四 | 市塵火延燒民家數十戸 |
| 同 二十三年正月癸亥 | 同 久安元年 | 一、一四五 | 仁恩館火 |
| 同 丁亥 | 同 | 同 | 大同門及遮城左右廊五十間火 |
| 同 毅宗七年六月庚申 | 同 仁平三年 | 一、一五三 | 穆清殿災 |
| 同 十一年三月壬申 | 後白河天皇保元二年 | 一、一五七 | 尙乘局災延及御聲 |
| 同 十二年四月癸巳 | 同 三年 | 一、一五八 | 新倉館里民家三百二十餘戸災 |
| 同 十一月癸未 | 同 | 同 | 萬寶殿災 |
| 同 十三年正月辛巳 | 二條天皇平治元年 | 一、一五九 | 禁中十員殿災 |

第二章 災害の記録

| | | | |
|-------------|-----------|-------|------------------------|
| 高麗毅宗十五年三月乙丑 | 二條天皇應保元年 | 一、一六六 | 東界宜德鎮兵庫三百餘間及民家三百戶火 |
| 同 明宗元年十月壬子 | 高倉天皇承安元年 | 一、一七一 | 夜宮闕災 |
| 同 五年二月辛巳 | 同 安元元年 | 一、一七五 | 內史洞宮災 三百二十餘戶火 |
| 同 七年十月壬申 | 同 治承元年 | 一、一七七 | 宮闕都監及市塵火 |
| 同 十年十二月辛丑 | 同 四年 | 一、一八〇 | 夜三司災 |
| 同 十一年正月辛亥 | 安德天皇養和元年 | 一、一八一 | 寫經院災 式部省十間火 |
| 同 十五年八月乙丑 | 後鳥羽天皇文治元年 | 一、一八五 | 戶部版籍庫災 |
| 同 十七年正月庚戌 | 同 三年 | 一、一八七 | 樞密院火延燒壽昌宮廊二十餘間 |
| 同 二十一年十一月庚申 | 同 二年 | 一、一九三 | 平壤祠堂災 |
| 同 十九年五月辛亥 | 同 五年 | 一、一八九 | 太倉倉災 倉庫火延燒到家十餘戶 |
| 同 康宗元年十一月 | 順德天皇建曆二年 | 一、二〇二 | 大雷雨大倉災 |
| 同 高宗三年十月癸丑 | 同 建保四年 | 一、二〇六 | 內莊宅災 |
| 同 九年二月甲辰 | 後堀河天皇貞應元年 | 一、二二二 | 市塵火 |
| 同 十二月 | 同 | 同 | 太僕寺災 |
| 同 十年正月辛亥 | 同 二年 | 一、二二三 | 戒器都監災 |
| 同 十月己丑 | 同 | 同 | 內都校災 |
| 同 十二年十月丁未 | 喜祿元年 | 一、二二五 | 儲祥奉元禮親舍元四殿災延燒禁城廳一百三十七間 |
| 同 十二月辛卯 | 同 | 同 | 興國寺火 |
| 同 十五年十月丁巳 | 安貞二年 | 一、二二八 | 和州城廬三百餘間火 |
| 同 十六年三月庚寅 | 寬喜元年 | 一、二二九 | 和州兵庫災 |

| | | | |
|--------------|-----------|-------|--|
| 同 二十四月乙巳 | 同 天皇應保元年 | 同 正長二 | 三司文帳庫災 |
| 同 十七年七月戊午 | 同 天正二年 | 一、二三〇 | 大倉八廣皆災 |
| 同 宣二十一年正月丙午 | 四條天皇文曆元年 | 一、二三四 | 大風關南里民家數千戶火 |
| 同 三月癸丑 | 同 | 同 正長三 | 大風關南里又延燒數千家文登州城廬倉庫民戶 |
| 同 三十九月辛酉 | 同 嘉祿二年 | 一、二三六 | 大府寺禮部弓箭庫火 |
| 同 二十三年三月庚甲 | 後醍醐天皇寬元三年 | 一、二四五 | 市街南里民家數百戶火 |
| 同 三十二年三月甲子 | 後深草天皇建長五年 | 一、二五三 | 江都見子山北民家八百餘戶火老弱焚死者八十餘人延燒延慶宮法主寺御醫庫太常府輪養都監 |
| 同 四十年二月丁丑 | 同 | 同 四〇〇 | 太醫監藥庫災 |
| 同 十一月甲申 | 同 | 同 四〇〇 | 栗浦里民家百餘戶火 |
| 同 四十二年十二月丙戌 | 同 七年 | 一、二五五 | 弓弩都監兵庫火 |
| 同 四十四年九月己卯 | 同 正嘉元年 | 一、二五七 | 太倉倉災 |
| 同 元宗十二年二月戊申 | 龜山天皇文永八年 | 一、二七一 | 楮市橋邊民家三百餘戶火 |
| 同 九月乙亥 | 同 | 同 三八三 | 國藏庫火 延燒到家一千三百餘戶 |
| 同 忠烈王二年閏三月庚子 | 後宇多天皇建治二年 | 一、二七六 | 鹽店洞民家千餘戶火 |
| 同 三年三月庚子 | 同 天長三年 | 一、二七七 | 大府火延燒民家八百餘戶 |
| 同 二十七年二月丙戌 | 同 弘安四年 | 一、二八一 | 造成都監安時公主請元工匠修宮室民不堪命人以爲天示驚 |
| 同 十七年四月戊辰 | 伏見天皇正應四年 | 一、二九一 | 巡馬南里民家火延燒百餘戶人畜多爛死 |
| 同 忠肅王九年春 | 後醍醐天皇元享二年 | 一、三二二 | 城中各里民家三百餘戶火 |
| 同 十一年正月庚寅 | 同 正中元年 | 一、三二四 | 延慶宮門火 |
| 同 三十一三月丁未 | 同 | 同 三二四 | 地藏坊里民家三百餘戶火 |

| | | | |
|--------------|-------------|-------|-------------------|
| 高麗肅宗十一年八月甲申 | 後醍醐天皇正中元年 | 一、三二四 | 時坐宮厨火 |
| 同 九月癸酉 | 同 | 同 | 市塵火 |
| 同 恭愍王十七年四月丙寅 | 後龜山天皇正平二十三年 | 一、三六八 | 同 |
| 同 十九年二月癸未 | 同 建德元年 | 一、三七〇 | 同 |
| 同 二十二年十二月癸卯 | 同 文中二年 | 一、三七三 | 影殿庫災 |
| 同 辛禰二年十月丙辰 | 同 天授二年 | 一、三七六 | 義成倉酒庫災 |
| 同 十一月癸未 | 同 | 同 | 夜再火無餘 |
| 同 九月四日丁亥 | 同 弘和三年 | 一、三八三 | 陝州山城火延燒軍糧一千三百石 |
| 同 十一年三月己巳 | 同 元中二年 | 一、三八五 | 海州通糧庫災 |
| 同 十三年十二月壬子 | 同 四年 | 一、三八七 | 典農酒庫災 |
| 同 恭讓王元年三月庚寅 | 同 六年 | 一、三八九 | 內乘災 |
| 朝鮮定宗二年 二月 | 後小松天皇應永七年 | 一、四〇〇 | 文廟火 |
| 同 太宗庚辰十一月 | 同 | 同 | 壽昌宮火 |
| 同 中宗五年 春 | 後柏原天皇永正七年 | 一、五一〇 | 興仁寺舍利閣災 |
| 同 九年十二月 | 同 十一年 | 一、五一四 | 尊經閣災 |
| 同 明宗八年 九月 | 後奈良天皇天文十二年 | 一、五四三 | 東宮災 |
| 同 宣祖四年 八月 | 正親町天皇元龜二年 | 一、五七一 | 景福宮火延燒思政殿以南歷代典憲灰燼 |
| 同 十四年七月 | 同 天正九年 | 一、五八一 | 康陵丁字閣火 |
| 同 二十五年五月 | 後陽成天皇文祿元年 | 一、五九二 | 智陵災 |
| | | | 景福宮燬 |

| | | | |
|-------------|-----------|-------|--|
| 同 光海君元年 | 同 慶長十四年 | 一、六〇九 | |
| 同 仁祖二年四月 | 後水尾天皇元和五年 | 一、六一九 | |
| 同 三年 二月 | 同 寬永元年 | 一、六二四 | |
| 同 九年 二月 | 同 二年 | 一、六二五 | |
| 同 十七年 三月 | 同 八年 | 一、六三一 | |
| 同 肅宗二年 三月 | 同 十六年 | 一、六三九 | |
| 同 四月 | 靈元天皇延寶四年 | 一、六七六 | |
| 同 八年 三月 | 同 天和二年 | 一、六八二 | |
| 同 十一年 正月 | 同 貞享二年 | 一、六八五 | |
| 同 五月 | 同 | 同 | |
| 同 十三年 九月 | 東山天皇同 四年 | 一、六八七 | |
| 同 二十三年十二月 | 同 元祿十年 | 一、六九七 | |
| 同 二十四年十一月癸巳 | 同 十一年 | 一、六九八 | |
| 同 三十二年 四月 | 同 寬永元年 | 一、七〇四 | |
| 同 景宗二年 四月 | 中御門天皇享保七年 | 一、七二二 | |
| 同 三年 正月 | 同 八年 | 一、七二三 | |

第二章 災害の記録

倭寇犯京上去邪亂民先焚刑曹掌院及臨海君
 宮洪汝諒家又焚景福宮及倭入京以南山下一帶
 爲居停翌年正月見敗於平壤發憤焚蕩而去
 平壤府城中民家千餘戶火延燒大同門樓開城府民家數
 百戶火
 都城大火焚燒民家數千區延燒鐘閣及南別宮人畜多死
 智陵沙堂火
 昌陵火
 江陵集慶殿火。先是府境有空中火落延燒甚遠未久殿
 災襄陽洛山寺又災兼又風火烈延燒十里內人家滿山松
 栢頃刻灰燼變異之慘今古所無云
 章陵火
 開城府城內五百七十五戶火
 開城府城內又五十二戶燒
 平壤府民家三百四十四戶火數之內內燒一百一戶
 鐘閣火
 平壤府民家四百餘戶火
 恭陵災
 萬壽殿災
 章陵火
 夜承暉殿災先朝舊物及兩殿服御物盡爲燒燼二宮人亦
 燒死
 孝陵災
 市塵火
 純陵災

朝鮮の災害

| | | | | |
|---|------|-----|-----------|-------|
| 同 | 英祖元 | 年 | 中御門天皇享保十年 | 一、七二五 |
| 同 | 九年 | 十月 | 同 | 一、七三三 |
| 同 | 十三年 | 年 | 櫻町天皇天文二年 | 一、七三七 |
| 同 | 十七年 | 三月 | 同 | 同 |
| 同 | 二十年 | 年 | 同 | 一、七四一 |
| 同 | 二十二年 | 三月 | 同 | 一、七四四 |
| 同 | 三十七年 | 十月 | 同 | 同 |
| 同 | 三十二年 | 三月 | 桃園天皇寶曆六年 | 一、七五六 |
| 同 | 三十七年 | 十月 | 同 | 一、七六一 |
| 同 | 四十三年 | 三月 | 後櫻町天皇明和四年 | 一、七六七 |
| 同 | 四十四年 | 三月 | 同 | 同 |
| 同 | 四十七年 | 三月 | 同 | 一、七六八 |
| 同 | 四十九年 | 三月 | 同 | 一、七七一 |
| 同 | 五十年 | 正月 | 同 | 一、七七三 |
| 同 | 正祖丙申 | 四月 | 後桃園天皇同五年 | 一、七七四 |
| 同 | 元年 | 四月 | 同 | 一、七七六 |
| 同 | 三年 | 十一月 | 同 | 一、七七七 |
| 同 | 四年 | 正月 | 光格天皇同 | 一、七七九 |
| 同 | 四年 | 正月 | 同 | 一、七八〇 |

〔淮陽府民家一百二十八戸火延燒衙舎及内外各廳庫舎四百餘間〕
 市 塵 火
 開城府民家一百二十一戸火
 市 塵 火
 平壤府内民家一百九十戸火
 安州民家二百六十四戸火
 市 塵 火
 承政院火自宣祖辛丑以後百餘年時政記盡火
 章 陵 火
 市 塵 火
 〔平壤府城内民家五百十二戸火全州府民家二千三百三十四戸火〕
 郭山郡民家五百八十七戸火宣川府民家五百六戸火
 平壤府民家三百九十八戸火
 市 塵 火 德川郡邑村民家二百三十四戸火
 殷山縣民家一百五十餘戸火
 咸興府民家六百十四戸火
 孟山縣民家一百四十餘戸火義州府民家一百四十四戸火
 咸興府民家三百四十三戸火德川郡民家二百五十八戸火
 彦陽縣民家一百餘戸火
 咸興府民家九百七十一戸火

| | | | | | |
|---|------|-----|---|------|-------|
| 同 | 五十年 | 五月 | 同 | 天明元年 | 一、七八一 |
| 同 | 二十五年 | 十一月 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 八年 | 二月 | 同 | 十四四年 | 一、七八四 |
| 同 | 十四年 | 三月 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 十九年 | 三月 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 十一年 | 四月 | 同 | 同 | 一、七八五 |
| 同 | 十四年 | 正月 | 同 | 同 | 一、七八七 |
| 同 | 十八年 | 四月 | 同 | 同 | 一、七九〇 |
| 同 | 純祖元 | 二月 | 同 | 同 | 一、七九四 |
| 同 | 三年 | 四月 | 同 | 同 | 二、八〇一 |
| 同 | 八年 | 十二月 | 同 | 同 | 一、八〇三 |
| 同 | 四年 | 三月 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 五年 | 五月 | 同 | 同 | 一、八〇四 |
| 同 | 七年 | 十一月 | 同 | 同 | 一、八〇五 |
| 同 | 九年 | 三月 | 同 | 同 | 一、八〇七 |
| 同 | 十年 | 三月 | 同 | 同 | 一、八〇九 |
| 同 | 十一年 | 閏三月 | 同 | 同 | 一、八一〇 |
| 同 | 十三年 | 十二月 | 同 | 同 | 一、八一三 |
| 同 | 十五年 | 五月 | 同 | 同 | 一、八一五 |

第二章 災害の記録

德川郡民家三百餘戸火
 利川府民家一百九十四戸火
 通川郡民家一百二十四戸火
 樂安郡民家一百餘戸火
 盈德縣民家一百五十戸火
 价川郡民家一百十六戸火肅川府民家一百四十戸火
 西部東幕里民家五百餘戸火
 通明殿火
 開城府民家六百四十餘戸火
 平壤民家六百餘戸火
 平壤民家一千餘戸火
 仁政殿火
 崇靈、崇仁兩殿火
 關北民家數千戸火
 法聖民家四百餘戸火
 蔚山民家五百餘戸火咸興民家一千七百九十餘戸火
 通川郡民家七百三十餘戸火
 香室藝文館火
 壽靜殿行閣火
 光 陵 火

朝鮮の災害

| | | | |
|-----------|----------|-------|--------------|
| 朝鮮純祖十九年三月 | 仁孝天皇文政二年 | 一、八一九 | 南小營火藥庫火 |
| 同 二十四年八月 | 同 七年 | 一、八二四 | 景福宮火 |
| 同 二十九年十月 | 同 十二年 | 一、八二九 | 慶熙宮火 |
| 同 三十年八月 | 同 天保元年 | 一、八三〇 | 歡慶殿火 |
| 同 三十二年四月 | 同 三年 | 一、八三二 | 安州牧民家三百五十餘戸火 |
| 同 三十三年十月 | 同 四年 | 一、八三三 | 昌德宮大造殿照政堂火 |
| 同 憲宗五年十二月 | 同 十年 | 一、八三九 | 景慕宮望廟樓火 |
| 同 哲宗七年四月 | 孝明天皇安政三年 | 一、八五六 | 咸興府民家一千三百餘戸火 |
| 同 八年十月 | 同 四年 | 一、八五七 | 宣仁門火 |
| 同 九年四月 | 同 五年 | 一、八五八 | 咸興府民家四百九十餘戸火 |
| 同 十四年八月 | 同 文久三年 | 一、八六三 | 市廛火 |
| 同 李太王元年四月 | 同 元治元年 | 一、八六四 | 鍾閣火延及市廛 |
| 同 三年三月 | 同 慶應二年 | 一、八六六 | 咸興府民家五百餘戸火 |
| 同 十二月 | 同 | 同 | 彰義宮藏譜閣火 |
| 同 四年三月 | 明治天皇同 三年 | 一、八六七 | 江陵府民家五百餘戸火 |
| 同 十年十二月 | 明治六年 | 一、八七三 | 交泰殿火 |
| 同 十四年十一月 | 同 十年 | 一、八七七 | 康寧殿交泰殿火 |
| 同 十八年十一月 | 同 十四年 | 一、八八一 | 昌德宮成寧殿火 |
| 同 二十五年三月 | 同 二十一年 | 一、八八八 | 景福宮承政院堂後火 |
| 同 二十六年九月 | 同 二十二年 | 一、八八九 | 慶熙宮崇政門火 |

| | | | |
|----------|--------|-------|---------------------|
| 同 三十四年四月 | 同 三十年 | 一、八九七 | 徽陵丁字閣火 |
| 同 光武三年正月 | 同 三十二年 | 一、八九九 | 南闕帝廟火 |
| 同 四年閏八月 | 同 三十三年 | 一、九〇〇 | 慶運宮璿源殿火 |
| 同 八年二月 | 同 三十七年 | 一、九〇四 | 慶運宮中和殿成寧殿即昨堂昔御堂景孝殿火 |

第二章 災害の記録

第三章 災害の程度

災害の種類は極めて多く、これに基く損害の大小も色々であるが、遠き過去に於ける災害の程度はこれに關する記録の甚だ不完全な爲めに正確に知ることは不可能である。そこで最近數年間に於ける最も著しき災害に就いて、その損害の程度を調べて見やう。尤も災害に因る損害額の見積は極めて困難なる爲め、各道の報告に係る數字が必ず災害の全部を網羅せざる場合もあり、特に旱害の如き、朝鮮に於ける農作物災害として最も著大なるものにありても、その最も激甚を極めたる大正八年及び同十三年の旱害以外に、何等の據るべき調査材料無きは甚だ遺憾のことである。然しながら將來に於ける災害の防止、救済、復舊等の施設を講せんとせば、既往に於ける災害の程度を參考として最も確なる方策を樹立せねばならぬことは勿論である。茲に於てか災害に關する調査の完備に努むるは、極めて重要なことであると信ずる。

農作物被害

最近五箇年間で農作物被害の最も甚大であつたのは大正十四年の三七、四四六、六三七圓で、大正十一年の二一、二六三、六一七圓これに亞ぐのである。これ等の被害の中、水害によるもの最も多く、

圓で、水害による損失とは較ぶべくもない。而して連年降雹に因る被害を受けてゐるのは慶尙北道で従つてその損害最も大きく、これに亞ぐものは忠清南北道、京畿道の順である。これが被害耕作物は水稻が主で、その他禾穀類の被害も相當の額に上つてゐる。蟲害による農作物被害の最も多いのは黄海道と忠清南道で、この二道は殆んど連年この被害を受けてゐる。蟲害は主として浮塵子と夜盜蟲によるもので、殊に近年に於ける浮塵子の害は頗る甚だしきものがある。而してその被害は水稻が最も多く、粟これに亞ぎ、殊に大正十一年の粟被害は頗る多額に上つた。病害による被害は黄海道、慶尙北道、京畿道の三道に限られて居り、病氣は主として稻病である。被害作物は水稻で、黄海道が最も甚だしい。旱害に關する被害高の報告は全部を網羅して居らぬが、大正十五年に於ける黄海道の被害約五、一三二、六五九圓が最大である。更に同年に於ける平安北道の暴風害、大正十二年に於ける咸鏡南道の霜害はいづれも相當の額に上り、大正十三年の平安北道、黄海道、平安南道の海瀟害は被害額一一、四二六、九六六圓の多きを算した。

最近五箇年間農作物被害調

| 種別 | 大正十五年 | | 大正十四年 | | 大正十三年 | | 大正十二年 | | 大正十一年 | |
|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 被害面積 金 | 被害見積 額 | 被害面積 金 | 被害見積 額 | 被害面積 金 | 被害見積 額 | 被害面積 金 | 被害見積 額 | 被害面積 金 | 被害見積 額 |
| 水害 | 六、五五三 | 五、六六〇 | 四、六九三 | 五、七五七 | 一、四七三 | 七、四四五 | 三、〇〇六 | 五、四〇〇 | 六、〇七九 | 三、三三三 |
| 雹害 | 六、八九七 | 二、七六〇 | 五、七三六 | 三、九〇四 | 三、九九三 | 八、七五五 | 一、四四五 | 三、九四六 | 三、三三三 | 一、五五九 |

朝鮮の災害

一〇四

| | | | | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|---------|--------|---------|
| 蟲害 | 二六、六九 | 四四、三〇 | 二六、八三 | 三六、四八 | 二二、九四七 | 三四、六八 | 三三、三三 | 一〇〇、〇〇〇 | 九八、〇〇〇 | 一〇〇、七七一 |
| 病害 | 五、五〇 | 三、七五 | 五、〇〇 | 一一、〇〇 | — | — | 五、一九五 | 五、〇〇〇 | 一九、三〇〇 | — |
| 旱害 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 暴風雨害 | 一七、二六 | 五〇、六八 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 潮害 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 霜害 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

備考

一、大正十五年の虫害は浮塵子及夜盗蟲の被害なれども其の大部分は浮塵子にして被害面積二八、六六一町、被害見積額四四、四三七圓に達せり病害は稻熱病及炭疽病の被害なれども稻熱病の被害大にして被害面積五、一七六町被害見積額二四二、九一七圓に上り、これに亞ぎ蟲害の被害最も少し、病害は稻熱病のみなり

一、大正十四年の虫害は殆んど螟蟲の被害にして其の被害面積二六、三五一町、金額一九八、五一〇圓にして夜盗蟲、浮塵子、これに亞ぎ蟲害の被害最も少し、病害は稻熱病のみなり

一、大正十三年の虫害は殆んど浮塵子にして面積一一〇、五一六町、金額三、三四七、八四一圓なり、被害見積額二四二、九一七圓に達せり病害は炭疽病及炭疽病の被害なれども稻熱病の被害大にして被害面積五、一七六町被害見積額二四二、九一七圓に達せり

一、早害に關する被害額は僅に一部分に止まる、彼の最も激烈を極めし大正十三年の被害面積及びこれに因る減收高の如きは別項参照のこと

水害に因る農作物被害 (各道別)

| 年次 | 被害面積 (金) | 被害見積額 (金) | 被害面積 (金) | 被害見積額 (金) | 被害面積 (金) | 被害見積額 (金) | 被害面積 (金) | 被害見積額 (金) |
|-------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|
| 大正十五年 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 同 十四年 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 同 十三年 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 同 十二年 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 同 十一年 | — | — | — | — | — | — | — | — |

| | | | | | | | | |
|------|-------|---------|-------|---------|---|---|---|---|
| 忠清北道 | 八五三二 | 二、三六、五八 | 二、三三七 | 二、五八、六七 | — | — | — | — |
| 忠清南道 | 三、一〇三 | 三、四三、八六 | 三、三三二 | 三、二九、五五 | — | — | — | — |
| 全羅北道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 全羅南道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 慶尙北道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 慶尙南道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 黃海道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 平安南道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 平安北道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 江原道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 咸鏡南道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | — | — | — | — | — | — | — | — |

水害に因る農作物被害 (種類別)

| 種類 | 大正十五年 | 同 十四年 | 同 十三年 | 同 十二年 | 同 十一年 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 水稲 | — | — | — | — | — |
| 粟 | — | — | — | — | — |
| 豆 | — | — | — | — | — |
| 上記以外 | — | — | — | — | — |
| 計 | — | — | — | — | — |

第三章 災害の程度

一〇五

| 道名 | 大正十五年 | | 同十四年 | | 同十三年 | | 同十二年 | | 同十一年 | |
|----|---------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 |
| 計 | 六、五三三、七六六、四〇九 | 四、四〇九、九六六、九七六、七六五 | 四、四〇九、九六六、九七六、七六五 | 四、四〇九、九六六、九七六、七六五 | 四、四〇九、九六六、九七六、七六五 | 四、四〇九、九六六、九七六、七六五 | 四、四〇九、九六六、九七六、七六五 | 四、四〇九、九六六、九七六、七六五 | 四、四〇九、九六六、九七六、七六五 | 四、四〇九、九六六、九七六、七六五 |
| 棉 | 三三三 | 一、九三三 | 七、五五五 | 二、六、五〇〇 | 七、七五五 | 一、五、六六六 | 三三三 | 九、五五五 | — | — |
| 蔬 | 七五五 | 四、五八三 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 其他 | 四、一五三 | 一、五、四〇四 | 一、五、四〇四 | 一、七、三、七六五 | 四、一九七 | 二、七、四四五 | 二、九、九四四 | 二、五、三、六六六 | 一、四、九六六 | 九、九、四三三 |

雹害に因る農作物被害 (各道別)

| 道名 | 大正十五年 | | 同十四年 | | 同十三年 | | 同十二年 | | 同十一年 | |
|------|-------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 |
| 計 | 六、八八七 | 二、五、〇、九六六 | 五、七、七六六 | 五、九、九、四〇四 | 三、三、九六六 | 八、七、七六六 | 一、四、〇、九六六 | 三、三、九六六 | 五、九、九、四〇四 | 三、三、九六六 |
| 咸鏡北道 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 江原道 | 二、〇一一 | 一、五、〇、一五五 | — | — | 八、八一一 | 四、〇、〇八八 | 三、七一一 | 一、〇、〇九六 | — | — |
| 平安北道 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 平安南道 | 一、六五五 | 一、八、二、七三三 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 黄海道 | — | — | — | — | 二、六、七三三 | 五、九、九六六 | 二、六、七三三 | 一、〇、〇九六 | — | — |
| 慶尙南道 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 慶尙北道 | 六、七五五 | 二、五、二、一〇一 | 一、四、〇一一 | 一、二、六、八五五 | 六、七五五 | 五、〇、〇五五 | 一、四、〇一一 | 一、二、六、八五五 | — | — |
| 全羅南道 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 全羅北道 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 忠清南道 | 一、七三三 | 五、六、六五五 | — | — | 三、八、六六六 | 五、五、五三三 | — | — | — | — |
| 忠清北道 | 九、〇〇〇 | 三、元、五、五五五 | 一、七、七三三 | 六、九、五、五五五 | 二、七、七三三 | 六、九、五、五五五 | — | — | — | — |
| 京畿道 | — | — | — | — | 二、八、九六六 | 五、八、五三三 | 一、〇、〇五五 | 四、九、五三三 | — | — |

雹害に因る農作物被害 (種類別)

| 種類 | 大正十五年 | | 同十四年 | | 同十三年 | | 同十二年 | | 同十一年 | |
|------|-------|-----------|---------|-----------|---------|---------|-----------|---------|-----------|---------|
| | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 | 面積 | 積金額 |
| 水稲 | 三、四四四 | 三、三、九六六 | 二、九、九六六 | 三、〇、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 |
| 粟 | 六、六六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 | 三、三、九六六 |
| 上記以外 | 一、二六六 | 一、五、〇、五一一 | 一、四、〇一一 | 一、六、三、三三三 | 二、三、三三三 | 四、四、八八八 | 一、二、二二二 | 一、二、二二二 | — | — |
| 豆類 | 一、〇五五 | 八、四、四四四 | 六、六六六 | 六、二、二二二 | 二、二、二二二 | 七、七、七七七 | 一、一、一一一 | 一、一、一一一 | — | — |
| 棉 | 三三三 | 一、五、五五五 | 二、二二二 | 三、三、三三三 | 一、八八八 | 一、〇、〇〇〇 | 三三三 | 五、五、五五五 | — | — |
| 蔬菜 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 其他 | 六、八八七 | 二、五、〇、九六六 | 五、七、七六六 | 五、九、九、四〇四 | 三、三、九六六 | 八、七、七六六 | 一、四、〇、九六六 | 三、三、九六六 | 五、九、九、四〇四 | 三、三、九六六 |
| 計 | 六、八八七 | 二、五、〇、九六六 | 五、七、七六六 | 五、九、九、四〇四 | 三、三、九六六 | 八、七、七六六 | 一、四、〇、九六六 | 三、三、九六六 | 五、九、九、四〇四 | 三、三、九六六 |

蟲害に因る農作物被害 (各道別)

第三章 災害の程度

朝鮮の災害

| 種別 | 大正十五年 | 同十四年 | 同十三年 | 同十二年 | 同十一年 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 慶尙北道 | — | — | 一四、九三 | 一五 | — |
| 慶尙南道 | — | — | 一九、九六 | 八六 | — |
| 黄海南道 | 二、八九 | 六、七五 | 四、五八 | 五、三六 | — |
| 平安南道 | — | 一、〇三 | — | 五、〇〇 | — |
| 平安北道 | 七、六五 | 八、〇〇 | — | 二、九四 | — |
| 江原道 | 一、八三 | — | 八、三〇 | — | — |
| 咸鏡南道 | — | — | 二、三二 | — | — |
| 咸鏡北道 | — | — | 五、二七 | — | — |
| 計 | 二六、八五 | 二六、八五 | 二二、九七 | 二二、〇〇 | 二六、八五 |

| 種別 | 大正十五年 | 同十四年 | 同十三年 | 同十二年 | 同十一年 |
|-------|-------|------|------|------|------|
| 浮座子 | 二六、六六 | 四、八七 | — | — | — |
| 夜盜蟲 | 一、五 | 二、〇五 | — | — | — |
| 螟蟲 | — | — | — | — | — |
| 稻縱葉卷蟲 | — | — | — | — | — |
| 飛蝗 | — | — | — | — | — |
| 銀蜂の幼蟲 | — | — | — | — | — |
| 計 | 二六、六六 | 四、八七 | — | — | — |

蟲害に因る農作物被害種類別 (害蟲別)

| 種別 | 大正十五年 | 同十四年 | 同十三年 | 同十二年 | 同十一年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 赤壁虱 | — | — | — | — | — |
| 金龜子 | — | — | — | — | — |
| 鳶色メ | — | — | — | — | — |
| 蛾幼メ | — | — | — | — | — |
| 計 | 二六、八五 | 二六、八五 | 二二、九七 | 二二、〇〇 | 二六、八五 |

| 種別 | 大正十五年 | 同十四年 | 同十三年 | 同十二年 | 同十一年 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 水稲 | 二六、八五 | 二六、八五 | 二二、九七 | 二二、〇〇 | 二六、八五 |
| 粟 | — | — | — | — | — |
| 上記以外の類 | — | — | — | — | — |
| 米穀類 | — | — | — | — | — |
| 豆類 | — | — | — | — | — |
| 棉類 | — | — | — | — | — |
| 蔬菜 | — | — | — | — | — |
| 其他 | — | — | — | — | — |
| 計 | 二六、八五 | 二六、八五 | 二二、九七 | 二二、〇〇 | 二六、八五 |

蟲害に因る農作物被害 (種類別)

病害に因る農作物被害 (各道別)

第三章 災害の程度

| 道 | 大正十五年 | 十四年 | 十三年 | 十二年 | 十一年 |
|------|-------|-----|-----|-----|-----|
| 忠清南道 | — | — | — | — | — |
| 慶尙北道 | 五、九〇〇 | — | — | — | — |
| 黃海道 | — | 三〇〇 | — | — | — |
| 計 | 五、九〇〇 | 三〇〇 | — | — | — |

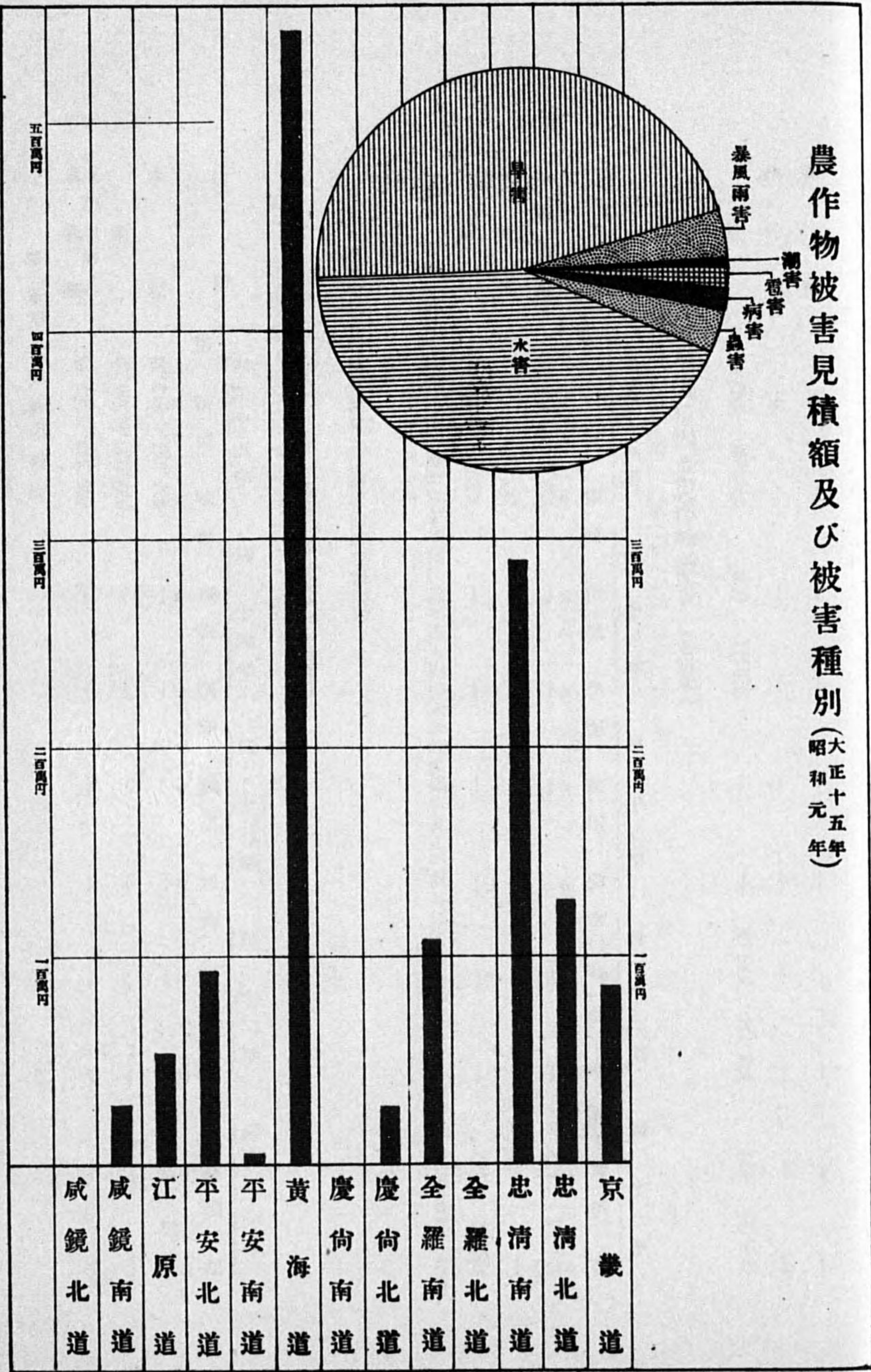
病害に因る農作物被害 (病害別)

| 種別 | 大正十五年 | 十四年 | 十三年 | 十二年 | 十一年 |
|--------|-------|-----|-----|-----|-----|
| 稻熱病 | 五、二六〇 | — | — | — | — |
| 炭疽病 | 七四〇 | — | — | — | — |
| 小麥の赤銹病 | — | — | — | — | — |
| 計 | 五、九〇〇 | — | — | — | — |

病害に因る農作物被害 (種類別)

| 種別 | 大正十五年 | 十四年 | 十三年 | 十二年 | 十一年 |
|---------|-------|-----|-----|-----|-----|
| 水稲 | 五、二六〇 | — | — | — | — |
| 粟 | — | — | — | — | — |
| 上記以外の穀類 | — | — | — | — | — |
| 豆類 | — | — | — | — | — |
| 棉 | — | — | — | — | — |
| 計 | 五、二六〇 | — | — | — | — |

農作物被害見積額及び被害種別 (大正十五年昭和元年)



| | | | | | | | |
|----|-------|-------|-----|--------|---|-------|-------|
| 蔬菜 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 其他 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 計 | 5,910 | 3,575 | 300 | 11,000 | 1 | 5,215 | 5,155 |

早害に因る農作物被害 (各道別)

| | | | | | | | | | | |
|------|--------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 全羅南道 | 面積 | 積價額 | 面積 | 積價額 | 面積 | 積價額 | 面積 | 積價額 | 面積 | 積價額 |
| 道 | 積價額 | 面積 | 積價額 | 面積 | 積價額 | 面積 | 積價額 | 面積 | 積價額 | 面積 |
| 全羅南道 | 26,930 | 9,945 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 黄海道 | 31,765 | 5,133 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 計 | 58,695 | 15,078 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

備考 朝鮮に於ける早害は毎年尠からざる額に達するも右の表以外に報告無し、假りにこれを掲ぐるもこの計數を全部と見る可らず

大正十三年の被害面積及び減收高別項参照のこと

早害に因る農作物被害 (種類別)

| | | | | | | |
|--------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 種別 | 大正十五年 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 水稲 | 面積 積價額 | 面積 積價額 | 面積 積價額 | 面積 積價額 | 面積 積價額 | 面積 積價額 |
| 粟 | 5,410 2,137 | 1 1 | 1 1 | 1 1 | 1 1 | 1 1 |
| 上肥穀以外類 | 60,380 2,105 | 1 1 | 1 1 | 1 1 | 1 1 | 1 1 |
| 計 | 65,790 4,242 | 1 1 | 1 1 | 1 1 | 1 1 | 1 1 |

第三章 災害の程度

| 朝鮮の災害 | 水 | 上記穀類以外 | 豆 | 蔬 | 其 | 計 | 道 | | 咸鏡南道 | 計 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---|---|------|---|
| | | | | | | | 積 | 額 | | |
| 一七、六一〇 | 一六、七六〇 | 一六、七六〇 | 一六、七六〇 | 一六、七六〇 | 一六、七六〇 | 一六、七六〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 同 | 同 | 同 | 同 |

霜害に因る農作物被害 (各道別)

| 朝鮮の災害 | 水 | 上記穀類以外 | 豆 | 蔬 | 其 | 計 | 道 | | 咸鏡南道 | 計 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---|---|------|---|
| | | | | | | | 積 | 額 | | |
| 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 一七、六一〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 一六、五〇〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 七、九四〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 五〇、六三〇 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 一、一四 | 同 | 同 | 同 | 同 |

水害

朝鮮に於ける水害の記録は既にこれを示した通りで、その度数の多く、被害高の大きなることは驚くべきものであるが、試みに最近十箇年間に就いて見るに、最も水害の大であつたのは大正十四年で、これに亞ぐは大正九年、大正十一年の水害である。水害に因る死者の数は九年度の一、二九五人が群を抜き、一箇年平均五一六人に對し二倍餘に當り、農作物被害は大正十四年の二四、一三〇、〇三二圓が第一位を占め、土地被害では九年の一六、五八七、四三八圓、工作物被害では十四年の六、六三七、〇五〇圓、家屋被害では同じく十四年の六〇、六〇六、〇〇〇圓がそれぞれ筆頭を占めてゐる。殊に大正十四年の家屋被害の如きは、大正九年の一三、四七三、五〇〇圓に對して約四倍半の被害高を示し、その汎濫區域の如何に廣かつたかと考察されるのである。また被害金額合計では大正十四年の一〇三、二一七、三五四圓が、大正九年度の約二倍餘にあたり、一箇年の被害高は平均二八、三二

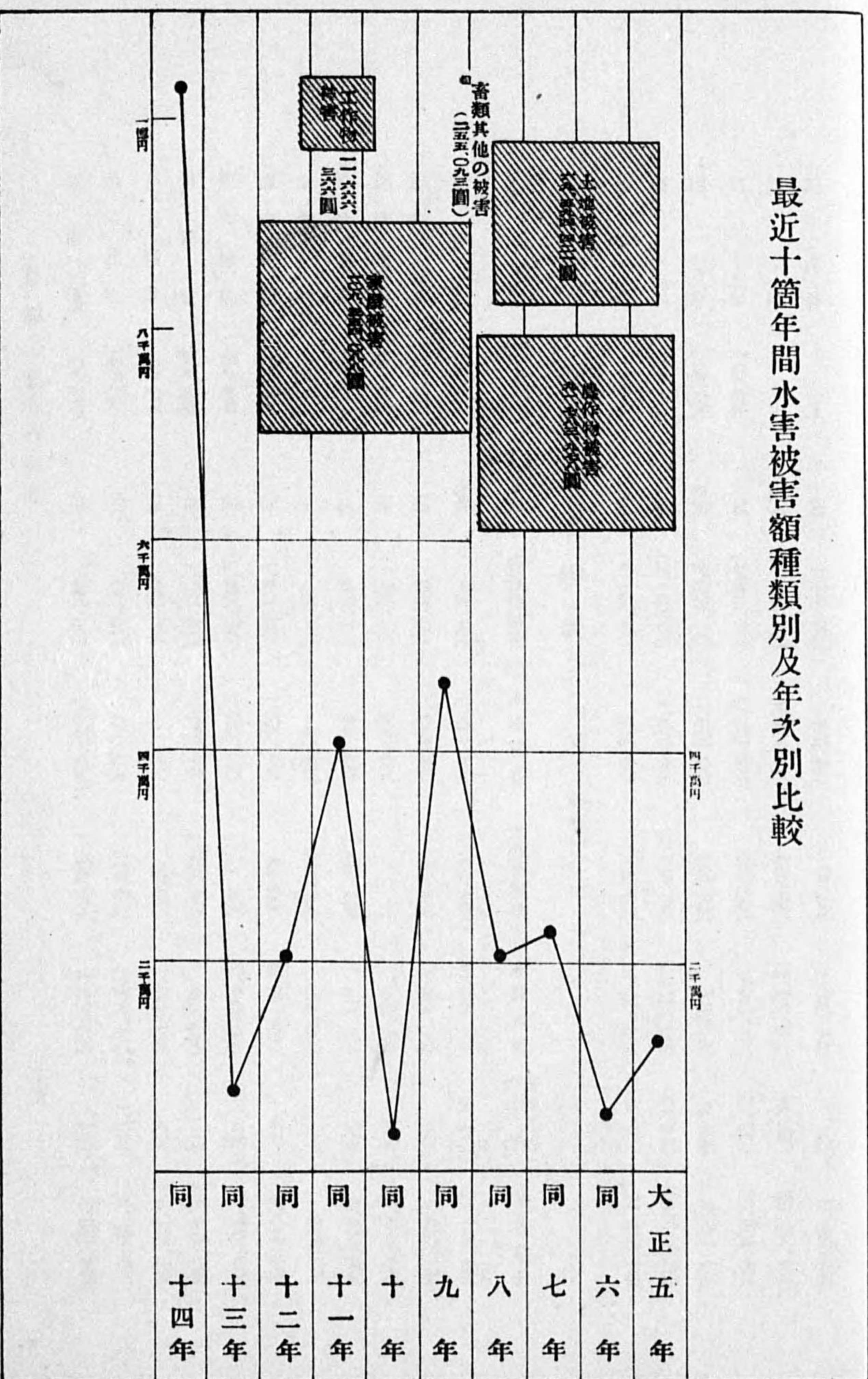
○、一九五圓となつて居り、年々莫大なる朝鮮の富が水害の爲めに失はれつゝあることを如實に物語つて居る。

今試みに、水害の最も甚だしかつた大正十四年について、その各道別被害高を見るに、死者は京畿道の三五六人が全部の六割を占め、農作物被害は慶尙南道の一〇、五六八、二八四圓が第一位で、京畿道これに亞ぎ、土地、工作物、家屋その他の被害では京畿道が最も大きいのである。被害金額總計は京畿道の四一、六六三、四四三圓が筆頭で(總計の約四割)、慶尙南道の二三、四八三、八五八圓(總計の約二割)これに亞ぎ、全羅南道の四九二、二七一圓が最も少いのである。水害に因る土地工作物被害は大正十四年が遙かに多く一七、二〇一、三六六圓の巨額を示し、從來のレコードたりし大正十二年の九、八三七、四六八圓の約二倍に近く、毎年平均五、二七二、〇〇〇圓の三倍を超えて居る。

最近十箇年間水害表

| 年次 | 池濫區域 積 | 人の死 | 農作物被害 | 土地被害 | 工作物被害 | 家屋被害 | 畜類其他 の被害 | 被害額計 |
|------|-----------|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 大正五年 | — | 五五 | 四、三三、三六圓 | 三、七三、二六圓 | 一、三、七二圓 | 五、六三、七三圓 | 一、四、八三圓 | 三、八五、三六圓 |
| 同六年 | — | 三〇 | 九、七、六四圓 | 一、五〇、七〇圓 | 一、五、六〇圓 | 二、八、六、五〇圓 | 一、七、一四圓 | 五、五、四、九四圓 |
| 同七年 | — | 三七 | 二、一、七〇、六五圓 | 六、七、三、一六圓 | 二、七、三、三三圓 | 四、四、四、〇〇圓 | 五、〇、〇〇圓 | 三、七、七、六三圓 |
| 同八年 | — | 五四 | 五、七、三、五八圓 | 九、四、一、三〇圓 | 八、七、四、四四圓 | 四、四、七、七、〇〇圓 | 三、七、〇〇圓 | 一〇、三、一、〇〇〇圓 |
| 同九年 | — | 一、二、九五 | 一、四、〇、三、七五圓 | 一、六、七、七、四八圓 | 二、二、八、八、八九圓 | 三、四、七、三、五〇圓 | 三、三、〇〇圓 | 四、四、五、四、一〇一圓 |
| 同十年 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 同十一年 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 同十二年 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 同十三年 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 同十四年 | — | — | — | — | — | — | — | — |

最近十箇年間水害被害額種類別及年次別比較

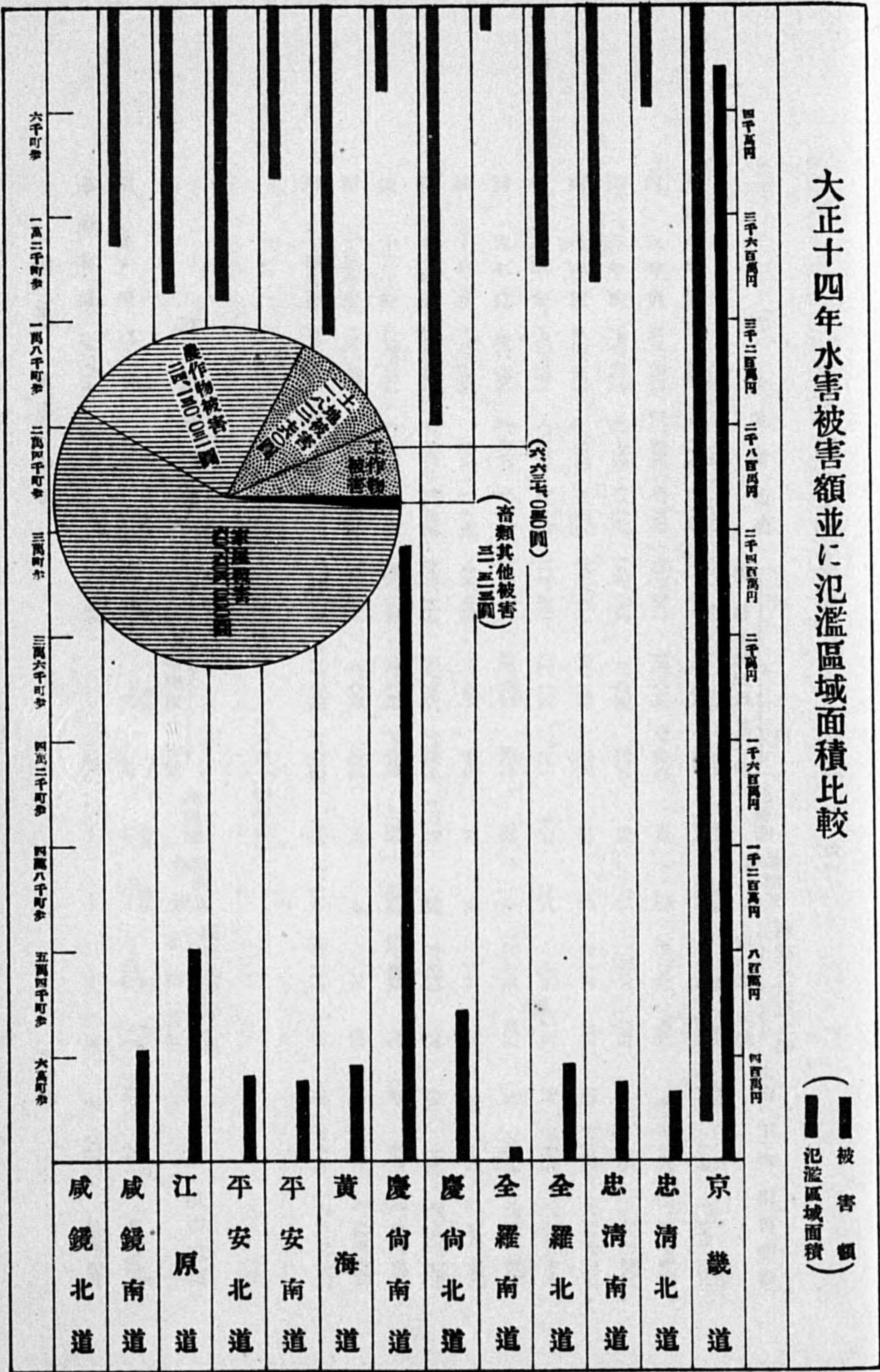


| | | | | | | | | |
|------|---------|------|-----------|----------|----------|-----------|-------|-------------|
| 咸鏡南道 | 一八、二三三 | 吉 | 六九、一七二 | 六三、〇〇〇 | 一六、八九〇 | 二七、六〇〇 | 二、一〇〇 | 四、四九一六 |
| 總計 | 二〇七、四八一 | 六四、七 | 二、一〇〇、〇〇〇 | 二、八三、七〇〇 | 六、五七、〇〇〇 | 六〇、六〇、〇〇〇 | 三、五三三 | 一〇、〇三、七、三三三 |

更に、水害に因る國家の負擔に屬する土木事業災害たる道路、並木、橋梁、河川、池沼湖、港灣及海岸、溜池及用惡水路、水道、下水の損害を見るに、その中道路、並樹、橋梁の被害は大正四、五年度が最も甚だしく、往時の道路施設の不完全なることを示し、河川、池沼湖、港灣及び海岸の被害は近年の大洪水たる大正十四年度、同九年度、同十一年度に多く、水路、水道の被害は大正十二年度、下水は大正五年度、同十四年度の順序である。而してこれが被害額は大正四年度に一、三七四、二四九圓たりしものが、大正十一年度にはその約四倍、同十二年度には約七倍、同十三年度には約五倍、同十四年度には約十四倍となつて居り、近來水害に因る被害高の著しき増加の傾向を窺ふことが出来る。

今試みに、大正十四年度の各道別の被害額を見ると、道路、並樹、橋梁の被害では江原道が最も甚だしく、河川被害は慶尙南道に於て最も多きを示し、また港灣、海岸の被害では慶尙南道が大部分を占め、水路被害では平安北道、池沼湖被害では全羅北道、下水被害では慶尙南道、水道被害では京畿道が激甚である。損害價額に於て最も多いのは平安南道の四、二三九、四一〇圓にして、最も少ないのは全羅北道の一二二、五二八圓である。

大正十四年水害被害額並に氾濫區域面積比較



水害に因る土木事業災害表

(累年・比較)

| 年度 | 道 路 並 樹 橋 梁 | | 河 川 | | 池 沼 湖 海 灣 及 港 岸 | | 溜 池 及 用 懸 水 路 | | 水 道 下 水 損 害 價 額 | |
|-------|-------------|-------|-----------|-------|-----------------|-------|---------------|-------|-----------------|-------|
| | 防 土 砂 埋 没 | 其 他 | 防 土 砂 埋 没 | 其 他 | 防 土 砂 埋 没 | 其 他 | 防 土 砂 埋 没 | 其 他 | 防 土 砂 埋 没 | 其 他 |
| 大正四年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 五年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 六年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 七年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 八年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 九年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 十年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 十一年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 十二年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 十三年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 十四年度 | 25,333 | 1,216 | 2,100 | 2,100 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |

水害に因る土木事業災害表

(大正十四年度)

第三章 災害の程度

| 道 | 火災 | 病蟲害 | 洪水 | 盜伐 | 誤伐 | 風枯損其他 | 合計 |
|------|-------|------|-------|-------|------|-------|--------|
| 忠清南道 | 三、七〇 | 五、一〇 | 一、六〇〇 | 三、〇〇 | 二 | 一、五〇 | 三、七〇 |
| 全羅北道 | 一〇、九〇 | 二、〇〇 | 七、七〇 | 一四、〇〇 | 一 | 一、四〇 | 三三、〇〇 |
| 全羅南道 | 三、四〇 | 二、〇〇 | 一、九〇 | 三 | 二、六〇 | 三 | 一三、五〇 |
| 慶尙北道 | 五、五〇 | 一 | 五、三〇 | 一八、六〇 | 七 | 一、五〇 | 三三、七〇 |
| 慶尙南道 | 一四、九〇 | 四、四〇 | 三、七〇 | 一、五〇 | 三、一〇 | 四、四〇 | 三六、〇〇 |
| 黄海道 | 三、七〇 | 二、七〇 | 一、九〇 | 三、四〇 | 七 | 七〇 | 一四、〇〇 |
| 平安南道 | 三、〇〇 | 一 | 四、〇〇 | 九〇〇 | 一八 | 三 | 四、三〇 |
| 平安北道 | 四、六〇 | 一 | 二、五〇 | 二 | 一 | 一九、五〇 | 五、六〇 |
| 江原道 | 一、五〇 | 三、〇〇 | 三、六〇 | 三〇 | 一 | 二、二〇 | 一〇、二〇 |
| 咸鏡南道 | 五、六〇 | 五、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 二 | 八〇〇 | 一〇、九〇 |
| 咸鏡北道 | 六、七五 | 一 | 九 | 八〇 | 二 | 一 | 一三、五五 |
| 總計 | 五三、七〇 | 三、七〇 | 四、六三 | 三三、六〇 | 一、三〇 | 一、五〇 | 一〇九、一七 |

林野被害

林野被害では蟲害が大半を占め、火災による被害高これに亞ぎ、盜伐、誤伐、風枯その他の損害は極めて少部分である。即ち火災の件数では大正十四年の一、六四六件、及び同十三年の一、五六八件が多い方であるが、被害高から云へば大正三年の一、五五一、四一一圓が遙かに他を凌いでゐる。蟲害は最近に於て著しく増加し、大正十四年にはその被害高二、三九六、三八六圓の多きに達して居る。洪水による被害は大正十五年が最も多く、盜伐は大正六年、同十三年の順で、誤伐は大正十一年及び同

十四、十五の三箇年が最も多い。風枯その他の原因による被害高は大正十四年の一四、二七〇圓が遙かに他を抜いてゐるが、これは同年度に於ける暴風害によるものである。被害高合計の最も多いのは大正十四年の三、二二六、一三四圓で、同十三年これに亞ぎ、大正元年の合計四〇、二〇九圓に對して各種被害とも著しく漸増の傾向が窺はれるのは、林政上最も憂慮すべき現象である。

林野被害累年比較

| 年 度 | 火 災 | | 病 蟲 害 | | 洪 水 | | 盜 伐 | | 誤 伐 | | 風 枯 損 其 他 | | 合 計 |
|-----------|-----|--------|-------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----------|-------|--------|
| | 件数 | 價額 | 件数 | 價額 | 件数 | 價額 | 件数 | 價額 | 件数 | 價額 | 件数 | 價額 | |
| 大正元年度 | 七 | 三、三二五 | 四 | 一、〇〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 六 | 六、三〇〇 | 三 | 三、〇〇〇 | 三 | 一、六〇〇 | 一〇、九〇〇 |
| 同 二 年 度 | 三三 | 三〇、三三三 | 三 | 四、〇〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 三 | 三、五〇〇 | 一〇 | 六、三〇〇 | 三 | 三、〇〇〇 | 四九、九〇〇 |
| 同 三 年 度 | 三〇 | 一、五二二 | 二 | 七、七〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 二 | 二、九〇〇 | 一〇 | 三、〇〇〇 | 七 | 三、〇〇〇 | 四九、九〇〇 |
| 同 四 年 度 | 七 | 七、二二六 | 三 | 八、六〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 三 | 四、四〇〇 | 三 | 三、〇〇〇 | 九 | 八、〇〇〇 | 五三、四〇〇 |
| 同 五 年 度 | 一九 | 五、五〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 四 | 一、九〇〇 | 六 | 二、四〇〇 | 七 | 二、七〇〇 | 八〇、〇〇〇 |
| 同 六 年 度 | 五 | 六、五〇〇 | 三 | 四、五〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 八 | 三、三〇〇 | 四 | 八、三〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 五三、三〇〇 |
| 同 七 年 度 | 四 | 一、六〇〇 | 三 | 三、六〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 四 | 八、〇〇〇 | 六 | 五、〇〇〇 | 四九、〇〇〇 |
| 同 八 年 度 | 四 | 一、四〇〇 | 二 | 七、二〇〇 | 二 | 六、四〇〇 | 四 | 三、三〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 三六、五〇〇 |
| 同 九 年 度 | 四 | 一、三〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 五 | 五、七〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 七 | 一、四〇〇 | 三六、四〇〇 |
| 同 十 年 度 | 五 | 七、七〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 七 | 一、六〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 四九、八〇〇 |
| 同 十 一 年 度 | 六 | 一、五〇〇 | 三 | 三、九〇〇 | 三 | 三、九〇〇 | 三 | 三、九〇〇 | 一 | 一、〇〇〇 | 四 | 一、四〇〇 | 三六、五〇〇 |

| | | | | | | | | | | | |
|-------|----------|-----------|----------|-----|-----------|--------|-----|--------|-----|-----------|-----------|
| 同十二年度 | 六五、三〇〇 | 三九、三三〇 | 一、九三二、五五 | 一〇六 | 六、三三三、一五〇 | 一八、四四九 | 六四四 | 五、三〇〇 | 一三五 | 二、一三七、三三〇 | 三〇、五〇五、八五 |
| 同十三年度 | 一、五八六、八三 | 三三、三六一、五九 | 三〇〇 | 一一〇 | 一五、一四〇 | 二五、二五五 | 六五五 | 四、七九九 | 三 | 一、二四四、三六二 | 三三、五三、四三 |
| 同十四年度 | 一、四六四、二九 | 四七、七三三、三六 | 三三六、三六 | 三三 | 四、三三二、〇五 | 一三、八三七 | 四六 | 一三、二四九 | 二八 | 一、四三七〇 | 四七、一五三、三六 |
| 同十五年度 | 一、三二二、七三 | 三〇、三九一、六四 | 〇七 | 八四 | 二五、九三三、〇〇 | 一三、九七 | 九五九 | 三、三三八 | 四八 | 四、五七三、〇七 | 一、七六、六二 |

備考 一、大正八年度以前は國有林のみなり
 二、大正九年及十年度は國有及民有林のみなり

右の統計を見るに、大正十五年中の森林被害高は總計一、七九六、二六一圓にして、その中、病蟲害が約八割を占め、火災一割五分、其他五分の割合である。火災は無願火入に原因する度数が最も多いが、被害面積は反對に林内焚火に因る七、一六六町歩が最大である。被害額では煙草の吸殻に原因する二三、五八八圓が群を抜き、焚火による一五、二二七圓これに亞ぎ、森林以外よりの延焼によるものもまた相當の額に上つてゐる。これ等森林火災の最も多いのは江原道の四三四件、面積一〇、一一六町歩であるが、損害額は却つて慶尙南道の二〇、九九六圓が多く、營林署管内、黄海道の順で最も少いのは忠清南道である。而して江原道、平安南道に於て、森林火災の度數及び被害面積の著しく大きいのは、彼の火田民の火入によるものが大部分を占めて居る爲めである。朝鮮に於ける火田の整理は、獨り林政上重要な問題たるに止まらず、治水上、社會上實に容易ならざる問題であるから、速かにその根本的解決策を講ずることが大切である。(調査資料第十五輯「火田の現状」参照)

朝鮮の森林被害の殆んど大部分は病蟲害によるものである。而して森林に大害を與ふる病菌、害蟲はその種類頗る多いが、就中被害の廣汎で、且つ激甚なのは、マツケムシである。その被害は咸鏡北道、咸鏡南道の一部を除いて殆んど全鮮各道に亘るが、最も大きいのは京畿道である。即ち被害面積七一、五九八町は、これに亞ぐ忠清南道の五九、八四〇町を遙かに抜き、その被害高は各道總計の約四割の四五四、一四一圓に達してゐる。その他の病蟲害はマツノクロムシ、マツノミドリバチであるが、その被害は殆んど慶尙北道に限られ被害高も僅少である。

その他の被害は病蟲害、火災による損害に比して極めて少なく、水害による二五、九〇五圓、盜伐一三、六九七圓、誤伐一三、三三八圓が稍大なるものである。盜伐は營林署管内が最も多く、慶尙南道が最も少なく、誤伐は營林署、忠清北道、京畿道の順で、風害は忠清南道、水害は平安北道が全部を占め、雪害、盜採は營林署、及び慶尙北道に限られてゐる。即ち病蟲害及び火災以外の被害では平安北道が最も多く、總計の約三割五分の二一、五三九圓を占め、營林署の一六、〇八六圓がこれに亞ぎ約二割五分、最も少いのが慶尙南道の四一圓である。

大正十五年 昭利元年 森林被害調

| 火災 | 災 | (イ) | (原) | (因) | (別) |
|---------|----|-----|----------|-------|-------|
| 放火に因るもの | 八九 | 七二三 | 六、三三二、九三 | 二、五五〇 | 四、一五八 |

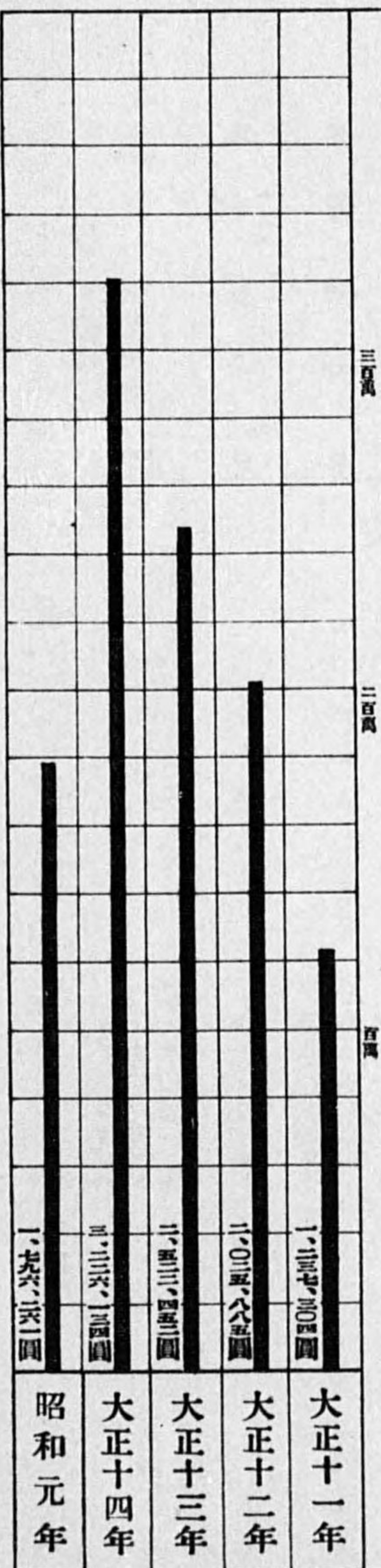
朝鮮の災害

| | | | | |
|-----------------|-------|--------|--------------------------------------|---------|
| 失火に因るもの | 二五五 | 二、六八三 | 六、八八五尺 六、一五九尺 三、〇〇五〇本 | 一一四 |
| (a) 無願火入に因るもの | | | | 五〇一五 |
| (b) 火入に因るもの | 二二一 | 二、八三〇 | 二、一八五尺 二、四八六尺 一、九〇〇尺 一、五〇〇尺 | 七、一八九 |
| (c) 林内焚火に因るもの | 一〇〇 | 七、一六六 | 二、三二二尺 一、一四五〇尺 一、二五〇尺 | 一五、二二七 |
| (d) 煙草の吸殻に因るもの | 二四五 | 六、五三五 | 三、三七八尺 一、四二〇尺 四、九〇〇尺 | 二、三、五八八 |
| (e) 蒸汽機關車に因るもの | 二三 | 一九〇 | 四〇三尺 一〇〇〇本 | 二七一 |
| (f) その他の原因に因るもの | 一九七 | 五、二三三 | 九、四九二尺 二、二八九尺 二、九五六尺 四、七七一尺 | 二六、三三三 |
| (g) 計 | 一、〇三二 | 二四、五三七 | 一、〇二六尺 一、〇六八尺 一、〇二六尺 五、三七一尺 | 七、七、六四三 |
| 森林以外よりの延焼に因るもの | 一一三 | 二、八二七 | 一、四〇三尺 一、七九〇尺 四、五〇〇尺 | 一一、四九九 |

昭和元年度種類別森林被害高

| | |
|-----|---------|
| 虫害 | 一、三、七〇四 |
| 火災 | 三、四、七三〇 |
| 洪水 | 二、五、〇五〇 |
| 盗伐 | 一、三、六九七 |
| 誤伐 | 三、三、六〇四 |
| その他 | 四、一、七〇七 |

最近五箇年間森林被害比較



| 道名 | 被害面積 | 被害價額 | 驅除面積 | 驅除 | | | 驅除經費 | 従事人員 | 損害額 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| | | | | 幼蟲 | 成蟲 | 卵 | | | |
| 京畿道 | 七、五八 | 四、四一 | 六、九六 | 六、四三 | 一、五八 | 三、三三 | 一、四七 | 四、八〇 | |
| 忠清南道 | 七 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 忠清北道 | 七 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 全羅南道 | 一〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 全羅北道 | 一五 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 慶尙南道 | 三 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 慶尙北道 | 五 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 平安南道 | 二 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 平安北道 | 六 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 江原道 | 四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 咸鏡南道 | 三 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 咸鏡北道 | 六 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |
| 總計 | 二、三三 | 一、三三 | 一、八六 | 一、八六 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | |

| 道名 | 被害面積 | 被害價額 | 驅除面積 | 驅除 | | | 驅除經費 | 従事人員 |
|------|-------|------|-------|-------|----|---|------|------|
| | | | | 幼蟲 | 成蟲 | 卵 | | |
| 忠清北道 | 一五、二九 | 二、四三 | 一五、二九 | 一五、二九 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 忠清南道 | 一五、七九 | 二、四一 | 一五、七九 | 一五、七九 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 全羅北道 | 六、五〇 | 一、〇一 | 六、五〇 | 六、五〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 全羅南道 | 一、三六 | 〇、二二 | 一、三六 | 一、三六 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 慶尙北道 | 一四、二八 | 二、二二 | 一四、二八 | 一四、二八 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 慶尙南道 | 六、〇四 | 一、〇一 | 六、〇四 | 六、〇四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 黃海道 | 三、三三 | 〇、五九 | 三、三三 | 三、三三 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 平安南道 | 一、三三 | 〇、二二 | 一、三三 | 一、三三 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 平安北道 | 四、九四 | 〇、八〇 | 四、九四 | 四、九四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 江原道 | 一、三三 | 〇、二二 | 一、三三 | 一、三三 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 咸鏡南道 | 一 | 〇 | 一 | 一 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 咸鏡北道 | 三 | 〇 | 三 | 三 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 總計 | 一、〇六 | 〇、一六 | 一、〇六 | 一、〇六 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

| 道名 | 被害面積 | 被害價額 | 驅除面積 | 驅除 | | | 驅除經費 | 従事人員 |
|------|------|------|------|------|----|---|------|------|
| | | | | 幼蟲 | 成蟲 | 卵 | | |
| 慶尙北道 | 一、〇〇 | 〇、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 總計 | 一、〇〇 | 〇、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

第三章 災害の程度

病 蟲 害 (ハ) (總計)

| 道 名 | 被害面積 | 被害價額 | 同上の中 | | 驅除數量 | | | 驅除經費 | 従事人員 | |
|------|---------|------------|------------|------------|--------|----------|------------|----------|-----------|-----------|
| | | | 驅除面積 | 價額 | 幼蟲 | 滿成蟲 | 卵 | | | |
| 京畿道 | 七、五九〇町 | 四、四一四町 | 六、九六六町 | 九、五五九町 | 一、五八六升 | 七、五九六升 | 三、三三四升 | 八六、二六九升 | 一四、七四〇町 | 四、七〇七町 |
| 忠清北道 | 四、五九〇町 | 一、四三三町 | 三、四三三町 | 一、七〇三町 | 三、二八四 | 三、二九三 | 一、〇五二 | 一九、一〇一 | 五、三〇五 | 九、〇六六 |
| 忠清南道 | 五、八四〇町 | 一、五七九町 | 三、四一四町 | 三、三三三町 | 一、〇八三 | 五、〇三九 | 八、七七一 | 五、五三三 | 六、三三三 | 一、四七五 |
| 全羅北道 | 一、一六五町 | 六、三三〇町 | 八、四一五町 | 一、三三七町 | — | — | — | 一、五三七町 | 一、五〇九 | — |
| 全羅南道 | 五、五五〇町 | 一、八六八町 | 三、五二二町 | 一、三三七町 | 四、二八九 | 二、一七三 | 一、六六七 | 一、八八七 | 三、三七七 | 一、〇八四 |
| 慶尙北道 | 一、四四八町 | 六、〇七七町 | 二、四八八町 | 一、〇〇四町 | 二、七九四 | 三、九七 | 九 | 二、八七四 | 八、九九五 | 五、六六七 |
| 慶尙南道 | 三、八〇三町 | 三、三三三町 | 一、八九六町 | 一、九四四町 | 三、二四三 | 一、五九二 | 一、九四三 | 五、九七七 | 三、〇四九 | 一、一四三 |
| 黃海道 | 四、三九九町 | 一、四七五町 | 四、一八五町 | 一、九七九町 | 四、二九七 | 四、七七八 | 一、三五九 | 二、四三三 | 九、八〇三 | 一、三六三 |
| 平安南道 | 一、〇三九町 | 四、九四四町 | 九、〇〇〇町 | 二、三九九町 | 二、三五六 | 二、一六八 | 六、三四五 | 三、五〇六 | 四、八五五 | 九、五〇〇 |
| 平安北道 | 三、〇三三町 | 九、五三六町 | 二、九〇九町 | 六、八三二町 | 六、六一 | 三、二六三 | 四 | 一、七三〇 | 八、六六六 | 三、〇三三 |
| 江原道 | 一、七三三町 | 一、〇〇〇町 | 一、七三三町 | 三、一〇〇町 | 四、〇一〇 | 三、五〇〇 | — | 一、四四七 | 一、七三〇 | 二、七三〇 |
| 咸鏡南道 | 三、三三三町 | — | 三、三三三町 | 四、四四〇町 | 一〇 | — | — | 四、四四〇 | 一〇〇 | 一、三三三 |
| 營林署 | 二、五九八町 | 一、四四〇町 | 二、五九八町 | 八、一五八町 | 九〇三 | 一、九 | 九 | 九、三三一 | 三、一九五 | 五、九七七 |
| 總計 | 三〇、七九一町 | 一、六四四、七二一町 | 二、七七一、五七一町 | 一、七七一、五七一町 | 七三、三九八 | 三、三三、四七七 | 五、一〇九、八三三町 | 三、三三、四七七 | 六、八八、四七一町 | 一、二七、八三三町 |

雜 (その一)

| 道 名 | 件數 | 數量 | 面積 | 價額 | 件數 | 數量 | 面積 | 價額 | 風 害 | |
|------|-----|------|-----|-----|----|----|----|----|-----|----|
| | | | | | | | | | 件數 | 數量 |
| 京畿道 | 三二 | 八、〇〇 | 二、六 | 九、五 | — | — | — | — | — | — |
| 忠清北道 | 三三 | 四、八 | 五、七 | 五、三 | — | — | — | — | — | — |
| 忠清南道 | 七四 | 八、〇 | 七、七 | 五、三 | — | — | — | — | — | — |
| 全羅北道 | 一一 | 三、六 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 全羅南道 | 一一 | 三、六 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 慶尙北道 | 三〇 | 四、九 | 四、九 | 三、三 | — | — | — | — | — | — |
| 慶尙南道 | 一一 | 一、九 | 一、三 | — | — | — | — | — | — | — |
| 黃海道 | 二 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 平安南道 | 三 | 二、六 | 三、三 | — | — | — | — | — | — | — |
| 平安北道 | 三〇 | 一、四 | 三、〇 | — | — | — | — | — | — | — |
| 江原道 | 二 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 咸鏡南道 | 三 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 咸鏡北道 | 七 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 營林署 | 六二 | 八、九 | 一、四 | 六、六 | — | — | — | — | — | — |
| 總計 | 三〇〇 | 三、〇〇 | 二、五 | 三、六 | — | — | — | — | — | — |

| 道名 | 水 | | | 雪 | | | 盗 | | | 採 | | |
|------|---------|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 件数 | 数量 | 面積 | 件数 | 数量 | 面積 | 件数 | 数量 | 面積 | 件数 | 数量 | 面積 |
| 忠清北道 | 三 | 八 | 一〇〇 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 忠清南道 | 三 | 三 | 六 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 慶尙北道 | 八 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 慶尙南道 | 四 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 平安北道 | 四 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 江原道 | 四 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 營林署 | 一〇 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 總計 | 八六 | 二二〇 | 三〇〇 | 三 | 一 | 一 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 道名 | 雜 (その三) | | | 其他 | | | 總計 | | | 計 | | |
| 京畿道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 忠清北道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 忠清南道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 全羅北道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 全羅南道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 金羅南道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

船舶遭難

| 道名 | 件数 | 数量 | 面積 | 金額 | 件数 | 数量 | 面積 | 金額 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|
| 慶尙北道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 慶尙南道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 黄海道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 平安南道 | 三 | 一〇〇 | 一〇 | 一〇〇 | 三 | 一〇〇 | 一〇 | 一〇〇 |
| 平安北道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 江原道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 咸鏡南道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 咸鏡北道 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 營林署 | 一〇 | 一〇〇 | 一〇 | 一〇〇 | 一〇 | 一〇〇 | 一〇 | 一〇〇 |
| 總計 | 三三 | 一〇〇 | 一〇 | 一〇〇 | 三三 | 一〇〇 | 一〇 | 一〇〇 |

海運業及び漁業の發達に伴ひ、暴風、濃霧等の襲來に依る船舶の遭難件数は、近年漸増の傾向がある。最近數年間を通じ船舶の遭難は大正十四年が筆頭でその隻數二、七〇二隻に上り、大正十二年の暴風による被害七〇四隻の三倍餘に當つて居る。これは同年九月上旬の大暴風雨によるもので、その

被害は主として慶尙南道、慶尙北道、全羅南道の沿岸地方に亘つて居る。船舶の遭難に基く人命被害の最も大なりしは、大正十二年の死亡五百二十四人、負傷百九十三人、行方不明四百四十九人、合計一千百六十六人である。これは主として南鮮地方の沿海に於て、暴風の爲め漁船の遭難したる結果で、或る地方の如きはこれが爲め内地人通漁者の殆んど全滅したやうな悲惨事を見たのである。この朝鮮近海は濃霧の發生多きを以て、その爲めに船舶の衝突、暗礁乗上等による被害も亦尠くない。されば船舶の遭難を成るべく最小の程度に止めんとせば、燈臺、望樓、浮標等の設備を充分ならしめ、警報速知、海難救済等の機關を完全ならしむることが急務である。

遭難船舶

| 年 | 汽船 | | | 帆船 | | 其他船舶 | 合計 | 乗組人員中 | | |
|--------|----|----|----|----|----|------|-----|-------|------|----|
| | 噸數 | 隻數 | 噸數 | 隻數 | 死亡 | | | 負傷 | 行方不明 | 合計 |
| 明治四十三年 | 八 | 二 | 二四 | 四七 | 五〇 | 七 | 一〇五 | 四五 | 四五 | |
| 同 四十四年 | 一八 | 六 | 三三 | 五二 | 七〇 | 二 | 一四二 | 二四 | 五五 | |
| 大正元年 | 六 | 六 | 二二 | 一九 | 四七 | 二 | 七〇 | 二四 | 五五 | |
| 同 二年 | 六 | 六 | 二二 | 一九 | 四七 | 二 | 七〇 | 二四 | 五五 | |
| 同 三年 | 六 | 六 | 二二 | 一九 | 四七 | 二 | 七〇 | 二四 | 五五 | |
| 同 四年 | 六 | 六 | 二二 | 一九 | 四七 | 二 | 七〇 | 二四 | 五五 | |
| 同 五年 | 六 | 六 | 二二 | 一九 | 四七 | 二 | 七〇 | 二四 | 五五 | |

累年比較

| 年 | 大正十四年 | | | | | | | | | | 同 十四年 | 同 十三年 | 同 十二年 | 同 十一年 | 同 十年 | 同 九年 | 同 八年 | 同 七年 | 同 六年 |
|-------|-------|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|
| | 江原道 | 平安北道 | 平安南道 | 黄海道 | 慶尙南道 | 慶尙北道 | 全羅南道 | 全羅北道 | 忠清南道 | 忠清北道 | | | | | | | | | |
| 同 十四年 | 一 | 一 | 一 | 二 | 四 | 七 | 五 | 一 | 一 | 一 | 一〇 | 四 | 七 | 三 | 二 | 一〇 | 七 | 四 | 九 |
| 同 十三年 | 一 | 一 | 一 | 三 | 四 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一五 | 六 | 一〇 | 七 | 四 | 一〇 | 七 | 六 | 九 |
| 同 十二年 | 一 | 一 | 一 | 三 | 四 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一五 | 六 | 一〇 | 七 | 四 | 一〇 | 七 | 六 | 九 |
| 同 十一年 | 一 | 一 | 一 | 三 | 四 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一五 | 六 | 一〇 | 七 | 四 | 一〇 | 七 | 六 | 九 |
| 同 十年 | 一 | 一 | 一 | 三 | 四 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一五 | 六 | 一〇 | 七 | 四 | 一〇 | 七 | 六 | 九 |
| 同 九年 | 一 | 一 | 一 | 三 | 四 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一五 | 六 | 一〇 | 七 | 四 | 一〇 | 七 | 六 | 九 |
| 同 八年 | 一 | 一 | 一 | 三 | 四 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一五 | 六 | 一〇 | 七 | 四 | 一〇 | 七 | 六 | 九 |
| 同 七年 | 一 | 一 | 一 | 三 | 四 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一五 | 六 | 一〇 | 七 | 四 | 一〇 | 七 | 六 | 九 |
| 同 六年 | 一 | 一 | 一 | 三 | 四 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一五 | 六 | 一〇 | 七 | 四 | 一〇 | 七 | 六 | 九 |
| 合計 | 一 | 一 | 一 | 二 | 四 | 七 | 五 | 一 | 一 | 一 | 一〇 | 四 | 七 | 三 | 二 | 一〇 | 七 | 四 | 九 |

第三章 災害の程度

朝鮮の災害

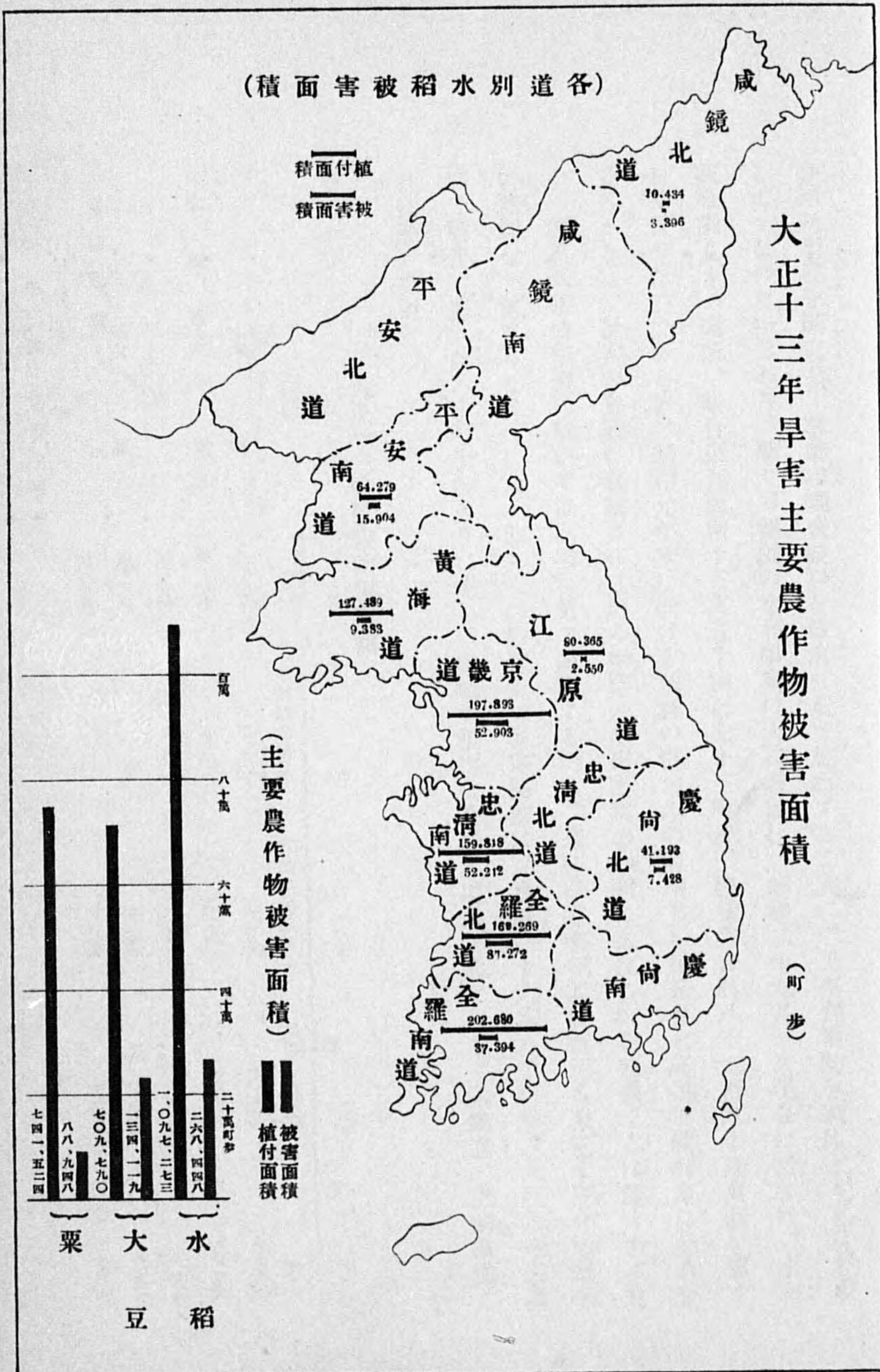
| | | | | | | | | | |
|------|-----|----|----|-----|-----|----|---|----|----|
| 咸鏡南道 | 1 | 8 | 4 | 9 | 3 | 10 | 7 | 14 | 3 |
| 咸鏡北道 | 2 | 6 | 6 | 30 | 6 | 19 | 3 | 3 | 5 |
| 合計 | 103 | 15 | 60 | 157 | 203 | 15 | 6 | 13 | 18 |

旱害

李朝時代に於ける水利灌漑の設備は極めて不完全にして、堤堰六千餘、沢二萬餘を有したるに拘らず、その殆んど全部が荒廢に歸して水利の用を爲さず、これが爲めに旱魃に際しては、農業上の被害は頗る激烈を極め、窮民山野に滿ち餓殍途に横はるの慘狀を呈したのである。此に於てか總督府設置以來、灌漑水利の便を計る爲め、地方廳の設計に基き、國庫補助、並に豪利者の賦役を促して指導奨勵を加へたる結果、大正八年度迄に修築を加へたる堤堰一千五百箇所、沢四百四十箇所、その灌漑面積五萬一千町歩に達し、大正八年以後は地方廳に財源を移付し、地方廳をしてこれが助成に當らしめて居る。然しながら施政當時は、水利組合條例は發布せられて居たけれども、民度低き朝鮮農民の間には共同施設を爲すものがまだ多くなかつたのである。ところが、内地營農業者の漸次移住し、大規模の農事經營を計畫する者が増加すると共に、水利組合設立の機運が漸く動くに至つたので、大正六年に朝鮮水利組合令を發布して舊條例に代へたのである。けれども當時は調査設計が完全に行かず、經費も多額を要する等のことから、水利事業は甚だ不振の状態にあつた。そこで大正八年四月水利組

大正十三年旱害主要農作物被害面積

(町歩)



合補助規程を制定し、事業の調査設計を政府に於て施行すると共に、工事費補助を國庫より下附することゝなつたのである。斯くて朝鮮の水利事業は大に進展し、昭和二年九月一日現在に於ては、水利組合數九十一箇所、組合蒙利面積十三萬五千四百七十三町歩、事業費合計八千二百九十餘萬圓を算するに至つたのであるが、昭和元年末に於ける朝鮮の畝のみの面積でも百五十七萬四千餘町歩に及ぶを見るときは、早害の危険に暴露されて居る朝鮮の水田面積の如何に大なるかを想像するに難くあるまい。大正八年の早害に就いては別項に於て説明するから、茲には近來の大被害たる大正十三年の早害の状態を一瞥することゝした。即ちこれに據ると早害面積は、水田二十六萬八千町歩、大豆二十三萬四千町歩、粟八萬八千町歩の多きに達し、水稻の被害は全羅北道最も甚だしく、京畿道、忠清南道これに亞いで居る。

大正十三年早害被害面積

| 道 | 作物 | 作付面積 | 早害被害面積 | | | 計 |
|------|----|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | | 七割以上減收 | 五割以上減收 | 三割以上減收 | |
| 京畿道 | 水稻 | 一七、八三三 | 二、六三三 | 三、四三七 | 二六、八三三 | 三、九〇三 |
| | 大豆 | 八、八〇八 | 四、四三三 | 一四、八〇八 | 三、八〇八 | 四、三三三 |
| 忠清北道 | 大豆 | 三、九三三 | 六二 | 一、五八一 | 三、四三三 | 五、七三三 |
| | 粟 | 三、九三三 | 一、九三三 | 二、九三三 | 四、八〇〇 | 九、七三三 |
| 忠清南道 | 大豆 | 一、三三三 | 三九 | 一、三三三 | 一、三三三 | 一、八〇八 |
| | 粟 | 一、三三三 | 三九 | 一、三三三 | 一、三三三 | 一、三三三 |

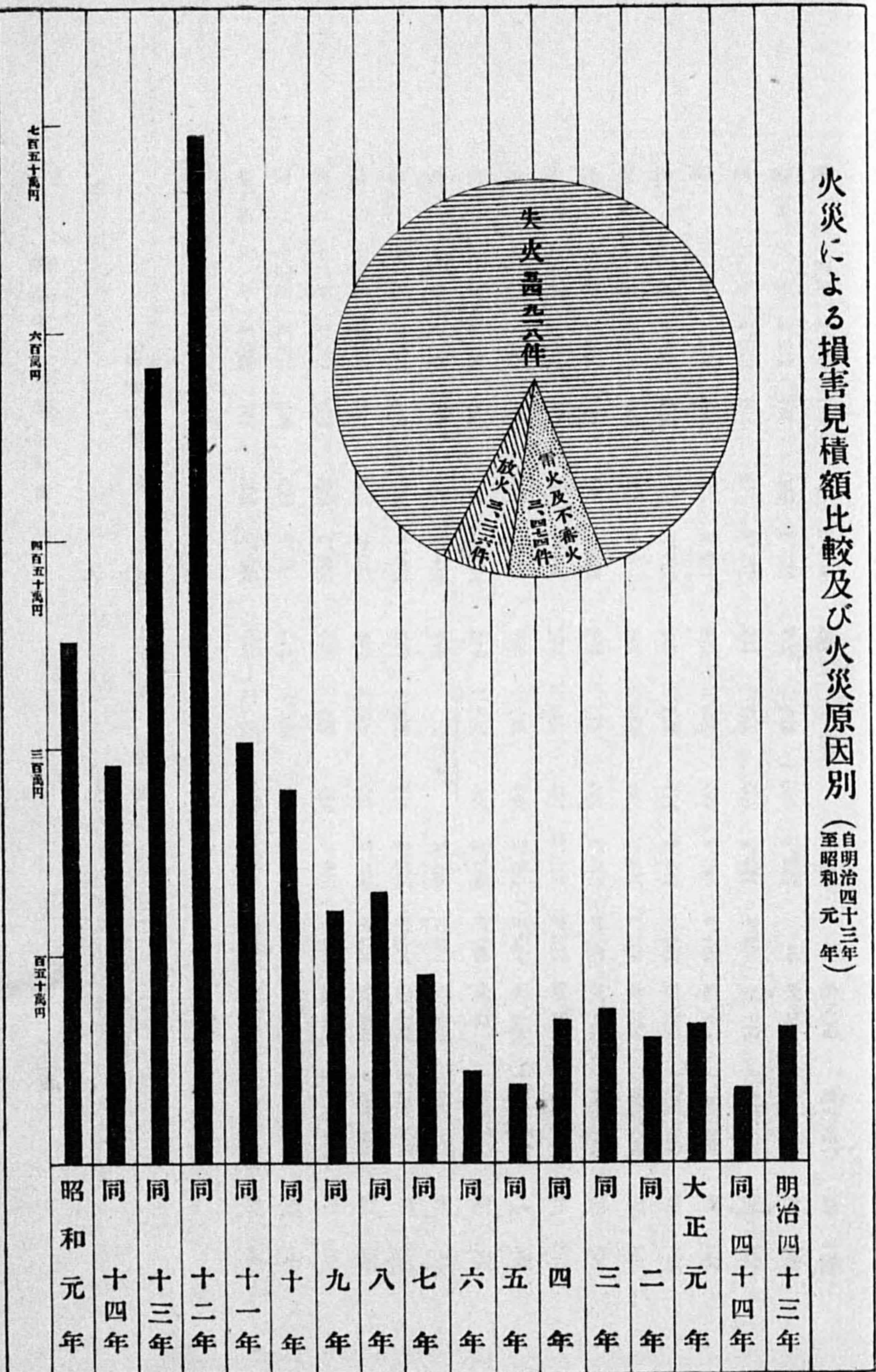
一年に比し約四倍の増加を示してゐる。斯く被害額の増加率が件数の増加率に比し著しく大きくなつたのは、物價騰貴に因る見積額の増加にも基くが、概して朝鮮に於ける一般經濟力の發達を示すものであらう。

火災に因る大正十五年の全鮮總被害は件數三、二四五、被害額三、八二七、四六五圓で、一件當り一七九圓となつて居る。その中被害件數の多いのは、京畿道の五四三件、慶尙北道の三八二件、慶尙南道、江原道の順であるが、その被害額では全羅南道の一、〇〇三、六一一圓が群を抜き、一件當り四、二七〇圓の多額を示し、京畿道の六一二、九〇一圓、一件當り一、二九圓がこれに亞いで居る。一年の中で最も火災件數の多いのは極寒時たる一、二月よりは寧ろ三、四月なのは注意すべきで五、六、七月と漸次減少し、八、九月が最も少く、十、十一、十二月と寒期に向ふに従ひ増加して居る。その原因は失火の三、二四五が殆んど大半で、その中温突の一、三四六が約四割を占め、竈の四一三、取灰の三八八の順である。温突の中では焚火に原因する四九四が筆頭で、煙突の四一三これに亞ぎ、朝鮮家屋がこれ等災害に對して頗る不完全なる事を示して居る。

自明治四十三年 至昭和元年 累年火災表 (種別)

| 年次 | 失火 | 放火 | 雷火及不審火 | 合計 | 延焼度數 | 不延焼度數 | 直ちに消止め | 戸數 | 棟數 | 坪數 | 積額(圓) | 死傷人員 |
|--------|-------|----|--------|----|-------|-------|--------|-------|--------|----|-------|------|
| 明治四十三年 | 二、一〇一 | 九 | 三、三六六 | 三三 | 一、九七三 | 二、八三三 | ? | 二、七三三 | 六三、三九九 | | | 三 |
| 昭和元年 | | | | | | | | | | | | 六 |

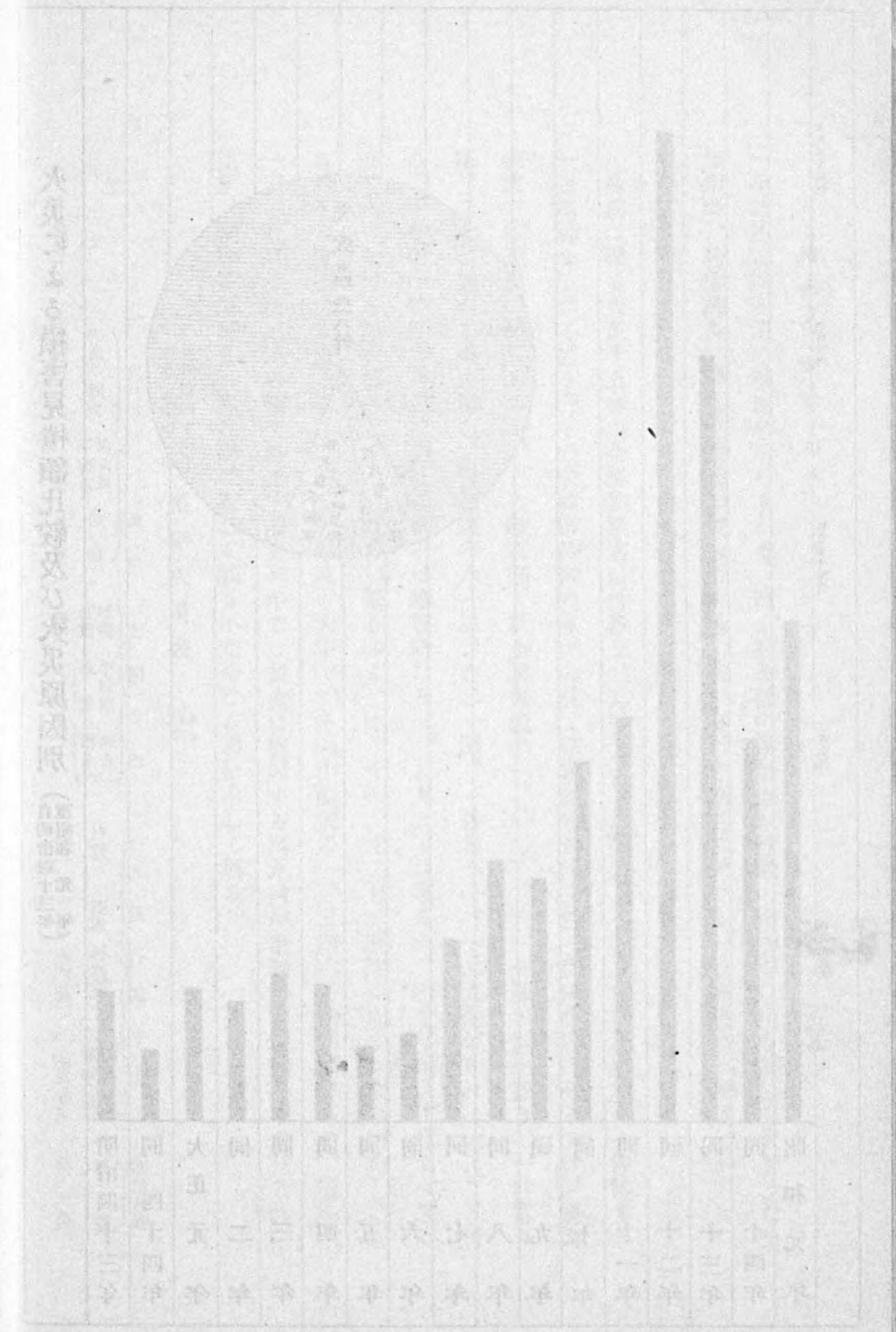
火災による損害見積額比較及び火災原因別 (自明治四十三年 至昭和元年)



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|------|------|-----|-----|------|-----|------|-------|------|------|-------|-------|----|
| 同 | 四十四年 | 三、九七 | 一三 | 八五 | 三、一〇 | 五八 | 二、六五 | 三、一四八 | ？ | 三、六七 | 五七、七八 | 五 | 一七 |
| 大正 | 元年 | 四、三六 | 一六〇 | 三、七 | 四、七三 | 九八 | 二、七三 | 一、〇三 | 七、三三 | ？ | 五、七 | 九七、五七 | 九 |
| 同 | 二年 | 四、〇六 | 一六 | 三、六 | 四、四四 | 六一 | 二、六 | 九七 | 五、四四 | 七、三三 | 三、七四 | 一〇 | 一八 |
| 同 | 三年 | 三、〇九 | 一 | 二、四 | 三、四一 | 五 | 三、〇八 | 八七 | 四、三三 | 五、七五 | 三、八四 | 一 | 一 |
| 同 | 四年 | 三、三六 | 二四 | 三、〇 | 三、七二 | 四九〇 | 二、四四 | 八八 | 四、三七 | 五、四六 | 三、六三 | 一、〇四 | 六 |
| 同 | 五年 | 二、〇〇 | 一九 | 三、四 | 三、三二 | 三六 | 二、〇七 | 八六 | 三、三 | 四、〇四 | 三、九 | 五八、八五 | 九 |
| 同 | 六年 | 三、五八 | 三三 | 一、七 | 三、九四 | 四四 | 二、六四 | 八六 | 四、二〇 | 五、七四 | 三、七六 | 六、二 | 一〇 |
| 同 | 七年 | 三、〇〇 | 一六 | 一、七 | 三、五六 | 四五 | 二、三 | 七八 | 四、〇三 | 五、〇八 | 四、〇二 | 一、三 | 一 |
| 同 | 八年 | 二、九〇 | 二〇 | 三、七 | 三、三 | 三三 | 一、九 | 七 | 四、〇 | 五、六 | 三、〇 | 一、九 | 一 |
| 同 | 九年 | 三、七 | 一七 | 二、九 | 二、四 | 四七 | 一、七 | 二八 | 三、二 | 三、八 | 七、八 | 一、八 | 一 |
| 同 | 十年 | 三、二 | 一八 | 二、五 | 三、五 | 五 | 三、〇 | 三、二 | 四、六 | 五、九 | 六、〇 | 二、六 | 一 |
| 同 | 十一年 | 三、四七 | 一四 | 二、四 | 三、八 | 五七 | 二、五 | 七五 | 四、七 | 五、八 | 五、〇 | 三、〇 | 一 |
| 同 | 十二年 | 三、二七 | 一〇 | 二、四 | 三、〇 | 四七 | 二、七 | 八 | 四、八 | 五、〇 | 四、五 | 三、〇 | 一 |
| 同 | 十三年 | 四、〇 | 一〇 | 二、四 | 四、五 | 六 | 三、九 | 七 | 五、七 | 七、〇 | 五、九 | 七、七 | 一 |
| 同 | 十四年 | 三、〇 | 一七 | 三、三 | 三、八一 | 六八 | 二、四 | 八 | 五、三 | 五、八 | 五、三 | 二、九 | 一 |
| 昭和 | 元年 | 三、二 | 一六 | 三、六 | 三、五 | 五五 | 二、二 | 六 | 五、三 | 六、六 | 七、七 | 三、八 | 一 |

大正十五年 火 災 表 (道別)

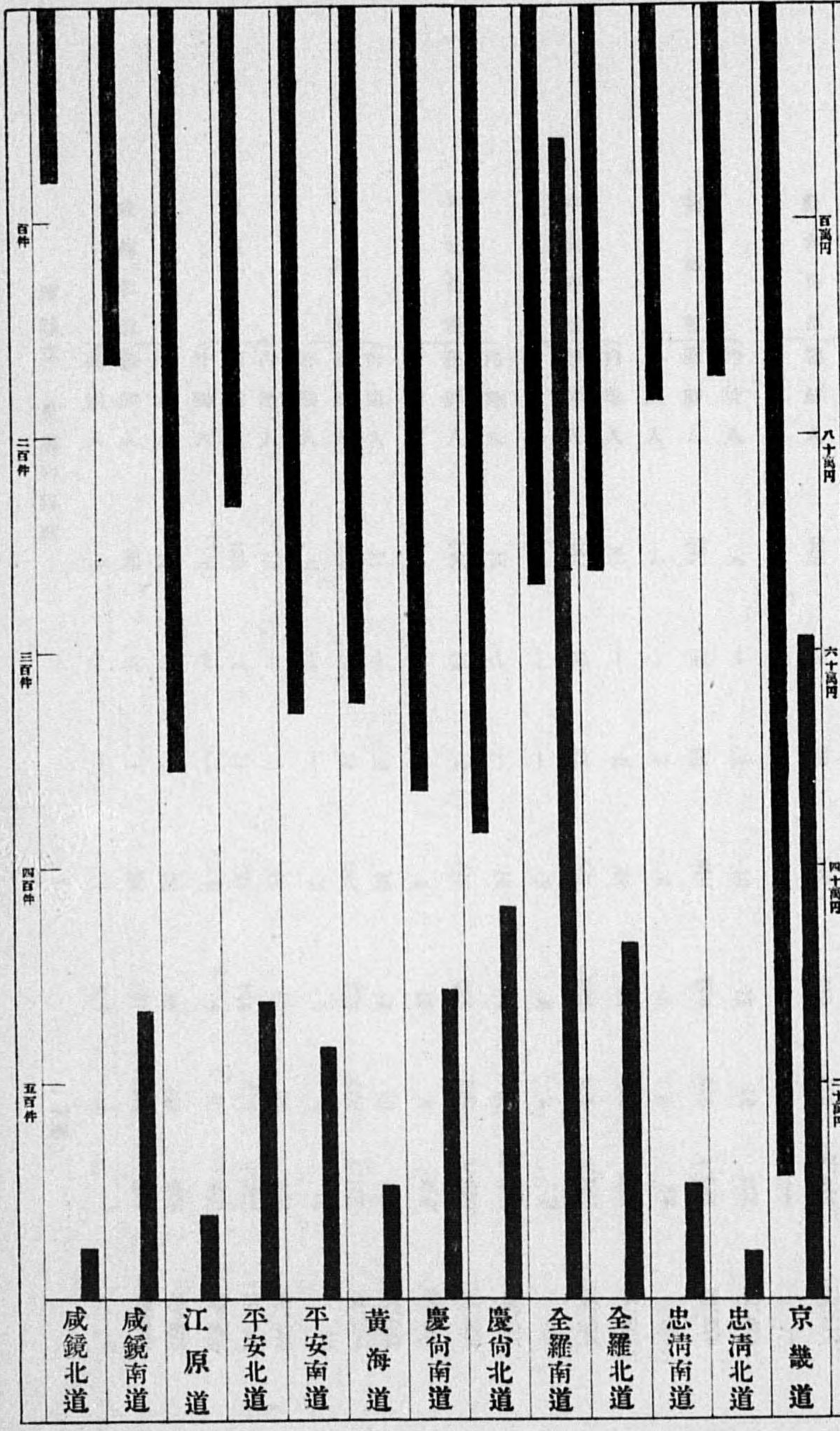
第三章 災害の程度



朝鮮の災害

| 道別 | 種別 | 火災の度 | | | 計 | 火災に罹りし戸数棟数坪数 | | | 損害見積額 |
|------|-----|------|----|--------|----|--------------|----|-----|--------|
| | | 失火 | 放火 | 雷火及不審火 | | 戸数 | 棟数 | 坪数 | |
| 京畿道 | 内地人 | 七 | 七 | 一五 | 二五 | 二〇 | 七 | 一七三 | 一三,一〇六 |
| | 朝鮮人 | 三 | 七 | 二 | 一二 | 五 | 二 | 一三三 | 四,三三三 |
| 忠清北道 | 内地人 | 四 | 一 | 一 | 六 | 七 | 四 | 一〇 | 一,七七一 |
| | 朝鮮人 | 一 | 一 | 一 | 三 | 八 | 一〇 | 一四 | 一,九七七 |
| 忠清南道 | 内地人 | 一 | 一 | 一 | 三 | 三 | 四 | 五 | 一,四八六 |
| | 朝鮮人 | 一 | 一 | 一 | 三 | 三 | 五 | 五 | 一,五三三 |
| 全羅北道 | 内地人 | 二 | 一 | 一 | 四 | 六 | 四 | 七 | 一,三三六 |
| | 朝鮮人 | 一 | 一 | 一 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一,〇〇〇 |
| 全羅南道 | 内地人 | 二 | 一 | 一 | 四 | 五 | 五 | 七 | 一,〇〇〇 |
| | 朝鮮人 | 一 | 一 | 一 | 三 | 三 | 三 | 三 | 一,〇〇〇 |
| 慶尙北道 | 内地人 | 一 | 一 | 一 | 三 | 三 | 三 | 三 | 一,〇〇〇 |
| | 朝鮮人 | 一 | 一 | 一 | 三 | 三 | 三 | 三 | 一,〇〇〇 |
| 慶尙南道 | 内地人 | 一 | 一 | 一 | 三 | 三 | 三 | 三 | 一,〇〇〇 |
| | 朝鮮人 | 一 | 一 | 一 | 三 | 三 | 三 | 三 | 一,〇〇〇 |

火災による損害見積額及び火災件数道別 (大正十五年度)



第三章 災害の程度

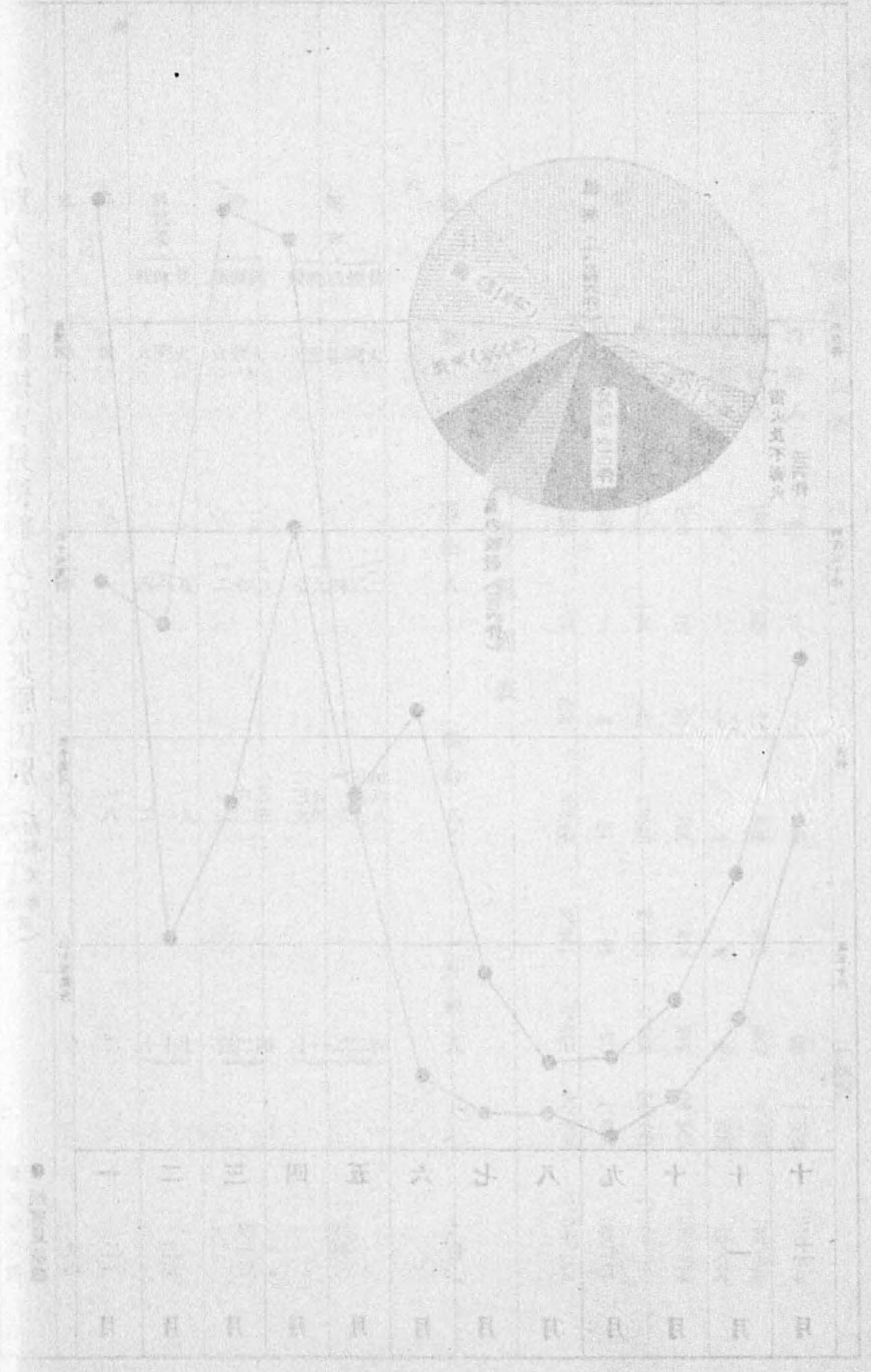
| 月 | 五月 | | | 六月 | | | 七月 | | | 八月 | | | 九月 | | | 十月 | | | 十一月 | | | | |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 内地 | 朝鮮 | 外地 | 内地 | 朝鮮 | 外地 | 内地 | 朝鮮 | 外地 | 内地 | 朝鮮 | 外地 | 内地 | 朝鮮 | 外地 | 内地 | 朝鮮 | 外地 | 内地 | 朝鮮 | 外地 | | |
| 失火 | 195 | 33 | 3 | 229 | 5 | 248 | 11 | 9 | 1 | 19 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 放火 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 雷火及不燃火 | 14 | 8 | 1 | 15 | 2 | 17 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 計 | 211 | 42 | 5 | 246 | 8 | 266 | 14 | 11 | 3 | 21 | 3 | 3 | 5 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| 戸數 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | |
| 棟數 | 2,011 | 711 | 711 | 2,011 | 711 | 711 | 2,011 | 711 | 711 | 2,011 | 711 | 711 | 2,011 | 711 | 711 | 2,011 | 711 | 711 | 2,011 | 711 | 711 | 711 | 711 |
| 坪數 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 |
| 損害見積額 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 |

| 月 | 一月 | | | 二月 | | | 三月 | | | 四月 | | | 總計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| | 内地 | 朝鮮 | 外地 | 内地 | 朝鮮 | 外地 | 内地 | 朝鮮 | 外地 | 内地 | 朝鮮 | 外地 | |
| 失火 | 195 | 33 | 3 | 229 | 5 | 248 | 11 | 9 | 1 | 19 | 1 | 1 | 211 |
| 放火 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 42 |
| 雷火及不燃火 | 14 | 8 | 1 | 15 | 2 | 17 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 計 | 211 | 42 | 5 | 246 | 8 | 266 | 14 | 11 | 3 | 21 | 3 | 3 | 266 |
| 戸數 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 3,111 | 1,111 | 1,111 | 11,441 |
| 棟數 | 2,011 | 711 | 711 | 2,011 | 711 | 711 | 2,011 | 711 | 711 | 2,011 | 711 | 711 | 7,771 |
| 坪數 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 1,111 | 11,441 |
| 損害見積額 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 3,111,000 | 1,111,000 | 1,111,000 | 11,441,000 |

第三章 災害の程度

| | | | | |
|--------|-----|------|----|------|
| 取灰 | 一六 | 三七五 | 一 | 三八八 |
| 爐火 | 九 | 八九 | 一 | 一五 |
| 焚火 | 九 | 八九 | 一 | 一〇一 |
| 燈火 | 一四 | 三五 | 二 | 五一 |
| 炬燵 | 二六 | 五 | 一 | 三一 |
| 其の吸殻 | 三三 | 二〇二 | 一 | 二六 |
| 消炭 | 一五 | 七 | 一 | 一三 |
| 火藥 | 一九 | 二二三 | 一 | 二五二 |
| 弄火 | 二 | 九 | 一 | 一一 |
| 鍛冶工場 | 二 | 九 | 一 | 一一 |
| 汽車煙突 | 七 | 三七 | 二 | 三九 |
| 燐火を弄し | 七 | 一〇四 | 一 | 一一 |
| 製造所煙突 | 四 | 九 | 一 | 一三 |
| 其他 | 三六 | 三五 | 五 | 七六 |
| 計 | 三三三 | 二八八六 | 三六 | 三二四五 |
| 放火 | 一五 | 一七三 | 一 | 一八八 |
| 雷火及不審火 | 三〇 | 一九二 | 四 | 二二六 |
| 總計 | 三六八 | 三二五一 | 四〇 | 三六五九 |

第四章 災害の影響



| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 火災 | 368 | 325 | 365 |
| 水害 | 30 | 12 | 26 |
| 地震 | 15 | 15 | 15 |
| その他 | 333 | 288 | 324 |
| 合計 | 746 | 530 | 730 |
| 火災 | 26 | 8 | 34 |
| 水害 | 14 | 3 | 17 |
| 地震 | 1 | 1 | 2 |
| その他 | 102 | 102 | 102 |
| 合計 | 42 | 13 | 55 |
| 火災 | 1 | 1 | 2 |
| 水害 | 1 | 1 | 2 |
| 地震 | 1 | 1 | 2 |
| その他 | 102 | 102 | 102 |
| 合計 | 4 | 4 | 8 |
| 火災 | 1 | 1 | 2 |
| 水害 | 1 | 1 | 2 |
| 地震 | 1 | 1 | 2 |
| その他 | 102 | 102 | 102 |
| 合計 | 4 | 4 | 8 |

第四章 災害の影響

朝鮮に於ける各種自然災害の種類及び程度等は既に叙述したから、これによりて災害に基く損失は知ることが出来るが、災害に依りて財政上並に經濟上各方面に及ぼす影響は決して尠少でないのである。或は旱害の如き、或は水害の如き、その被害の激烈にして範圍の廣大なるものにおいては、これが爲めに貿易、取引、物價、勞銀に影響を及ぼし、または移住出稼者の増加を來す等、その關係する所は頗る甚大である。然しながら殆んど年中行事の如くに繰り返さる、朝鮮の旱害及び水害に就き、これ等の微妙なる經濟的影響を一々茲に説明することは至難の業であるが、今試みに災害の影響中、比較の見易き數種の事例を擧げて概説しやうと思ふ。

荒地面積

災害に基く土地の荒廢は年々尠からざる面積に達するが、大正元年より同六年に至る六箇年間の調査では、大正六年の被害が最も多く、山崩十一萬一千餘結、押掘三十二萬九千餘結、覆砂三百九萬七千餘結、川成二百二十一萬一千餘結、海成四萬二千餘結、湖水成一萬七千餘結、その他九十萬六千餘結、合計六百七十一萬六千餘結の荒地面積に上り、これに基く地稅收入の免除額は三萬七千四百八十

五圓に達して居る。その後は調査の方法を異にしたるも、災害に依りて荒地面積は年々増加の傾向あり、昭和元年に於ては、地稅施行地の荒地六萬七千五百六十三町歩、その地稅免除額二十六萬三千九百四十五圓、市街地稅施行地の荒地九十一町歩、この市街地稅免除額六百八十八圓に達して居る。

災害に基き、土地荒蕪地、現在、在る面積に對するは、大正元年より同六年に至る六箇年間の間

| 年 | 結 | | | | | | | 地稅免除額 |
|------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | 山崩 | 押堀 | 覆砂 | 川成 | 海成 | 湖水成 | 其他 | |
| 大正元年 | 13,000 | 14,000 | 6,000 | 3,900 | 6,200 | 3,100 | 1,100 | 1,100 |
| 大正二年 | 18,500 | 14,000 | 5,000 | 3,900 | 9,300 | 2,600 | 2,700 | 1,100 |
| 大正三年 | 20,600 | 12,800 | 1,700 | 1,200 | 3,400 | 8,300 | 7,500 | 1,100 |
| 大正四年 | 20,200 | 10,500 | 2,300 | 1,600 | 5,300 | 2,800 | 9,700 | 1,100 |
| 大正五年 | 23,200 | 13,700 | 2,600 | 2,000 | 3,600 | 3,300 | 11,700 | 1,100 |
| 大正六年 | 22,000 | 13,900 | 3,000 | 2,300 | 4,000 | 3,700 | 9,700 | 1,100 |
| 大正七年 | 22,000 | 13,900 | 3,000 | 2,300 | 4,000 | 3,700 | 9,700 | 1,100 |
| 大正八年 | 13,000 | 9,500 | 900 | 400 | 400 | 400 | 400 | 1,100 |
| 大正九年 | 15,300 | 13,600 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,100 |
| 大正十年 | 15,700 | 12,200 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,100 |
| 合計 | 170,000 | 100,000 | 20,000 | 15,000 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 1,100 |

荒地 現在

(市街地稅令施行地)

| 年 | 田(畑) | 畑(宅地) | 池沼 | 雑種地 | 合計 | 地稅免除額 |
|--------|-------|-------|-----|-----|-------|-------|
| 大正七年末 | 2,000 | 1,000 | 500 | 500 | 3,500 | 3,500 |
| 大正八年末 | 2,000 | 1,000 | 500 | 500 | 3,500 | 3,500 |
| 大正九年末 | 2,000 | 1,000 | 500 | 500 | 3,500 | 3,500 |
| 大正十年末 | 2,000 | 1,000 | 500 | 500 | 3,500 | 3,500 |
| 大正十一年末 | 2,000 | 1,000 | 500 | 500 | 3,500 | 3,500 |
| 大正十二年末 | 2,000 | 1,000 | 500 | 500 | 3,500 | 3,500 |
| 大正十三年末 | 2,000 | 1,000 | 500 | 500 | 3,500 | 3,500 |
| 大正十四年末 | 2,000 | 1,000 | 500 | 500 | 3,500 | 3,500 |
| 昭和元年末 | 2,000 | 1,000 | 500 | 500 | 3,500 | 3,500 |

災害費、災害救濟費

朝鮮總督府の災害費及び災害救濟費として特別會計より支出した金額は過去十七年間に三千三百九

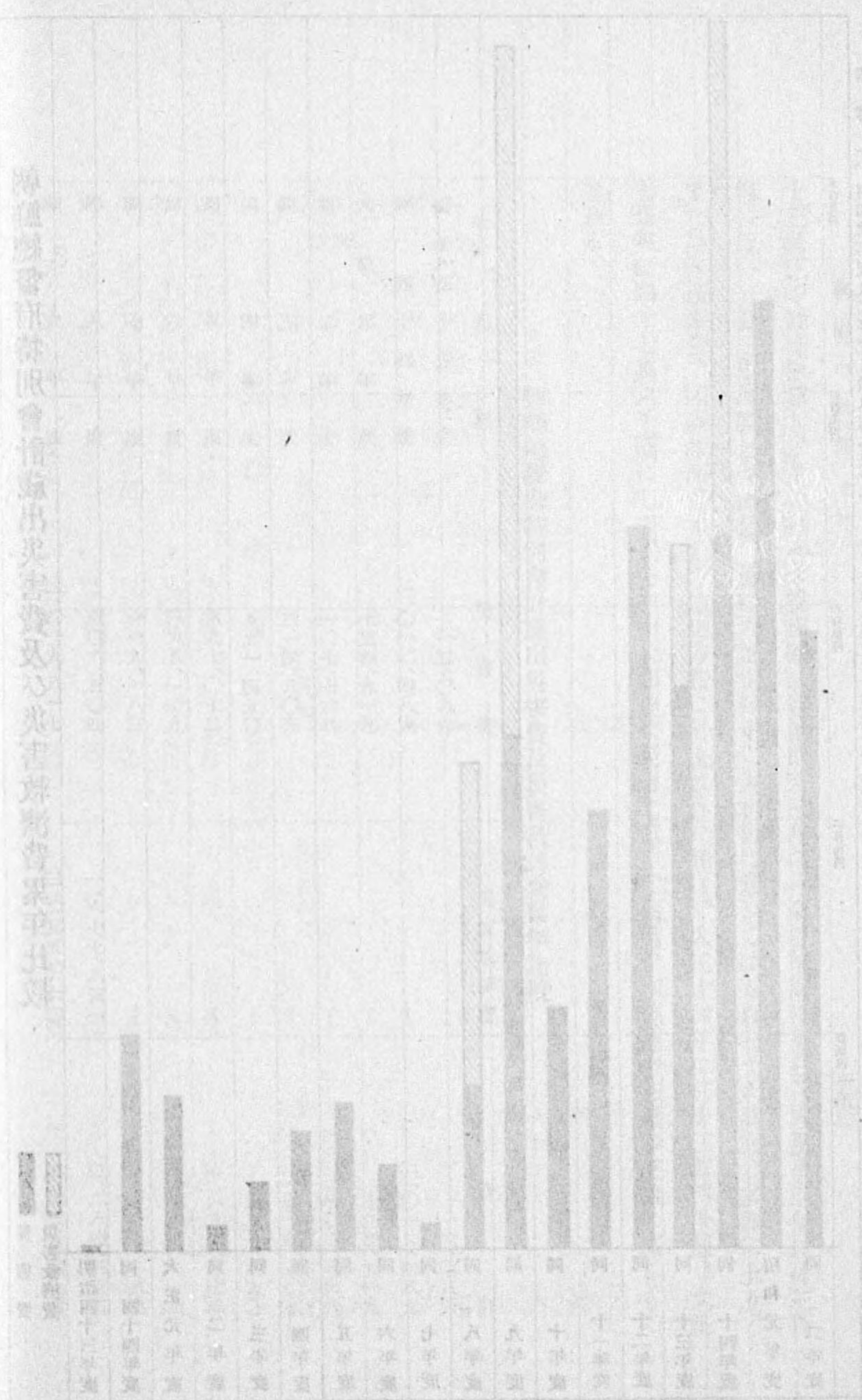
| 道名 | 道路橋梁災害復舊費 | | 治下水災災害復舊費 | | 凶歉救済費 | | 合計 | |
|------|-----------|-------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 大正十五年 | 大正十四年 | 大正十五年 | 大正十四年 | 大正十五年 | 大正十四年 | 大正十五年 | 大正十四年 |
| 京畿道 | 三、八七〇 | 六、四六〇 | — | — | 三、八七〇 | 一、五二九 | 七、三九〇 | 五、九八八 |
| 忠清北道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 忠清南道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 全羅北道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 全羅南道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 慶尙北道 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 合計 | 三、八七〇 | 六、四六〇 | — | — | 三、八七〇 | 一、五二九 | 七、三九〇 | 五、九八八 |

第四章 災害の影響

道地方費歳出災害費及災害救済費二箇年度比較 (豫算)

| 道名 | 大正十五年 | 大正十四年 |
|------|-----------|-----------|
| 京畿道 | 一、九二〇、〇〇〇 | 一、九二〇、〇〇〇 |
| 忠清北道 | — | — |
| 忠清南道 | — | — |
| 全羅北道 | — | — |
| 全羅南道 | — | — |
| 慶尙北道 | — | — |
| 合計 | 一、九二〇、〇〇〇 | 一、九二〇、〇〇〇 |

備考 一、昭和元年及二年度は豫算額を示す。二、災害救済費は全部早害に對するものなり。



| | | | | | | | | |
|------|--------|--------|--|-------|--------|--------|--------|--------|
| 慶尚南道 | 10,000 | 10,000 | | | 8,500 | 8,310 | 18,810 | 18,810 |
| 黄海道 | | | | | 6,100 | 6,318 | 12,418 | 6,318 |
| 平安南道 | 10,000 | 5,000 | | 1,300 | 5,500 | 5,800 | 11,600 | 11,300 |
| 平安北道 | | | | | 6,000 | 5,700 | 11,700 | 5,700 |
| 江原道 | 1,500 | | | | 6,300 | 6,000 | 12,300 | 6,000 |
| 咸鏡南道 | 5,000 | | | | 5,000 | 5,000 | 10,000 | 5,000 |
| 咸鏡北道 | | | | | 3,100 | 3,800 | 6,900 | 3,800 |
| 總計 | 30,500 | 15,000 | | 1,300 | 46,500 | 50,600 | 97,100 | 50,600 |

地方土木費

地方土木費には毎年災害による事業費として總事業費の一割内外を計上してゐるが、その額は明治四十四年には十五萬圓であつたものが、通常事業費の膨脹と共に昭和元年には二百四十五萬五千餘圓に上り、この間に於ける増加率は實に十五倍を越ゆる有様である。またその總事業費に對する災害事業費の百分比を見るに、明治四十四年には七パーセントであつたものが、昭和元年には十三パーセントに達し、金額、比率とも漸次増加の傾向にある。災害事業費中最も多額を占むるものは道事業に係るもの、約五割にして、通常費の三割に當り、これに亞ぐは水利組合事業、面事業に係る災害事業費であるが、大正十三年の如きは、私人の災害事業費も百五十餘萬圓の多きに上つたのである。最近數

年間を通じ最も多額の災害事業費を支出せるは、大正十四年の水害に係る二百九十二萬餘圓で、總事業費の二割に近く、その中約百九萬圓は水利組合事業として支出したものである。

更に昭和元年度の各道別災害事業費では、その最も多き京畿道の七十四萬九千餘圓は總災害事業費の約三割を占め、最も少いのは咸鏡北道の六千圓で、總事業費の僅か八厘に過ぎない。